

令和7年度大規模災害時北海道ブロック協議会に  
係る災害廃棄物対策に関する調査検討業務

報 告 書

令和8年3月

環境省北海道地方環境事務所



## 目 次

1. 業務概要	1
1.1 業務の名称	1
1.2 業務の目的	1
1.3 履行期間	1
1.4 受託者	1
1.5 業務内容	2
2. ブロック協議会の開催	3
2.1 ブロック協議会の開催概要	3
2.2 ブロック協議会の議事要旨	4
3. ブロック協議会終了後の人材育成事業	6
3.1 人材育成事業の実施概要	6
3.2 人材育成事業の実施結果	9
3.2.1 第20回ブロック協議会終了後の人材育成事業実施結果	9
3.2.2 第20回ブロック協議会終了後の人材育成事業アンケート結果	12
3.2.3 第21回ブロック協議会終了後の人材育成事業実施結果	16
3.2.4 20回ブロック協議会終了後の人材育成事業アンケート結果	18
4. エリア分科会の開催	23
4.1 エリア分科会の開催概要	23
4.2 エリア分科会の議事要旨	25
5. エリア分科会終了後の人材育成事業	28
5.1 人材育成事業の実施概要	28
5.2 人材育成事業の実施結果	31
5.2.1 エリア分科会終了後の人材育成事業実施結果	31
5.2.2 エリア分科会終了後の人材育成事業アンケート結果	33
6. 災害廃棄物処理基礎講座の開催	37
6.1 災害廃棄物処理基礎講座の実施概要	37
6.2 災害廃棄物処理基礎講座の実施結果	39
7. 仮置場WGの開催	41
7.1 仮置場WGの実施概要	41
7.2 仮置場WGの実施結果	43
7.2.1 第1回仮置場WG	43
7.2.2 第2回仮置場WG	47
8. 仮置場設置訓練の開催	50
8.1 仮置場設置訓練の実施概要	50
8.1.1 開催時期と場所	50
8.1.2 訓練対象	50
8.1.3 想定災害	50

8.1.4	事前勉強会	50
8.1.5	仮置場設置運営訓練	50
8.2	仮置場設置訓練の実施結果	51
8.2.1	事前勉強会の開催	51
8.2.2	仮置場設置訓練（旭川市会場）	52
8.2.3	仮置場設置訓練（美幌町会場）	65
8.2.4	仮置場設置訓練（共和町会場）	72
9.	連携強化 WG の開催	81
9.1	連携強化 WG の実施概要	81
9.2	連携強化 WG の実施結果	83
9.2.1	第1回連携強化 WG	83
9.2.2	第2回連携強化 WG	85
10.	災害廃棄物処理セミナーの開催	86
10.1	災害廃棄物処理セミナーの開催概要	86
10.2	災害廃棄物処理セミナーの開催結果	89
11.	計画策定・改定 WG の開催	99
11.1	計画策定・改定 WG の実施概要	99
11.2	計画策定・改定 WG の実施結果	102
11.2.1	事前アンケート	102
11.2.2	計画策定・改定 WG での質問、意見	104
11.2.3	事後アンケート	107
11.3	計画策定・改定に関する課題及び解決方策	110
12.	検討事項等	111
12.1	エリアごとの課題抽出および対応策の検討	111
12.2	次期ビジョン・ロードマップ案の検討	112
12.2.1	次期ビジョンの検討	112
12.2.2	次期ロードマップの検討	115
12.3	ブロック行動計画の更新事項の検討	116

## 資料編

- 資料 1 大規模災害時廃棄物対策ブロック協議会資料
- 資料 2 ブロック協議会終了後の人材育成事業資料
- 資料 3 エリア分科会資料
- 資料 4 エリア分科会終了後の人材育成事業資料
- 資料 5 災害廃棄物処理基礎講座資料
- 資料 6 仮置場 WG 資料
- 資料 7 仮置場設置訓練資料
- 資料 8 連携強化 WG 資料
- 資料 9 災害廃棄物処理セミナー資料
- 資料 10 計画策定・改定 WG 資料

# 1. 業務概要

---

## 1.1 業務の名称

令和7年度大規模災害時北海道ブロック協議会に係る災害廃棄物対策に関する調査検討業務

## 1.2 業務の目的

環境省では、平成27年11月に策定した「大規模災害発生時における災害廃棄物対策行動指針」で地域ブロックでの行動計画の策定とそのための連携のあり方等について示した。

これを踏まえ、北海道地方環境事務所では、大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会を設置した。

さらに、令和4年度には、ブロック協議会を災害時の廃棄物対策のプラットフォームにするため道内を4つのエリアに分け、全市町村参加のエリア分科会を設けるとともに、これに伴い、平成29年3月に策定した「大規模災害時における北海道ブロック災害廃棄物対策行動計画（第1版）」を改定している。

本年度は、ブロック協議会及びエリア分科会の活動を全道に浸透させることや、運営を通じた構成員間の連携強化、人材育成、令和2年度ブロック協議会で策定した5年後までのロードマップに基づく各種検討等を行う。

また、ブロック協議会に設置するワーキンググループ（以下「WG」という。本年度については、災害廃棄物処理に必要な仮置場設置に係るWG、自治体間及び自治体と民間事業者間の連携強化を図るためのWG及び災害廃棄物処理計画の策定・改定に係るWG。）を運営し、課題の抽出及び検討、課題解決のための訓練やセミナーを開催することにより北海道ブロック内自治体の災害廃棄物対応の実効性向上を図ることを目的とする。

## 1.3 履行期間

令和7年4月22日～令和8年3月13日

## 1.4 受託者

アジア航測 株式会社

北海道支店

〒064-0952 札幌市中央区宮の森2条1丁目7番2号 宮の森KLビル

TEL : 011-214-0770 FAX : 011-613-7618

## 1.5 業務内容

本業務の内容及び本報告書における章番号を表 1.5-1 に示す。

表 1.5-1 業務内容

項目		概要	章番号
[1] ブロック協議会	ブロック協議会の開催	・ブロック協議会の開催（2時間×2回） ・オンライン併用	2
	ブロック協議会終了後の人材育成事業	・ワークショップ形式の図上演習（3時間×2回） ・オンライン併用 ・アンケートの実施、取りまとめ	3
	検討事項等	・エリアごとの課題抽出および対応策の検討等	12
[2] エリア分科会	エリア分科会の開催	・エリア分科会4回（各エリア1回 2時間×4エリア） ・オンライン併用	4
	エリア分科会終了後の人材育成事業	・ワークショップ形式の図上演習4回（各エリア1回 2時間×4エリア） ・オンライン併用 ・アンケートの実施、取りまとめ	5
	災害廃棄物処理基礎講座の開催	・4回（各エリア1回 1時間×4エリア） ・災害廃棄物処理に関する初任者を対象に、基礎的知識を習得するための講義	6
[3] 仮置場	仮置場WGの開催	・仮置場WGメンバーによるWG開催（2時間程度×2回）、概要とりまとめ ・オンライン開催	7
	仮置場設置訓練の実施	・事前勉強会2時間×3回（オンライン開催）、実地訓練6時間（10：00～16：00）×3回 ・アンケートの実施、取りまとめ	8
[4] 連携	連携強化WGの開催	・連携強化WGメンバーによるWG開催（2時間程度×2回）、概要とりまとめ ・オンライン開催	9
	災害廃棄物処理セミナーの開催	・1回開催、4講座（4時間以上） ・道内自治体等の災害廃棄物対策担当職員、災害時支援協定の対象となりうる民間事業者を対象 ・オンライン併用	10
[5] 計画	計画策定・改定WGの開催	・計画策定・改定WGメンバーのWG開催（2時間程度×4回）、計画策定・改定に関する課題及び解決方法の取りまとめ ・各メンバーの個別課題への対応 ・オンライン開催	11
[6] 業務報告書の作成		・報告書（A4判 150頁程度、DVD-Rに収録） 269部 プリントアウトしたもの2部 ・報告書概要版（A4判 10頁程度、報告書のDVD-Rに収録） 269部 プリントアウトしたもの2部 ・報告書、概要版の送付 256カ所	-

## 2. ブロック協議会の開催

北海道ブロックにおいて、災害時の廃棄物対策について情報共有を行うとともに、大規模災害時の廃棄物対策に関する広域的な連携等について検討することを目的として、大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会（以下、ブロック協議会）を開催した。

### 2.1 ブロック協議会の開催概要

ブロック協議会は、表 2.1-1、表 2.1-2 に示す日程、議題で開催した。

当日の資料は、資料編に整理した。

表 2.1-1 ブロック協議会（第 20 回）の開催概要

開催日時	令和 7 年 6 月 24 日（火） 10:00～12:00
開催場所	北海道中小企業会館 C・D 会議室[オンライン併用]
議 事	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 5 年後のビジョンの実現に向けたロードマップについて</li> <li>(2) ブロック行動計画の一部改訂について</li> <li>(3) エリア分科会への情報提供について</li> <li>(4) ワーキンググループについて</li> <li>(5) その他</li> </ul> 
参加者	構成員 18 名、随行者 6 名

表 2.1-2 ブロック協議会（第 21 回）の開催概要

開催日時	令和 8 年 2 月 10 日（火） 10:00～12:00
開催場所	北海道中小企業会館 A・B 会議室[オンライン併用]
議 事	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和 7 年度エリア分科会の開催報告</li> <li>(2) 令和 7 年度ワーキンググループ等の活動報告</li> <li>(3) 北海道ブロック行動計画の一部改訂について</li> <li>(4) 北海道ブロックのビジョン・ロードマップの改定について</li> <li>(5) 次年度の活動計画について</li> <li>(6) その他</li> </ul> 
参加者	構成員 18 名、随行者 12 名

## 2.2 ブロック協議会の議事要旨

ブロック協議会の議事要旨を表 2.2-1、表 2.2-2 に示す。

詳細は資料編に整理した。

表 2.2-1 ブロック協議会（第 20 回）の議事要旨

<p>(1) 5年後のビジョンの実現に向けたロードマップについて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・事務局より5年後のビジョンの実現に向けたロードマップの進捗状況の確認について説明した。</li><li>・ロードマップの計画策定では後任への引継ぎが重要であること、人材育成は相互連携とも関係しており平時からのコミュニケーションが大事であることが意見として挙げられた。</li></ul> <p>(2) ブロック行動計画の一部改訂について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・事務局より能登半島地震等の近年の災害発生及び災害廃棄物処理状況、ブロック行動計画の一部改訂について説明した。</li><li>・災害対応の知見をもとに行動計画を改訂することに賛成の意見があった。</li><li>・処理施設の処理能力を超えることを想定した対応、離島での対応について検討することが挙げられた。</li></ul> <p>(3) エリア分科会への情報提供について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・事務局より昨年度エリア分科会でのご意見と、今年度のエリア分科会・WG への情報提供について説明し、意見交換が行われた。</li><li>・各エリアが主体的に活動できるように促す必要があると意見があった。</li></ul> <p>(4) ワーキンググループについて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・事務局よりワーキンググループの開催について説明した。</li><li>・参加を促す募集方法について提案があった。</li></ul> <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・特段の報告事項なし。</li></ul>
--

表 2.2-2 ブロック協議会（第 21 回）の議事要旨

(1) 令和 7 年度エリア分科会の開催報告

- ・事務局より令和 7 年度エリア分科会の開催報告について説明し、意見交換が行われた。
- ・計画の必要性の意識醸成や、市町村職員の異動による初任者への対応の必要性について意見が挙げられた。

(2) 令和 7 年度ワーキンググループ等の活動報告

- ・事務局より令和 7 年度ワーキンググループ等の活動報告について説明し、意見交換が行われた。
- ・平時のコミュニケーションの重要性や、ワーキンググループで得られた知見の集積の必要性について意見が挙げられた。

(3) 北海道ブロック行動計画の更新について

- ・事務局より北海道ブロック行動計画の更新について説明し、承諾された。

(4) 北海道ブロックのビジョン・ロードマップの改定について

- ・事務局より北海道ブロックのビジョン・ロードマップの改定について説明し、意見交換が行われた。
- ・ブロック行動計画と市町村職員の実務とのギャップを埋める方策の必要性について意見が挙げられた。

(5) 次年度の活動計画について

- ・事務局より次年度の活動計画について説明し、意見交換が行われた。

(6) その他

- ・特段の報告事項なし。

### 3. ブロック協議会終了後の人材育成事業

ブロック協議会終了後に、構成団体職員を対象として、ワークショップ形式の人材育成事業を実施した。

#### 3.1 人材育成事業の実施概要

人材育成事業は、表 3.1-1、表 3.1-2 に示す日程、テーマで実施した。ワークショップ実施にあたり、関連する内容について話題提供を行った。ワークショップの内容は表 3.1-3～表 3.1-8 のとおりである。なお、当日の資料は資料編に整理した。

表 3.1-1 ブロック協議会（第 20 回）終了後の人材育成事業の実施概要

開催日時	令和 7 年 6 月 24 日（火） 13:00～16:00
開催場所	北海道中小企業会館 C・D 会議室
講演	北海道胆振東部地震における災害廃棄物対応 能登半島地震における対応の事例紹介（講師：安平町役場税務住民課 村山主幹）
ワークショップのテーマ	①災害廃棄物発生量・仮置場面積の概算 ②一次仮置場の選定 ③一次仮置場までの片付けごみの収集運搬
参加人数	計 13 名（計 3 班） （市町村 5 自治体、道・振興局 4 局、民間団体 2 団体） ※講師、事務局を除く

表 3.1-2 ブロック協議会（第 21 回）終了後の人材育成事業の実施概要

開催日時	令和 8 年 2 月 10 日（火） 13:00～16:00
開催場所	北海道中小企業会館 A・B 会議室[オンライン併用]
話題提供	初動対応、仮置場設置に関する話題提供
ワークショップのテーマ	河川氾濫を想定した状況付与型演習
参加人数	計 13 名（計 2 班） （市町村 5 自治体、道・振興局 2 局、民間団体 1 団体） ※事務局を除く

表 3.1-3 第 20 回ブロック協議会終了後人材育成事業 講演

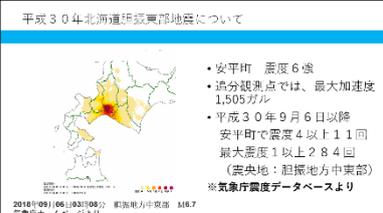
演題	北海道胆振東部地震における災害廃棄物対応 能登半島地震における対応の事例紹介
講演者	安平町役場税務住民課 村山主幹
主な内容	
(1) 平成 30 年北海道胆振東部地震について (2) 安平町の災害廃棄物（片付けごみ） (3) 能登半島地震における仮置場（石川県志賀町）	<当日の資料抜粋>  <p>平成 30 年北海道胆振東部地震について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安平町 震度 6 強</li> <li>遠分観測点では、最大加速度 1,505ガル</li> <li>平成 30 年 9 月 6 日以降 安平町で震度 4 以上 11 回 最大震度 1 以上 284 回 (震源地：胆振地方中東部)</li> </ul> <p>※気象庁震度データベースより</p>

表 3.1-4 第 20 回ブロック協議会終了後人材育成事業 ワークショップ

①災害廃棄物発生量・仮置場面積の概算

河川の氾濫による水害で、概算の浸水戸数のみ判明している状態で、災害廃棄物量の推計を行い、推計量をもとに必要な仮置場面積を算出した。

<当日の資料抜粋>

演習 1: 災害廃棄物発生量・仮置場面積の概算

■市の災害廃棄物担当職員として、河川氾濫による洪水の被災直後で被災戸数が概算で判明した時点で、発生する片付けごみ量、及び片付けごみ用仮置場の面積について、推計してください。



演習 1: 災害廃棄物発生量・仮置場面積の概算

【片付けごみ量の算定手法】

建物解体による廃棄物量  
 片付けごみ、公物等

$$Y = Y_1 + Y_2$$

災害廃棄物全体量

片付けごみ量 (トン)

$$Y_2 = c \times (X_1 + X_2 + X_3 + X_4 + X_5 + X_6 + X_7)$$

片付けごみ発生量単位 (トン/棟)  
 地震 2.5 (トン/棟)  
 水害 土砂災害 - 1.7 (トン/棟)

X: 建物被害棟数 (棟)

X1: 住家全壊	X2: 非住家全壊
X3: 住家半壊	X4: 非住家半壊
X5: 住家一部破損	X6: 床上浸水
X7: 床下浸水	

表 3.1-5 第 20 回ブロック協議会終了後人材育成事業 ワークショップ

②一次仮置場の選定

仮置場候補地の中から、演習①で算出した仮置場必要面積及び、立地条件等を勘案し、適切な仮置場の選定を検討して、検討概要を発表した。

<当日の資料抜粋>

演習 2: 一次仮置場の選定

資料 3: 仮置場候補地のリスト

名称	施設等	所有権	面積(㎡)	計画用途	備考	お問い合わせ先
A	市民センター-福祉車庫	市	3,000 (敷地面積) 12,000 (敷地面積)	2 福祉車庫 3 倉庫	文化センター アスファルト舗装 園形駐車庫 使用可能	
B	市民会館有線駐車場	市	11,000	4 有線車庫 5 広域 (中央公園側)	アスファルト舗装 車止めなし 雑草多量あり	
C	石川町運動公園 野球場 サッカー場	市	260,000	2 野球場 3 野球場 4 アスファルト舗装	芝生	
D	旭東運動公園	旭東町	16,000	4 有線車庫 5 雑草	アスファルト舗装 車止めなし	
E	市民公園運動広場	市	7,000 (敷地面積) 3,000 (雑草面積) 3,000 (野球場)	1 有線車庫 2 雑草	運動広場 芝生 外周部: 散水可能 雑草: 30%程度 車止めなし	
F	市民会館駐車場 少年野球場	市	7,000 (敷地面積) 9,000 (少年野球場)	1 有線車庫 2 雑草	雑草	
G	市民公園公園	市	15,000	2 有線車庫 3 雑草	芝生 外周部: 雑草 樹木あり	

演習 2: 一次仮置場の選定

【仮置場選定に当たっての留意事項 (例)】

- ✓ 公有地が望ましい
- ✓ 病院・福祉施設・学校等の周辺や、避難所・仮設住宅 (予定地)、災害支援活動拠点などの近傍は避けたい
- ✓ 起伏のない平坦地が望ましく、変則形状の土地は避けたい
- ✓ 河川敷、浸水想定区域等でない方が望ましい
- ✓ 前面道路は大型車が通行可能な幅員 6.0m 以上が望ましい

【仮置場選定の観点】

- ✓ 必要な広さが確保されているか
- ✓ 土地の状態 (舗装の有無: 舗装されている方が望ましい)
- ✓ 搬入ルートが確保されているか
- ✓ 被災エリアからの距離 (遠すぎないか)
- ✓ 散水などに使用する水・電力が確保できるか

表 3.1-6 第 20 回ブロック協議会終了後人材育成事業 ワークショップ  
③一次仮置場までの片付けごみの収集運搬

街中から一次仮置場までの片付けごみの収集運搬方法を 2 通り示し、それぞれのメリットデメリットについて議論して、議論の結果を発表した。

< 当日の資料抜粋 >

**演習 3：一次仮置場までの片付けごみの収集運搬**

被災箇所から一次仮置場までの収集運搬方法 ①もしくは②について、メリットとデメリットとして思いついたことを付箋に書いて、貼っていきください。できるだけ具体的に！

次に、班としてどちらを選択するか決めてください。

方法	メリット	デメリット	運搬体制・留意事項
①	ごみを出しやすい		
②		小規模だとすぐに満杯となる	

**演習 3：一次仮置場までの片付けごみの収集運搬**

選択した収集運搬方法を採用する場合の**収集運搬体制**と、その場合の**留意事項**について、意見交換をしてください。

方法	メリット	デメリット	運搬体制・留意事項
①	ごみを出しやすい		本事業による仮置場
②		小規模だとすぐに満杯となる	建設状況によっては、対応が必要

表 3.1-7 第 21 回ブロック協議会終了後人材育成事業 話題提供

初動対応、仮置場設置に関する話題提供を事務局より行った。

< 当日の資料抜粋 >

**災害の種類による災害廃棄物の発生場所と特徴**

自然災害のタイプ	災害発生場所	特徴
地震（直下型） （床屋の倒壊）	震源付近 （主に新居等）	地盤の揺れによる建築物の倒壊被害 余震の継続期間に初期活動が繰り返れる 災害廃棄物は屋敷外に発生 解体廃棄物の発生、解体工程の遅延 地域の広域避難区、片手側による被害 津波遡上による建築物等の大規模倒壊 津波堆積土を伴った災害廃棄物主体 発生時に混合状態で処分場へ送付が課題
地震（プレート型） （津波災害）	沿岸部 （津波遡上域）	集積場（土砂）の崩壊による土砂の発生 山間部の谷口付近に局所的な発生 発生時に混合状態で処分場へ送付が課題
水害 （土砂災害）	山間部 （谷部口）	台風や豪雨による土砂の発生 山間部の谷口付近に局所的な発生 発生時に混合状態で処分場へ送付が課題
水害 （河川氾濫）	河川低地 （氾濫浸水域）	台風や豪雨による土砂の発生 河川氾濫による土砂の発生 発生時に混合状態で処分場へ送付が課題 発生時に混合状態で処分場へ送付が課題

**仮置場運営 人員・資機材の確保と運営体制の確立**

時間経過

検討 → 対応準備の体制 → 仮置場の検討開始 → 仮置場の設置方針

選定 → 候補地の選定 → 地権者交渉 → 候補地の確定 → 契約（用地）

準備 → 土壌調査（事前） → 契約（仮置場整備） → 整備工事 → 資機材の手配

供用 → 契約（収集運搬・仮置場管理） → 環境管理 → 運搬管理（搬出入）

復旧 → 土壌調査（事後） → 復旧工事 → 返還立会

仮置場整備 → 運搬管理（数量計測） → 運搬管理（処理/処分）

表 3.1-8 第 21 回ブロック協議会終了後人材育成事業 ワークショップ

河川氾濫を想定した状況付与型演習を行い、気づきを共有した。

< 当日の資料抜粋 >

**1. 本日の演習方法**

□ 具体的に何をやるのか

① 情報の整理とともに「状況付与シート」に付与内容を記入し、各班へ配布します。（各班に設置のレーンへ配布します）

② 班の中で対応を考え、問合せや対応が必要であれば、「問合せ・対応票」を記入してください。

○ 了解の場合  
一口紙を入れ、「返信先」レーンへ提出

○ 問合せ・対応の場合  
一口紙を入れ、記入した問合せ・対応票とともに、「問合せ・依頼先」レーンへ提出

③ レンガへ用紙を提出してください。

**2. 前提条件（災害の状況）**

## 3.2 人材育成事業の実施結果

### 3.2.1 第20回ブロック協議会終了後の人材育成事業実施結果

人材育成事業の実施結果として演習②一次仮置場の選定（表 3.2-1）、演習③一次仮置場までの片付けごみの収集運搬（表 3.2-2）の発表概要を以下に示す。

表 3.2-1 演習②一次仮置場の選定＜配布資料3 仮置場候補地の条件＞

	仮置場候補地の施設等	所有者	使用可能面積 (㎡)	前面道路	備考
A	市文化センター等駐車場	市	3,000 (文化センター) 12,000 (臨時駐車場)	2車線市道(歩道有)	文化センターP:アスファルト舗装 臨時駐車場:砂利舗装
B	市総合体育館駐車場	市	11,000	4車線市道(歩道・中央分離帯有)	アスファルト舗装、車止めなし、植栽ますあり
C	河川敷運動公園(野球場、サッカー場)	市	200,000	河川敷内道路(2車線アスファルト舗装)	芝生
D	競馬場駐車場	競馬場	10,000	4車線市道・道道(歩道・中央分離帯有)	アスファルト舗装、車止めなし
E	市営公園運動広場	市	7,000(運動広場) 5,000(駐車場1) 3,000(駐車場2)	2車線市道(歩道有)	運動広場:芝生、外周部に樹木有駐車場:アスファルト舗装、車止めなし
F	市民球場駐車場、少年野球場	市	7,000(駐車場) 9,000(少年野球場)	1.5車線市道(歩道なし)	裸地
G	市営大規模公園	市	15,000	2車線市道(歩道あり)	芝生 外周部に植栽(樹木)あり

#### ＜検討概要＞

	検討概要	使用可否・順位
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道が広い、アスファルト、遠い、エリア限定の仮置場として使用できそう (A班)</li> <li>・橋の通行によりアクセスが悪い (B班)</li> </ul>	3 (A班) 1 (Web班)
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水域 (A班)</li> <li>・被災地 (B班)</li> <li>・植栽ますによる運航阻害? (Web班)</li> <li>・浸水区域なので除外 (Web班)</li> <li>・面積が足りてない (Web班)</li> </ul>	

C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川敷 (A 班)</li> <li>・芝生がぬかるむ (B 班)</li> <li>・面積が広すぎる (Web 班)</li> <li>・川に近いので危険 (Web 班)</li> </ul>	
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アスファルト舗装、道が広い (A 班)</li> <li>・私有地なので事前に協定を結ぶ必要あり (A 班)</li> <li>・民間との調整が必要 (B 班)</li> <li>・復旧が面倒 (B 班)</li> <li>・私有地だから使いにくい (Web 班)</li> <li>・面積が足りてない、B と抱き合わせ? (Web 班)</li> </ul>	1 (A 班)
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道が広い、アスファルト (A 班)</li> <li>・使用可能場所が分散 (Web 班)</li> <li>・幹線道路からも遠くない、総合的に使いやすい? (Web 班)</li> </ul>	2 (A 班) 1 (B 班) 2 (Web 班)
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裸地でぬかるむ、遠い、道が狭い (A 班)</li> <li>・鉄板を敷くことで利用可能 (B 班)</li> <li>・前面道路が狭い (Web 班)</li> </ul>	2 (B 班)
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼却施設が近い、芝生である (A 班)</li> <li>・ぬかるむ (B 班)</li> <li>・芝生が降雨の際、不適 (Web 班)</li> </ul>	4 (A 班)

表 3.2-2 演習③一次仮置場までの片付けごみの収集運搬

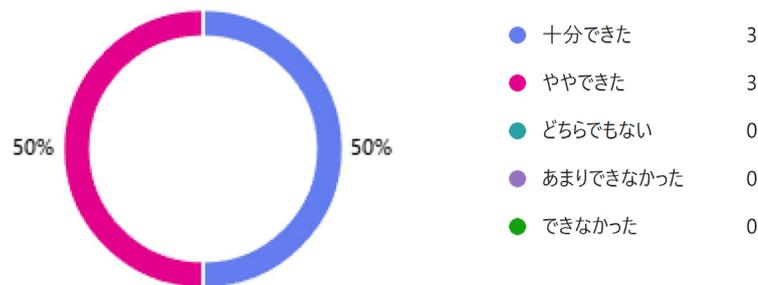
①住民が家の前に出し、自治体が個別収集	メリット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ出しが容易 (A 班)</li> <li>・仮置場に適切に搬入できそう (A 班)</li> <li>・住民が楽 (B 班)</li> <li>・水害ごみを家の前に出せるのは楽 (Web 班)</li> <li>・便乗ごみの抑制 (Web 班)</li> <li>・スピード感がある (Web 班)</li> </ul>
	デメリット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パッカー車が確保できるか (A 班)</li> <li>・住宅地周辺の環境が悪くなる (A 班)</li> <li>・収集車の確保が難しい (B 班)</li> <li>・ルールが守られない (B 班)</li> <li>・道路が狭くなる (B 班)</li> <li>・収集効率が悪い (Web 班)</li> <li>・家から近く衛生的でない (Web 班)</li> <li>・品目ごとの回収がしにくい (Web 班)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集車が通れないリスク (Web 班)</li> <li>・ボランティアの負担 (Web 班)</li> </ul>
	運搬体制・留意事項
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可燃木くずと不燃物で分別して出してもらう (A 班)</li> <li>・一般廃棄物、産業廃棄物の収集事業者による運搬 (A 班)</li> <li>・運搬業者と事前に協定を結ぶ必要がある (A 班)</li> <li>・曜日で可燃物と不燃物を出す日を決める (B 班)</li> <li>・産業廃棄物事業者に依頼する (B 班)</li> <li>・ボランティアに運んでもらう (B 班)</li> <li>・ボランティアの投入前提 (Web 班)</li> <li>・外からの応援は望めるので、事前協定が大事 (Web 班)</li> <li>・近隣自治体の応援 (Web 班)</li> <li>・民間事業者も含め対応 (Web 班)</li> </ul>
②住民が家の近くの集積場に出し、自治体が拠点回収	メリット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回収が楽 (B 班)</li> <li>・管理可能 (B 班)</li> <li>・収集効率がいい (Web 班)</li> <li>・家の前から離れるので衛生的 (Web 班)</li> <li>・品目ごとの回収がしやすい (Web 班)</li> <li>・行政の負担が減る (Web 班)</li> </ul>
	デメリット
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道が狭いと渋滞する (A 班)</li> <li>・集積所の管理が大変 (A 班)</li> <li>・集積所の場所の確保 (A 班)</li> <li>・外部の人がゴミを置いてしまう (A 班)</li> <li>・住民が苦勞する (B 班)</li> <li>・高齢者等、集積場に搬入できない人がいる (B 班)</li> <li>・未分別が増える (B 班)</li> <li>・集積場を多数確保することが困難 (B 班)</li> <li>・芝生がぬかるむ (B 班)</li> <li>・水害ごみを家の前に出せない (Web 班)</li> <li>・便乗ごみの抑制できない (Web 班)</li> <li>・載せておろす手間が一つ増える (Web 班)</li> <li>・車両がないと運べない (高齢者等) (Web 班)</li> </ul>
	運搬体制・留意事項

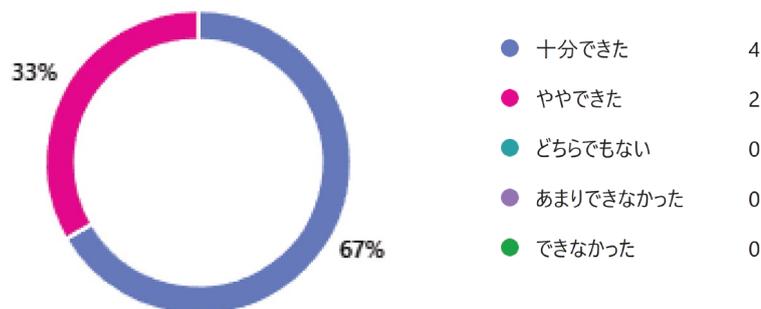
### 3.2.2 第20回ブロック協議会終了後の人材育成事業アンケート結果

人材育成事業後に参加者を対象としてアンケートを実施した。結果を以下に示す。

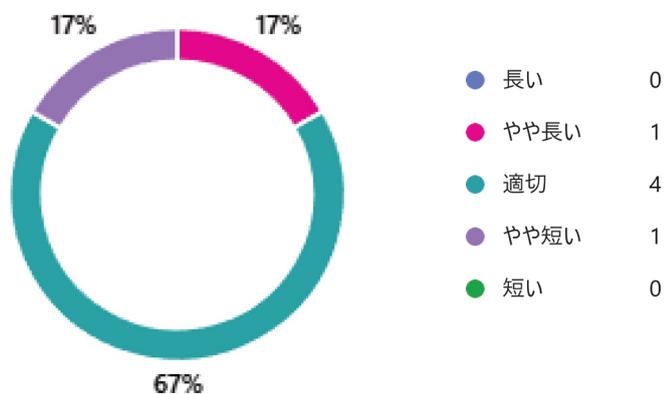
Q1. 講演（安平町村山様）により、発災時の災害廃棄物の状況及び初動対応について具体的にイメージできましたか。



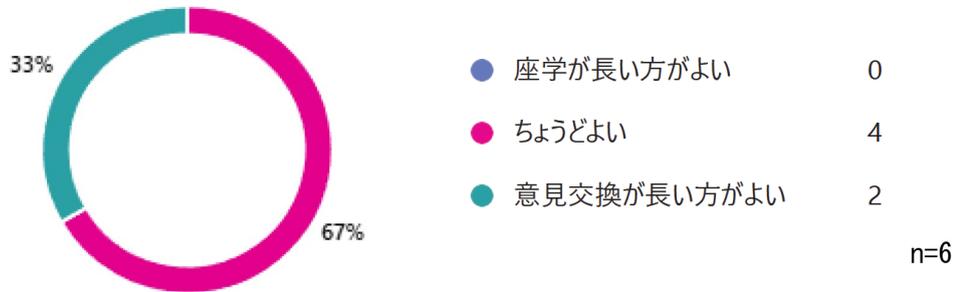
Q2. ワークショップを通じて、発災時の仮置場の選定・設置及び仮置場への片付けごみの収集・運搬について、具体的にイメージできましたか。



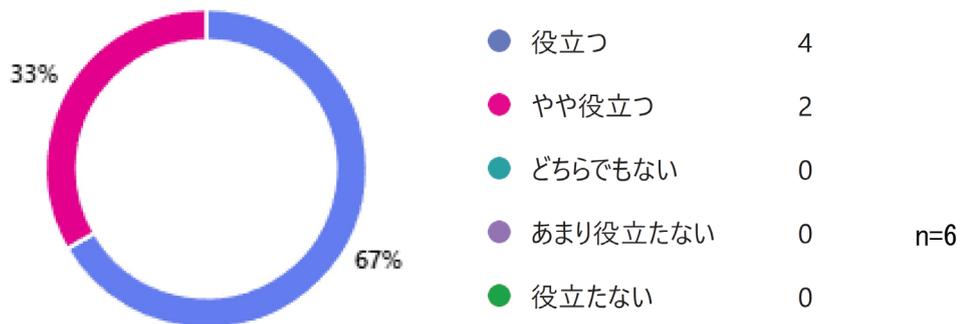
Q3. ワークショップ全体の時間配分（13時～16時）は適切でしたか。



Q4. ワークショップの座学と意見交換の時間配分は適切でしたか。



Q5. ワークショップの内容は、実際の災害廃棄物処理の場面において、役立つと考えられますか。



Q6. ワークショップの内容について、ご意見ございましたらご記入ください。

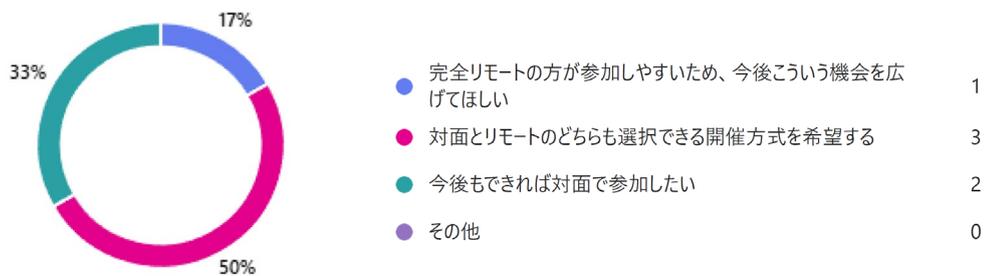
- ・ 定期的な開催は、知識や意識を継続させる意味で大事なことと感じました。
- ・ 発災時になれば時間がない中、様々な作業、判断をしなければならないのでその訓練といえはそのとおりだが、検討作業の時間がもう少しあれば、より落ち着いて、災害廃棄物処理対策という慣れない作業に向き合えると感じた。
- ・ 当市では近日中に災害時仮置場訓練を実施するため、仮置場必要面積計算の演習は時機にかなったテーマであり、大変役立った。

Q7. 第2回ワークショップ（第21回協議会時に開催）において、現段階では状況付与型図上演習（参加者を自治体の災害廃棄物担当部署とし、市民や関係機関からの通報・情報提供に対して分析・判断し、必要な関係者に指示・情報提供を行う）を行う予定としています。内容について、ご希望がありましたら、いくつでも選択してください。（複数回答可）。



n=43

Q8. 対面・リモートを併用した形式でのワークショップについて、参加しやすさの観点からどのようにお感じですか。あてはまる選択肢を1つご選択ください。



n=6

Q9. 対面・リモート併用形式でのワークショップに参加してみて良かった点、悪かった（今後改善すべき）点について、ご意見・ご感想をご記入ください。

- ・ 参加方法の幅が広がることは、参加がしやすくなり良かったと思います。
- ・ 自治体の方々との繋がることができ、よかったです。
- ・ 意見交換、発表などは自分が今回対応したリモート形式でも遜色なくでき、札幌まで赴かなくても全道の参加者とワークショップが行えるのがいいと感じた。
- ・ 良かった点：参加のしやすさ。改善すべき点：通信環境が悪い時には意見のやり取りができなくなる。
- ・ 【良かった点】リモート形式ではあるが、他市の災害時廃棄物対策担当者の仮置場に関する考え方について触れる機会があり、大変勉強になった。  
【改善点】ワークショップにおける演習時間（自らの意見をまとめる時間）は若干短く感じられた。

Q10. 本日の人材育成事業について、気が付いたこと、ご感想等ご記入ください。

- ・ 帯広市をモデルとしたこともあり、より身近な具体的なイメージを持ちやすかったと感じました。
- ・ 付箋の書き方や進め方が理解しづらかったので、もう少し説明があったらよかったですと思います。
- ・ 災害廃棄物量の算定は今回初めて実際携わり、貴重な経験ととらえている。発災時の初動で環境部局（災害廃棄物担当）が直面するそのほかの作業も、平時のこのWSでもっと体を動かして体験していきたい。
- ・ リモート形式であれば、道外の自治体担当者が発災時の災害廃棄物対応をどのように行ったかを講演してもらえることが可能であり、より多様なケースを共有できるように感じた。

### 3.2.3 第21回ブロック協議会終了後の人材育成事業実施結果

状況付与型演習において付与した情報の概要を表 3.2-3 に示す。各班の発表概要を表 3.2-4 に示す。

表 3.2-3 付与情報（概要）

No.	発信元	付与情報概要
1	気象庁	台風に関する気象情報（全般台風情報）が発表された。
2	北海道	災害廃棄物等に関する状況が判明したら【情報共有フォーマット】を記入の上返信すること。
3	市長	浸水想定図より推計した情報等から以下の事項について報告すること。 ①市内の被災棟数、②片付けごみ発生量、③一次仮置場必要面積、④使用予定の仮置場候補地
4	十勝川の河川管理者・市長	浸水想定区域の住民の避難を開始した。氾濫前に避難が完了した。
5	市長	氾濫の発生に備えて、災害廃棄物の関係先に連絡しておくこと。
6	気象庁等	台風が上陸し雨風ともに強まった。9/2 深夜に河川が氾濫した。 雨は 9/3 未明にはやみ、天気予報でも今後数日は降らないようだ。
7	市長	仮置場開設に向けて情報を確認すること。
8	市長	浸水戸数は約 8,000 戸と判明
9	市長	いつから、どこに一次仮置場を開設するか、報告すること。
10	避難所管理者	避難所のトイレの水が詰まりそう。
11	市長	候補地 D（競馬場駐車場）は、自衛隊支援基地にするため多用途には使用不能と通達。
12	住民	浸水したごみはどこに運んだらいいのか
13	市長	片付けごみの発生量は浸水による想定量の 1.5 倍となる見込み。
14	住民	家が浸水したが、ごみの捨て方がわからない。
15	住民	通常の集積所に混廃状態のごみが溢れかえっており、道路をふさいでいる。どうにかしてほしい。
16	住民	自分の所有している土地に勝手にごみが置かれていた。どうにかしてほしい。
17	住民	浸水区域外に居住しているが、明日の可燃ごみの日にごみ出しをしてもよいか。
18	仮置場担当	他の地域の住民からの持ち込みがあったが、受け入れてもいいか。
19	仮置場担当	量の混合状態のごみや土砂付きのごみを持ち込む人が多い。仮置場の入口に渋滞ができてしまっており、住民からも苦情が出ている。
20	住民	高齢者から自分でごみを搬出できないため、自宅にとりに来てほしいと問合せがあった。
21	仮置場担当	冷蔵庫とともに冷蔵庫内部に生ごみなど腐敗性のごみの持ち込みがあったがどうすればいいか。
22	住民	仮置場周辺住民から周辺道路の渋滞について苦情の電話がきた。

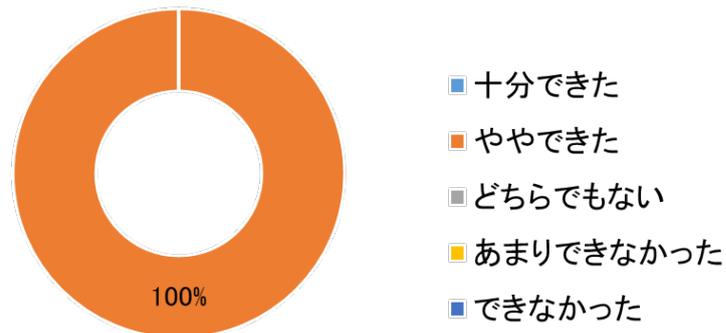
表 3.2-4 発表概要（付与情報への対応、演習の感想）

A 班
<ul style="list-style-type: none"> <li>・付与 No. 3 市長からの指示を受けて、関係協会、収集運搬業者、中間処理業者に状況確認を行い、情報収集できた。</li> <li>・途中からトイレ問題、仮置場の不足の問題が発生して、対応に時間を要した。</li> <li>・住民への広報、ボランティアへの情報発信で苦労した。演習後半は住民から立て続けに問い合わせがあり、対応が難しかった。</li> </ul>
Web 班
<ul style="list-style-type: none"> <li>・付与 No. 3 市長からの指示については、環境部局で想定している数値を報告した。</li> <li>・付与 No. 4 河川氾濫情報について、被害状況の確認だけでなく委託業者への情報共有を行った。</li> <li>・付与 No. 6 避難所から人が戻るタイミングでゴミが排出されることが想定されるため、協定先に準備を依頼した。</li> <li>・付与 No. 7 近隣焼却施設が利用可能かについては振興局に確認を行った。</li> <li>・付与 No. 8 廃棄物部局に問い合わせ、舗装済みの場所を使うとした。</li> <li>・住民周知については広報、総務に協力を依頼した。</li> <li>・自治体をまたぐ場合は振興局に依頼するとした。</li> <li>・住民対応については廃棄物部局で対応を想定して、基本的にルールを守ってもらうように対応するとした。</li> <li>・人員、資源に限りがあるので臨機応変に対応することが必要だと感じた。</li> <li>・自治体職員も疲弊するので、職員のケアも必要だと感じた。</li> <li>・演習では一人で考えるより、様々な意見が出て刺激になった。</li> </ul>

### 3.2.4 第21回ブロック協議会終了後の人材育成事業アンケート結果

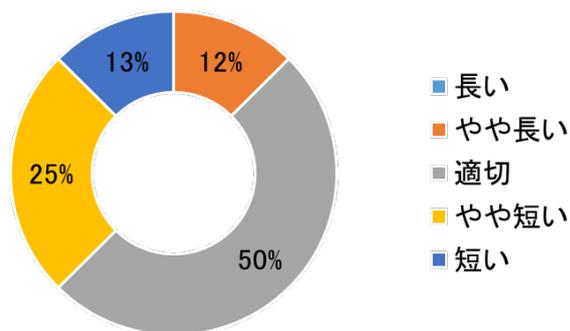
人材育成事業後に参加者を対象としてアンケートを実施した。結果を以下に示す。

Q1. 今回のワークショップを通じて、発災時の業務や関係先とのやりとりについて、具体的にイメージできましたか。



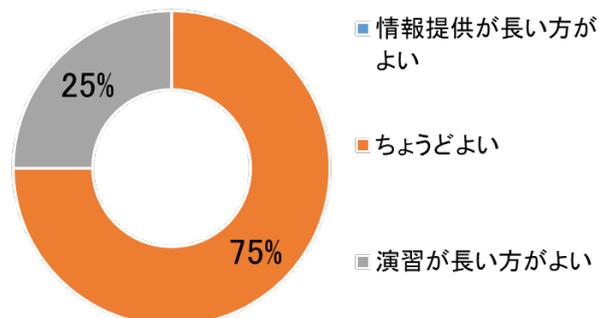
n=8

Q2. ワークショップ全体の時間配分（13時～16時）は適切でしたか。



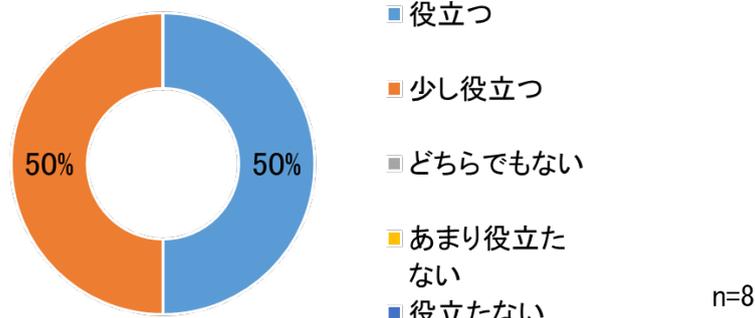
n=8

Q3. 今回のワークショップの座学（情報提供）と演習の時間配分は適切でしたか。



n=8

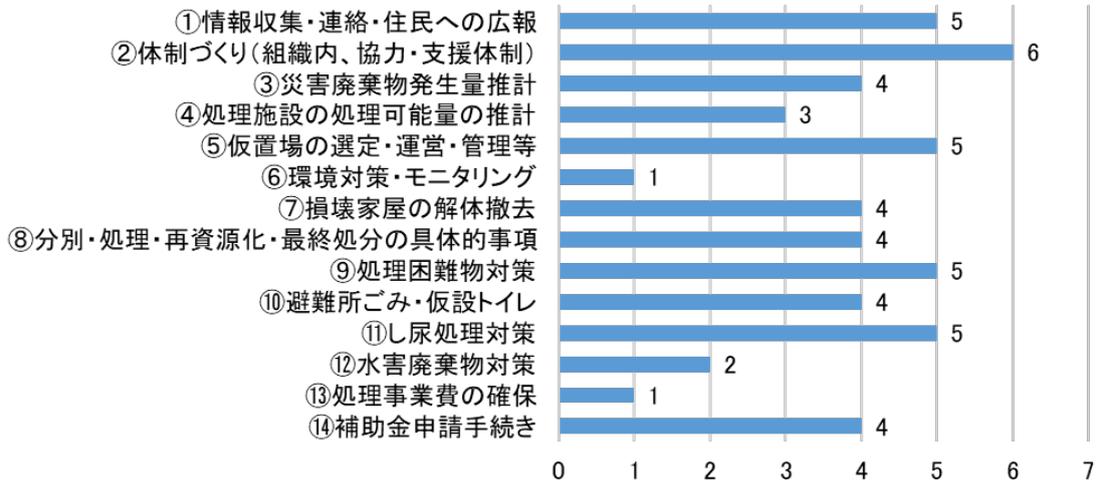
Q4. 今回のワークショップの内容は、実際の災害廃棄物処理の場面において、役立つと考えられますか。



Q5. 今回のワークショップの内容について、(1)～(4)に書ききれなかったことを含め、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

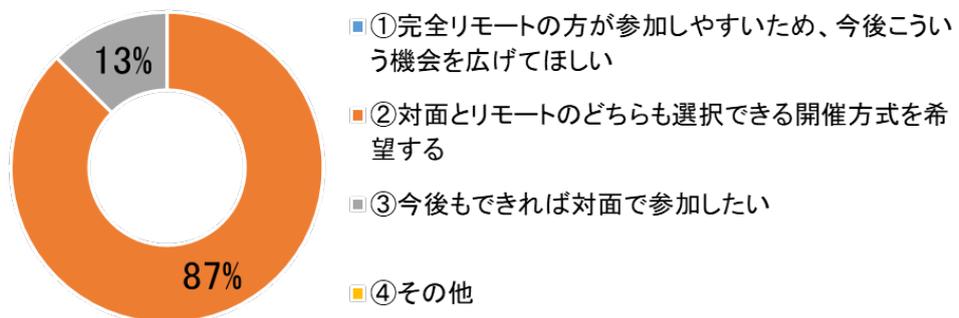
- ・慣れていないため、演習中に議論から漏れていることや、決め忘れていたりなどがあれば主催者担当から都度指摘いただけるとありがたい（こういった議論の進め方でのいいの自信がない場合があったので）。
- ・自分は当日進行役となったが、発言者が偏ってしまっていたので、もう少し他の参加者も発言できるようにすればよかったと感じた。ただ、経験年数が浅く発言するより、情報収集がメインという参加者もいたと思うし、多くの方に1回1回振って発言を求めることで演習の時間が足りなくなる恐れもあるので難しいと思うが。
- ・ワークショップでは情報の錯綜、全体把握が難しいことなどを感じることができた。一方で様々な被災自治体での経験を集約し、対応の正解を取りまとめ、提供してもらえるとありがたいと思った。その正解の知識を事前に入れた上でワークショップをやってみたい。
- ・「繰り返し」が必要と感じますので、何度でも同様の内容であろうとも継続して頂きたい。行政の方々は、担当の移動もありますが、その分経験者？が増えるため。
- ・最後のまとめの部分は、前段の演習部分を整理する必要があるが、紙ベースで行うのであれば時間が足りない。もう少し時間的余裕が無いと、きちんと整理したものは出来上がらないと思う。
- ・今回のような演習、シミュレーションは参加者が災害発生時の混乱状況や情報処理の難しさを疑似体験させる意味では有意義であるが、体験するのは参加者に限られるため、例えば、シミュレーションソフトや動画等があれば、廃棄物担当部署をはじめ、様々な職場の多くの職員も被災時の対応の心構え。意識を持つことが可能になるのではと思う。
- ・グループ員間で情報を共有するためのホワイトボードがあれば良かったと思う。
- ・現在の道内の自治体は、通常時の収集運搬業務の民間委託を推進してきたことにより、直営での収集運搬体制ですらノウハウが衰退してきている。災害廃棄物対応となれば、到底自治体で完結することは全くもって無理な状況となる。すなわち、民間事業者の協力が不可欠となることは明白であるが、自治体としてはどのタイミングで、どの民間業者にどんな協力を要請すべきかを理解できていない。今回のワーキングにおいて、民間団体参加者から、「自治体からの要請は、もっと早い段階から出してもらいたい」的な発言を頂くことができ、なるほどと感じたとともに、さまざまな民間団体からの参加を希望するとともに、今回のような、より実践的なワークショップの開催をお願いしたい。

Q6. 来年度もブロック協議会の人材育成事業として、ワークショップ型演習の実施を予定しています。演習の内容について、ご希望がありましたら、いくつでも選択してください。



n=53

Q7. 今回実施したような、対面・リモートを併用した形式でのワークショップについて、参加しやすさの観点からどのようにお感じですか。あてはまる選択肢を1つご選択ください。



n=8

Q8. 対面・リモート併用形式でのワークショップに参加してみてよかった点、悪かった（今後改善すべき）点について、どんな単純なことでも結構ですのでご意見・ご感想をご記入ください。

#### 良かった点

- ・ 札幌の会場に赴くのが時間的に厳しい場合もあり、リモート形式での参加は非常に参加しやすい。また、今回は参加者が発言した内容（おそらく会場参加の場合は付せんを書いて貼っている？）も主催者担当が都度入力してまとめていただけたので、リモート参加のハンデをそのように補っていただき、リモートでの参加は便利だと思った。
- ・ 対面でのワークショップでは同じ机で情報共有しながら進めたにも関わらず、全体の把握などが難しいと感じたが、リモートではWEB上で事象が共有されるため、このような情報共有の難しさを感じることはできなかったと思う。
- ・ 「よかった、悪かった」ではないが、リモート参加者の意見に対する事務局側の対応（文字化）が大変だと思う（発言者の意図とは異なる記述もあり得るのかも）。
- ・ 会場で受講する場合はリモート併用であったとしても特に支障は感じなかった。
- ・ 対面参加は、意思疎通がしやすい点がよかったと思う。ただし、リモートに慣れれば、そちらの方が便利になるかもしれない。
- ・ 実際の災害が発生した際に、様々な場所から報告・連絡が入ることをイメージできた。
- ・ 共にオンラインで参加した職員と相談しながら、ワークショップに参加できたところがよかった。

#### 悪かった（今後改善すべき）点

- ・ 自分が慣れていないこともあると思うが、オンライン参加の場合のやりとりが一部スムーズにいかずやりづらさを感じることもあった。また、こういった演習のやり方や進め方でいいのか迷う場面もあったので、主催者側は望ましい方向にリードしていただけるとありがたい。
- ・ 対面形式の場合、ホワイトボードを用意するなど、寄せられる情報や指示、それらの対応状況を掲示し、全員で共有しやすいスペースがあればよいと思った。机のうえに状況付与シートや対応票を置くと全員では見えにくい、または見落とすことがあった。
- ・ ワorkshopに関しては、会場とWebで行った内容に多少の差異があったため、どちらの会場でも同様の内容ができる工夫をお願いしたい。

Q9. 本日の人材育成事業（午後部）について、気が付いたこと、ご感想など、なんでも結構ですのご記入ください。

- ・ 「人材育成」において、各設問の意図に係る事務局としての考え方・事例を示していただきたい。現段階では参加者の考え方の発表で終わっているため、設定各問に対する助言をお願いしたい。時間的にワークショップ内では難しいと思うので、事後資料として参加者に通知をお願いしたい。お忙しい中恐縮ですが、ぜひ対応方よろしく願います。
- ・ 雪まつり時期の札幌での開催は、交通手段および宿泊施設の予約が困難なため、今後は避けていただきたい。
- ・ 本班の反省としては、課される指示、問い合わせを管理する総括責任者が、参加者減により広報等の兼務を申し出てくださいましたが、結果、本来業務である情報の整理、処理管理が滞ってしまい、対応の見落としも生じました。これは、総括責任者の役割を認識するに至らなかった自分たちにも責任があります。また、状況付与シートを受け取った役割担当者がその内容を共有しない場合には、関連するタスク処理が遅れることもあったことから、対面形式の場合には、状況付与シートや対応票は、ホワイトボードにカテゴリー別に掲示するなど、漏れのないよう全員で処理状況を確認できるようにすることが必要であり、これは実際の有事の際も重要なことと実感した。
- ・ 午前中の会議でも話題に上がっていたが、行政の場合、数年毎に担当者が変わってしまうので、せっかく得た経験が継承されずに終わってしまう可能性が高いと思う。この点をどうすべきか、考えなければいけないと思う。また、ワークショップの参加者（特に対面参加者）が少なくなってきたのも、気になるところである。
- ・ オンラインでの参加ではあったが、日常業務内では触れることがない、他自治体の職員の意見を聞くことができ、有意義であった。
- ・ 今回のワークショップについては、災害対応未経験の我々においては、実際の現状を疑似体験でき、非常に有意義なものであった。今後も、より実践的なワークショップを体験したいと考える。

## 4. エリア分科会の開催

大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会では、北海道ブロックを道央エリア、道東エリア、道北エリア及び道南エリアの4エリアに分けたエリア分科会を、令和5年度より設置している。エリア分科会ではブロック協議会での検討内容の情報共有、各エリア内の災害廃棄物処理に係る課題検討等を行った。

### 4.1 エリア分科会の開催概要

エリア分科会は、表 4.1-1 に示す日程、議題で開催した。

当日の資料は、4つのエリアのうち道央開催分を代表して資料編に整理した。

表 4.1-1 エリア分科会の開催概要

議 事 ※4 エリア共通		(1) 令和7年度第20回ブロック協議会の開催結果について (2) 令和6年度の各ワーキンググループの検討結果について (3) 災害廃棄物処理に関する情報提供について (4) 災害廃棄物処理計画策定状況とエリア内の災害廃棄物処理に係る課題検討 (5) 次年度のエリア分科会の代表市町村及び代表振興局の選出 (6) その他
道 央 エ リ ア	開催日時	令和7年7月15日(火) 10:00~12:00
	開催場所	北海道中小企業会館 A会議室[オンライン併用]
	参加者	計35名 (市町村16自治体、道・振興局5局、民間団体2団体) ※事務局を除く
	開催状況	

道 南 エ リ ア	開催日時	令和7年8月26日(火) 10:00~12:00
	開催場所	函館商工会議所 会議室[オンライン併用]
	参加者	計18名(市町村7自治体、道・振興局2局、民間団体1団体) ※事務局を除く
	開催状況	
道 北 エ リ ア	開催日時	令和7年7月29日(火) 10:00~12:00
	開催場所	旭川トーヨーホテル 水晶の間[オンライン併用]
	参加者	計21名(市町村9自治体、道・振興局4局、民間団体2団体) ※事務局を除く
	開催状況	
道 東 エ リ ア	開催日時	令和7年8月8日(金) 10:00~12:00
	開催場所	釧路市交流プラザさいわい 大ホール[オンライン併用]
	参加者	計26名(市町村11自治体、道・振興局4局、民間団体2団体) ※事務局を除く
	開催状況	

## 4.2 エリア分科会の議事要旨

エリア分科会の議事要旨を表 4.2-1 に示す。

詳細は資料編に整理した。

表 4.2-1 エリア分科会の議事要旨

<b>【道央】</b>
<b>【令和6年度の各ワーキンググループの検討結果】</b> ・計画策定・改定について問題点の抽出だけでなく、策定済の自治体では問題点をどのようにして乗り越えたのか事例が知りたい。 →（事務局回答）自治体へのアンケートにより、情報収集を行う。
<b>【災害廃棄物処理に関する情報提供】</b> ・所管部局により、災害廃棄物処理の対応が異なると大変なので整理した方が良い。水害についても着目してほしい。 →（事務局回答）被害想定の大きい海溝型地震に着目してきたが、全国的に水害が多発している。今後は水害を想定して計画を策定することも検討したい。
<b>【災害廃棄物処理に係る課題】</b> ・都市公園は仮置場候補地に選定できるのか。 →（事務局回答）都市公園を仮置場に選定する許可が得られなかった例があるが、発災時には結果として都市公園が仮置場として利用される事例も生じている。 ・仮置場候補地として公表されることを望まない地権者もいる。処理計画ではどのように対応すると良いか。 →（事務局回答）処理計画には具体的に仮置場候補地のリストを掲載している例もあれば、仮置場選定の条件だけ掲載している例もある。市町村の事情に合わせて計画を策定してほしい。
<b>【令和7年度のエリア分科会の代表振興局、代表市町村】選出結果</b> ・（事務局）エリア代表の選出のルールについて、道と協議中である。
<b>【道南】</b>
<b>【災害廃棄物処理に係る課題】</b> ・便乗ごみを持ち込まれた場合、自治体はどのように判断すると良いか。 →（事務局回答）明らかに今は使われていないブラウン管テレビや、水害であれば浸水していないごみは持ち帰ってもらう対応をした自治体もある。どこで線引きするかは自治体の判断による。 ・処理計画に記載する数値はワークシートを使って推計することができたが、図面の作成は難しいことがあった。プッシュ型支援により処理計画を策定できた。
<b>【令和7年度のエリア分科会の代表振興局、代表市町村】選出結果</b> ・（事務局）エリア代表の選出のルールについて、道と協議中である。

## 【道北】

### 【令和6年度の各ワーキンググループの検討結果】

- ・災害廃棄物発生量を推計するための係数は随時見直されている。既に計画を策定している自治体は、策定時に使用した係数と最新の推計に差が生じているが、どのような対応をしているのか。
- （事務局回答）北海道は全国と比較して計画策定率が低いため、まずは計画を策定してほしい。既に計画を策定している自治体は最新の知見を踏まえて、計画を改定していただきたい。

### 【災害廃棄物処理に係る課題】

- ・自治体は計画策定後、中身の検討ができていないのではないか。
- （事務局回答）計画策定だけでは不十分だと認識している。まずは計画を策定したうえで、計画の実効性を検証してブラッシュアップしてほしい。
- ・エリア内でも海側、内陸で被害の質が異なる。対策をエリア内で進めて問題ないのか。
- （事務局回答）ブロック協議会やエリア分科会では一自治体で処理困難な災害廃棄物量を想定しており、振興局、エリア、道、全国的な対応が求められる。エリアで災害廃棄物処理を協力するという意味でのエリア分けと理解してほしい。また、札幌で開催してきたブロック協議会の情報を共有することもエリア分科会開催の目的である。
- ・北海道と北海道産業資源循環協会は協定を締結しているが、一般廃棄物の事業者も計画に組み込んで、災害廃棄物処理について検討することが重要ではないか。
- （事務局回答）一般廃棄物処理業者は被災者の生活ごみの処理を行う。公費解体では産業廃棄物に近いものが排出されるため、産業廃棄物処理のノウハウが必要になる。
- ・広域連携はどの範囲の市町村と協定を結ぶことを想定しているのか。
- （事務局回答）災害時は近隣市町村も被災しているため、振興局に相談し、道庁へ相談という流れになると想定する。

### 【令和7年度のエリア分科会の代表振興局、代表市町村】選出結果

- ・（事務局）エリア代表の選出のルールについて、道と協議中である。

## 【道東】

### 【災害廃棄物処理に関する情報提供】

- ・災害廃棄物処理方法についてどこまで計画に記載すれば良いか。
- （事務局回答）各自治体の防災計画で想定している災害の被害をもとに災害廃棄物処理計画を策定してほしい。処理方法について、まずは仮置場を選定し、家屋解体で生じるがれき等は産業廃棄物処理事業者等、関連業界と協定を締結することが重要である。

**【災害廃棄物処理に係る課題】**

- ・発災時、周辺市町村を支援できるようにしたいが、計画を策定する際にどのような視点が必要か。
- （事務局回答）災害時は行政、協力業者も被災者になる。計画を実行する際に道や環境事務所に支援要請することも計画に入れて良いのではないか。

**【その他】**

- ・発災時、災害廃棄物について国や道はどのような対応をするのか。あくまで地域内で処理すべきなのか。
- （事務局回答）災害が発生した時の情報のルートとしては、各自治体から振興局経由で道庁に情報が上がり、その後に道庁から環境省に情報が上がるのが一般的な流れである。甚大な被害の場合はプッシュ型支援を行うこともある。

**【令和7年度のエリア分科会の代表振興局、代表市町村】選出結果**

- ・（事務局）エリア代表の選出のルールについて、道と協議中である。

## 5. エリア分科会終了後の人材育成事業

エリア分科会終了後に、構成団体職員を対象として、ワークショップ形式の図上演習を実施した。

### 5.1 人材育成事業の実施概要

人材育成事業は、表 5.1-1 に示す日程、テーマで実施した。テーマは、災害廃棄物処理の初動を対象として、参加者への事前アンケートを参考に決定した。

当日は、ワークショップに関連する内容について話題提供を行った後、各班で模造紙等を用いてワークショップを行った。ワークショップの内容は表 5.1-2～表 5.1-3 のとおりである。

当日の資料は、4つのエリアのうち道央開催分を代表して資料編に整理した。

表 5.1-1 人材育成事業の実施概要

道央	開催日時	令和7年7月15日(火) 13:00～15:00
	開催場所	北海道中小企業会館 A会議室 [オンライン併用]
	参加人数	計24名(計4班) (市町村13自治体、道・振興局3局、民間団体2団体) ※事務局を除く
道南	開催日時	令和7年8月26日(火) 13:00～15:00
	開催場所	函館商工会議所 会議室 [オンライン併用]
	参加人数	計11名(計3班) (市町村6自治体、道・振興局2局) ※事務局を除く
道北	開催日時	令和7年7月29日(火) 13:00～15:00
	開催場所	旭川トーヨーホテル 水晶の間 [オンライン併用]
	参加人数	計8名(計2班) (市町村5自治体、道・振興局1局、民間団体1団体) ※事務局を除く
道東	開催日時	令和7年8月8日(金) 13:00～15:00
	開催場所	釧路市交流プラザさいわい 3F大ホール [オンライン併用]
	参加人数	計13名(計3班) (市町村6自治体、道・振興局2局、民間団体2団体) ※事務局を除く
話題提供		1. 災害廃棄物の初動対応とは? 2. 仮置場について

	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. 外部（国、振興局、民間等）との連携について</li> <li>4. 災害廃棄物処理計画の効果</li> </ul> <p>※4エリア共通</p>
<p>ワークショップ のテーマ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 発災直後の初動対応</li> <li>2. 災害廃棄物処理計画の効果検討</li> </ul> <p>※4エリア共通</p>

表 5.1-2 話題提供

災害廃棄物の初動対応について理解を深めることを目的として話題提供を行った。初動対応の重要性、災害廃棄物処理計画等平時からの備えについて説明した。

<当日の資料抜粋>

1.初動:初動が遅れるとどうなるか

Bad Practice




4.災害廃棄物処理計画の効果



発災時に迅速に初動を行うための、.....

- 時間、人員、データが利用しやすい平時に立てる**事前計画**
- 発災時にどのように災害廃棄物に対処するかを定めた**事前計画**
- 通常生活に早期復帰するための**事前計画**
- 被害予測に基づく、廃棄物発生推計量と、その処理に必要な人材、費用、施設、機材や、補助金申請の手続きなどが示された**手引き**

写真出典:環境省HP

表 5.1-3 ワークショップ

災害廃棄物処理における初動対応について、理解を深めること、多様な視点・価値観への気づきを得ることを目的として、①発災後の初動対応、②災害廃棄物処理計画の効果検討に係るワークショップを実施した。

<当日の資料抜粋>

①WS1:発災直後の初動対応:災害のイメージ



津波を伴う震度6強の地震により、市街地が広範囲に浸水  
 ・廃棄物担当係は8名  
 ・収集運搬は全面委託、焼却処理は広域組合で実施

## 5.2 人材育成事業の実施結果

### 5.2.1 エリア分科会終了後の人材育成事業実施結果

ワークショップのテーマ1では発災直後の初動対応に必要な業務、ワークショップのテーマ2では災害廃棄物処理計画の効果の検討を行った。2つの検討より災害廃棄物処理の初動期に必要な業務について班ごとに発表した。発表概要を表5.2-1に示す。

表 5.2-1 発表概要（初動期に必要な業務）

項目	内容
情報収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員、協定先の安否確認（道央・道北・道南）</li> <li>・収集運搬業者の対応可能状況確認（道東・道南）</li> <li>・主要施設の被災状況の確認（道央）</li> <li>・周辺の被害状況確認（道北・道東）</li> <li>・災害情報の集約・共有※（道央）</li> <li>・災害廃棄物発生量の推計※（道央）</li> <li>・周辺自治体の被災状況の確認※（道央）</li> <li>・処理施設の確認、確保（道北）</li> <li>・道路状況確認（道東・道南）</li> </ul>
情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道、振興局への被害状況の報告（道南）</li> </ul>
処理体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員確保（道央）</li> <li>・必要人員確認（道南）</li> <li>・災害廃棄物の集積、回収方法の検討（道央）</li> <li>・業者の確保（道央）</li> <li>・広域処理の確認（道央）</li> <li>・組織体制の構築※（道央・道東・道南）</li> <li>・業務分担の決定※（道央・道南）</li> <li>・関係団体の窓口の確認※（道央）</li> <li>・事前に他部署への協力要請、ボランティアの確認※（道北）</li> <li>・国、道、民間への協力体制の依頼※（道東）</li> <li>・連絡手段の確保（道南）</li> </ul>
広域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広域処理の確認（道央・道北）</li> <li>・広域組合への受入相談と準備（道南）</li> </ul>

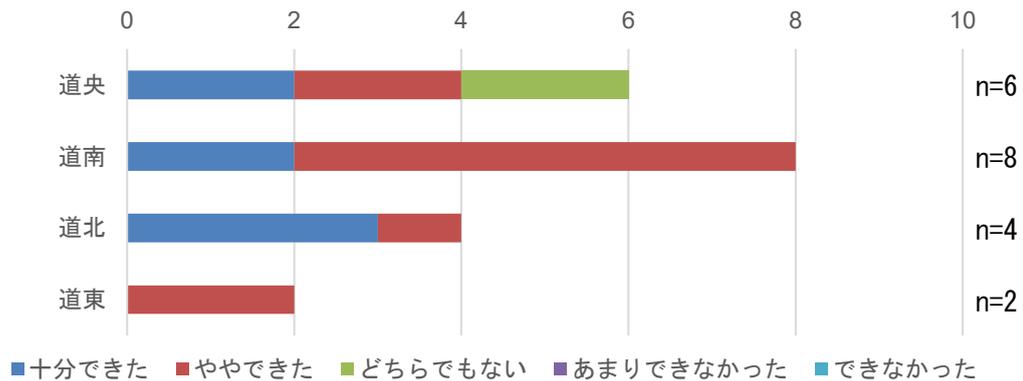
仮置場設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮置場候補地の状況確認、仮置場の確保※（道央・道北・道東・道南）</li> <li>・仮置場の運営（道央・道南）</li> <li>・仮置場レイアウトの検討※（道央）</li> </ul>
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民に案内を出す※（道央・道東・道南）</li> <li>・ゴミの分別を説明する防災無線、チラシ等の用意（道北）</li> <li>・いつから開始するか決めて周知する（道北）</li> <li>・ボランティアへの連絡の頭出し※（道央）</li> <li>・電話、報道対応（道東）</li> </ul>
し尿処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設トイレの設置※（道央・道北・道東・道南）</li> <li>・下水処理施設及び下水管の被害状況の確認（道南）</li> </ul>
処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処理施設のキャパシティを考慮する（道北）</li> <li>・処理施設、焼却場の受け入れ可否の確認（道東）</li> </ul>
補助金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災家屋等に対する補助金を検討する（道北）</li> </ul>
処理困難物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処理困難物の方針（道東）</li> </ul>
冬季対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季対応（道東）</li> </ul>
避難所ごみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所のゴミ収集（道東）</li> </ul>

※処理計画があることで速やかに行動できると思われる事項。

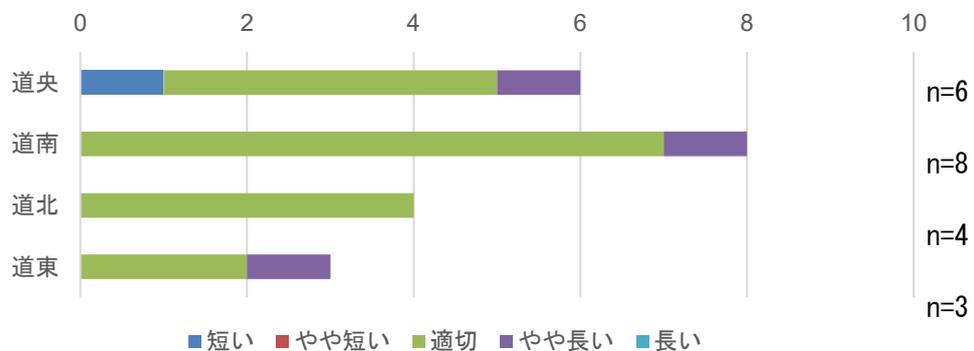
### 5.2.2 エリア分科会終了後の人材育成事業アンケート結果

人材育成事業の参加者に対し、ワークショップ後にアンケートを実施した。結果を以下に示す。

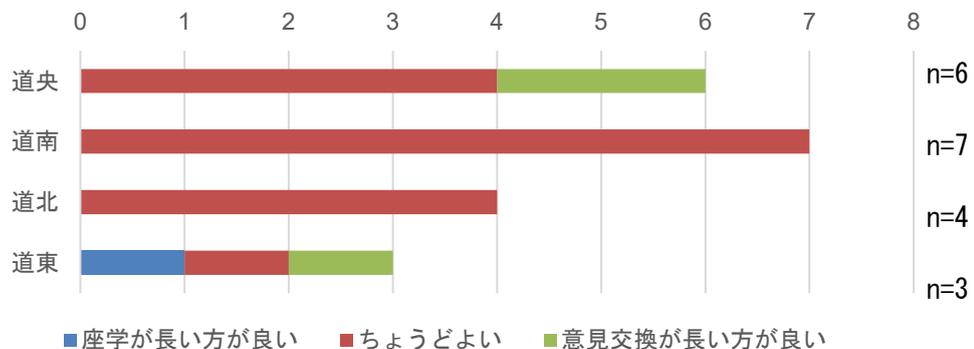
Q1. ワークショップを通じて発災時の初動対応について、具体的にイメージできましたか。



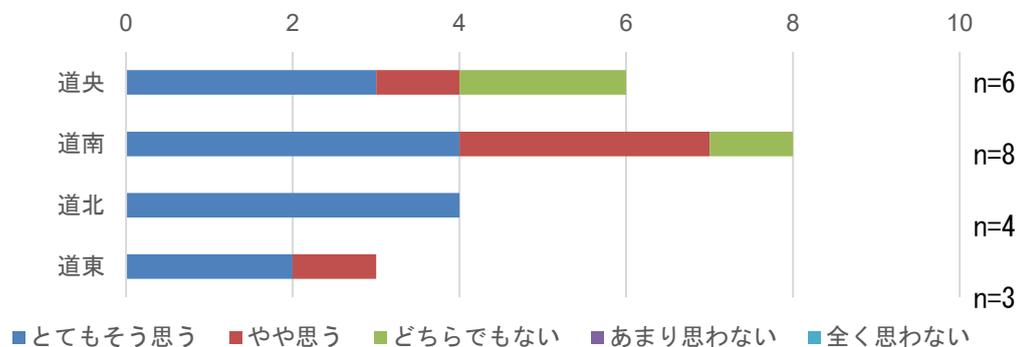
Q2. ワークショップ全体の時間配分（13時～15時）は適切でしたか



Q3. ワークショップの座学と意見交換の時間配分は適切でしたか。



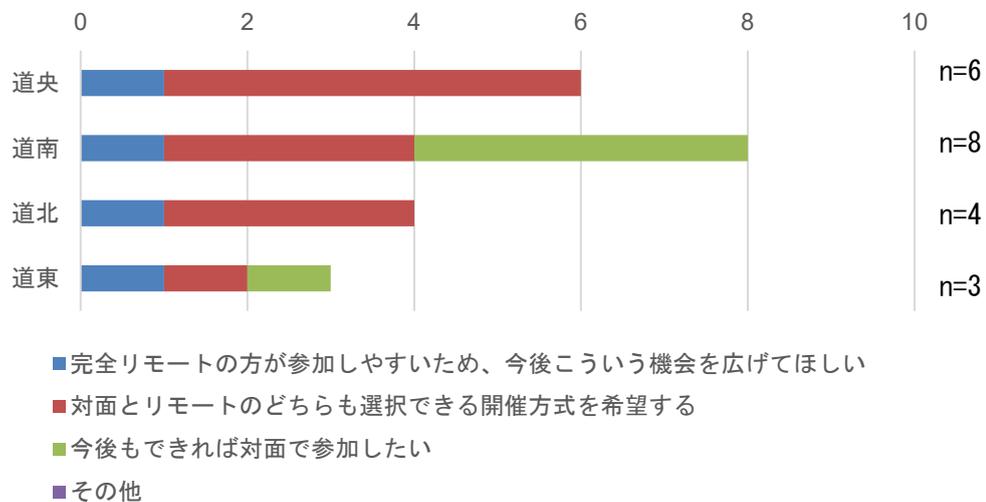
Q4. ワークショップの内容は、実際の災害廃棄物処理の場面において、役立つと考えられますか。



Q5. ワークショップ全体についてご意見を教えてください。

<p><b>【道央】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各班が発表し「色々な意見があるね」ということではなく、こういった場合はこう。こういう考え方ではなくて、こう考えるべき等の班別の講評があれば、理解を深めることが出来たと思う。結局何が正解でどういった考え方が正しいのか曖昧であった。</li> </ul>
<p><b>【道南】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>以前参加したWSは、発災前・発災後が一緒になったWSでしたが、今回初動対応からということで、発生したごみの処理についてのみを考えることができ、時間的にも良かったと思います。また、せっかく作成した計画を実行できるよう、計画を意識した事前の取り組みを進めなくてはならないと感じました。</li> <li>資料3_Q市災害廃棄物処理計画（道南）を事前に読み解けば良かったと感じました。</li> <li>ワークショップの際は計画書の内容確認まで出来ず、目次だけ確認する方が見受けられました。</li> </ul>
<p><b>【道北】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体の参加者が少なかったのが残念でしたが、より多くの班が成立すればさらに多くの意見等が出されたのかなと感じました。</li> <li>各自治体からの参加者とワークショップに取り組むことで、自分が見えていない視点に気付くことができた。</li> <li>資料2の地図の内容、状況も踏まえた初動対応を列挙するのが望ましいところ、当日の作業で、自分はそのような視点が薄かったので、次回以降は与えられた条件、状況を意識した作業を心掛けたい。</li> <li>様々な意見があり、参考になった。</li> </ul>
<p><b>【道東】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この地域は特に津波の影響を受けやすい地域、且つ行政連携や他団体との釧路地域に合った独自の連携が必要と考えております。他地域での独自連携例などの連携部分のヒントになる座学が欲しいです。また、前述のお話を理由に意見交換が長いほうが良いと記述しましたが、これはその独自連携の座学前提のお話でございます。</li> </ul>

Q6. 今回実施したような、対面・リモートを併用した形式について、参加しやすさの観点からどのようにお感じですか。あてはまる選択肢を1つご選択ください。



Q7. 対面・リモート併用形式でのワークショップに参加してみてよかった点、悪かった（今後改善すべき）点について、どんな単純なことでも結構ですのご意見・ご感想をご記入ください。

【道央】
<p>○良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通費の予算が無く、移動に時間を要することから、リモートでの参加形式があることで参加しやすくなると思われる。</li> <li>・ 大きな会議等の会場は遠方であることが多く移動に時間がとられ業務に支障がある場合は参加できないので、併用はありがたかったです。グループワークの班分けをリモートはリモートのみに分けていただいたのも、対面参加者との温度差？を感じず助かりました。</li> <li>・ 遠隔地からでも参加がしやすい。また、様々な意見を聞く機会ができる。</li> <li>・ 交通費の手続きなど事務処理が簡略化され、参加についてのハードルが低くて済む。</li> <li>・ 当市は行わなかったが、複数人で参加できるというのもメリットであると思う。</li> </ul> <p>○悪かった（今後改善すべき）点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループワークがある場合、リモート参加者はカメラとマイクが使用できる機材で参加してもらうよう促した方が良い気がします（コメント入力だとタイムラグがでてしまうので）</li> <li>・ リモート参加では発言がしにくい。</li> <li>・ 現地とリモートが同じ作業を同時に行った場合、どうしても足並みがそろわない。（リモートが遅れる）</li> <li>・ 音が出ないといったネットワークの問題が、会議側にあるのか自分側にあるのか判断に時間がかかり、また改善にもある程度の知識が必要である。</li> </ul>

<b>【道南】</b>
<p>○良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対面参加でしたが、疑問点について容易に情報交換ができ良かったです。</li> <li>・ 対面で参加したため、休憩時間等にも他自治体等の担当者と意見交換を図ることができた。</li> <li>・ 対面形式で参加いましたが、名刺交換などが出来てよかった。</li> <li>・ 対面と比較しても特に違和感なく対応できていた</li> <li>・ リモート参加でも対面と同様に会議に参加できたと実感しています。</li> <li>・ リモートでも良いので、もう少し各市町村の参加人数が増えると良いと感じました。</li> </ul> <p>○悪かった（今後改善すべき）点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ内での自己紹介があったが、他のグループの人がわからない。</li> </ul>
<b>【道北】</b>
<p>○良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リモート併用は各団体参加しやすいのかなと思いました。</li> <li>・ 併用形式で実施する方法は参加者のニーズに合っていると考える。</li> <li>・ リモートでも十分理解することができた。</li> </ul> <p>○悪かった（今後改善すべき）点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主催者が案内した自治体等の数は把握していないが、上記のようにニーズに即した形式での開催にもかかわらず参加者（リモートも含め）が少ないように感じた。</li> <li>・ ワークショップでは、皆さんの雰囲気がよくわからず、迷惑をかけてしまったかと思います。</li> <li>・ リモート参加の方の音声が会場に響いていて、その参加しているグループにのみ聞こえる様な形にすると良いかと思いました。</li> </ul>
<b>【道東】</b>
<p>○良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自治体における地域性の特徴なども含め 災害廃棄物に対するお話を直接聞くことができた</li> </ul> <p>○悪かった（今後改善すべき）点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開催会場の環境（暑い）</li> </ul>

## 6. 災害廃棄物処理基礎講座の開催

エリア分科会及び人材育成事業終了後に、地方自治体、関係機関職員、民間事業者社員等で災害廃棄物処理に関する初任者を対象に、基礎的知識を習得するための基礎講座を開催した。

### 6.1 災害廃棄物処理基礎講座の実施概要

災害廃棄物処理基礎講座は、表 6.1-1 に示す日程、内容で実施した。

当日の資料は、4つのエリアのうち道央開催分を代表して資料編に整理した。

表 6.1-1 人材育成事業の実施概要

道央	開催日時	令和7年7月15日(火) 15:10~16:10
	開催場所	北海道中小企業会館 A会議室 [オンライン併用]
	参加人数	計24名 (市町村13自治体、道・振興局3局、民間団体2団体) ※事務局を除く
道南	開催日時	令和7年8月26日(火) 15:10~16:10
	開催場所	函館商工会議所 会議室 [オンライン併用]
	参加人数	計11名 (市町村6自治体、道・振興局2局) ※事務局を除く
道北	開催日時	令和7年7月29日(火) 15:10~16:10
	開催場所	旭川トーヨーホテル 水晶の間 [オンライン併用]
	参加人数	計8名 (市町村5自治体、道・振興局1局、民間団体1団体) ※事務局を除く
道東	開催日時	令和7年8月8日(金) 15:10~16:10
	開催場所	釧路市交流プラザさいわい 3F大ホール [オンライン併用]
	参加人数	計13名 (市町村6自治体、道・振興局2局、民間団体2団体) ※事務局を除く

内 容  
※4エリア共通

- (1) 災害廃棄物とは
- (2) 災害廃棄物処理の流れ
- (3) 初動対応
- (4) 仮置場の設置とその重要性
- (5) 災害廃棄物処理の体制
- (6) 補助金申請について

<当日の資料抜粋>

3. 災害廃棄物とは

### 災害廃棄物の分類

※被災者所有物における災害廃棄物対策の取組状況について(令和6年10月)

4. 仮置場の設置とその重要性

### 仮置場運営 人員・資機材の確保と運営体制の確立

時間経過 →

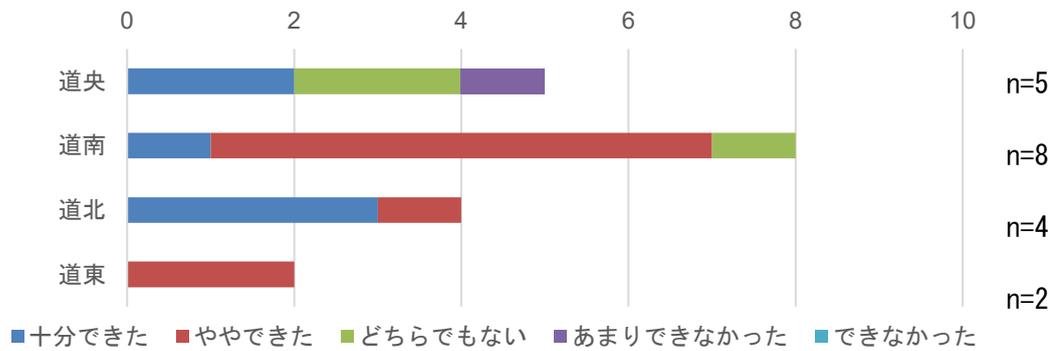
<b>検討</b>	対応部署の体制	仮置場の検討開始	仮置場の設置方針
<b>選定</b>	候補地の選定	地権者交渉	候補地の確定
<b>整備</b>	土壌調査(事前)	契約(仮置場整備)	整備工事
<b>供用</b>	契約(収集運搬・仮置場管理)	環境管理	運搬管理(搬出入)
<b>復旧</b>	土壌調査(事後)	復旧工事	返還立会

仮置場整備 運搬管理(重量計測) 運搬管理(処分/処分)

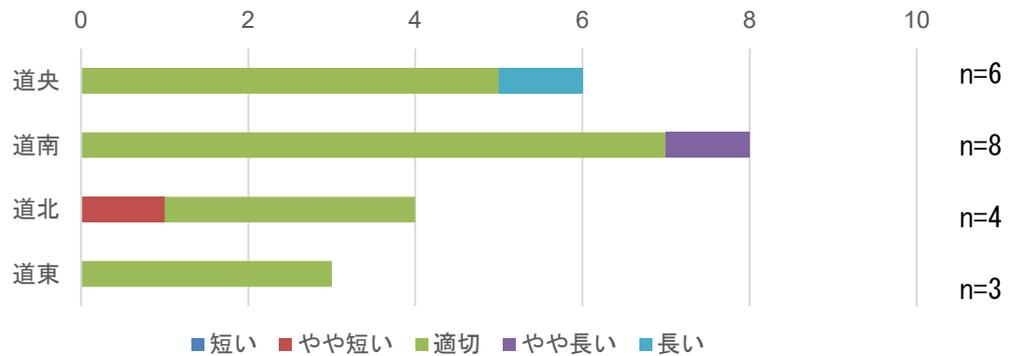
## 6.2 災害廃棄物処理基礎講座の実施結果

災害廃棄物処理基礎講座の参加者に対し、アンケートを実施した。結果を以下に示す。

Q1. 今回の基礎講座を通じて、災害廃棄物処理の全体像及び基礎知識について、具体的にイメージできましたか。



Q2. 災害廃棄物処理基礎講座の時間（1時間）は適切でしたか。



Q3. 災害廃棄物処理基礎講座の内容について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

<b>【道央】</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ ワークショップの前に開催しても良いかと思いました。</li><li>・ 基礎講座をGWより先にやった方がいいと思う。</li></ul>
<b>【道南】</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 補助申請は、かなり困難なものだと改めて認識しました。それについても、申請に必要な様式を準備するなど、事前の準備を進めていきたいと考える。</li></ul>
<b>【道北】</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 災害廃棄物関係の業務は常時従事しているものではないので、定期的に一定量の知識を習得し定着させることが必要と考えており、今回の基礎講座は貴重な機会だった。</li><li>・ 今後も協議会やワーキングの中で、限られた時間であっても基礎講座の実施を希望する。</li><li>・ 災害廃棄物については、今まで考えたことが無かったことから、重要性を認識することができた。</li><li>・ ワークショップの前に開催しても良いかと思いました。</li></ul>

## 7. 仮置場 WG の開催

災害廃棄物の処理を円滑に進めるためには、仮置場の速やかな設置とその円滑な運営が重要である。

仮置場の設置・運営について自治体の立場から意見を出し合い検討することで、災害廃棄物処理における仮置場の速やかな設置とその円滑な運営を図ることを目的とし、仮置場 WG を開催した。

### 7.1 仮置場 WG の実施概要

大規模災害時廃棄物対策北海道ブロック協議会 仮置場 WG は、表 7.1-1、表 7.1-2 に示す日程、議題で開催した。WG メンバーの所属団体種別及び団体数、人数は表 7.1-3 のとおりである。

表 7.1-1 第 1 回仮置場 WG の開催概要

開催日時	令和 7 年 10 月 2 日 (木) 15:00~17:00
開催場所	[オンライン開催]
主な内容	<p>話話題提供：仮置場の重要性について 等 意見交換①：仮置場候補地選定に係る課題と解決方法 意見交換②：仮置場の管理運営に係る課題と解決方法</p> <p style="text-align: center;">＜当日の資料抜粋＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>仮置場設置の重要性</b></p> <p>近年我が国では、水害(土砂災害、洪水、浸水)や地震等の自然災害が頻繁に発生しており、それに伴う災害廃棄物の処理については、平時から検討を行うことの重要性が再認識されています。</p> <p>【仮置場とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害に伴い大量に発生する災害廃棄物を適正かつ迅速に処理処分するために、一時的に災害廃棄物を集めて保管する場所のことです。仮置場は市町村が設置し、管理していくものです。</li> </ul> <p>【仮置場の重要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮置場が用意できない行き場のない災害廃棄物は、道路や空き地等に積み上げられ、道路をふさぎ、緊急車両や歩行者の通行をさまたげます。また、管理されていない空き地の災害廃棄物は、分別されないまま混合廃棄物の山となり、悪臭や害虫発生等の衛生面の問題、自然発火による火災発生といった安全面の危険などが生じてしまいます。さらに、その後、これら災害廃棄物を適正に処理していくとすると、より多くの時間、手間、費用が必要になってしまいます。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>仮置場設置の重要性</b></p> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>仮置場の管理運営</b></p> <p>参考：仮置場の管理運営における優良取組事例(東日本大震災)</p> <p>宮城県仙台市：簡易遮水シートの敷設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮置場(10,000m<sup>2</sup>)の簡易な遮水シートを設置。</li> <li>重機がシート上を通行しても破れないよう、50cm程度の土砂で覆土。</li> <li>災害廃棄物から汚水等が溢れないよう、周辺に50cm程度の疑似埋堤を設置。</li> </ul> <p>宮城県東松山市等：分別の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>石油ストローや塗料類を徹底してほかのごみと分離。</li> <li>石油ストローは燃料タンクと電池を取り出して保管。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>仮置場管理運営の好事例の紹介</b></p> </div> </div>
参加人数	計 8 名 (計 2 班) (市町村 6 自治体) ※事務局を除く

表 7.1-2 第2回仮置場WGの開催概要

開催日時	令和7年12月19日(金) 13:00~15:00
開催場所	[オンライン開催]
主な内容	<p>話題提供：仮置場の重要性について 等                  意見交換①：仮置場候補地の管理・運営に係る課題と解決方法                  意見交換②：平時に自治体で実施できる災害対応力の向上の方策</p> <p style="text-align: center;">＜当日の資料抜粋＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>地域の実情に合わせた収集-仮置の方法</b> 15</p> <p>被災市町村による片付けごみの回収方法として以下が挙げられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 戸別回収                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が家の前に片付けごみを排出する。</li> <li>・車両等の通行の妨げにならないものとし、生活ごみと区分して排出する。</li> <li>・家の前の片付けごみは、被災市町村が広い土地に設置した仮置場に集積する。</li> </ul> </li> <li>□ 住民集積場                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・片付けごみは、家から住民集積場まで、住民がリヤカーや自転車等により排出する。</li> <li>・被災地域の近隣の児童公園や集会所の駐車場に複数設置し、1~3ヶ月程度で閉鎖する。</li> <li>・住民集積場の片付けごみは、郊外などの広い土地に設置した仮置場に、被災自治体が徐々に集約する。</li> </ul> </li> <li>□ 仮置場                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が仮置場まで、軽トラック等により片付けごみを排出する。</li> <li>・広い土地に設置する。</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="width: 45%;"> <p><b>地域の実情に合わせた収集-仮置の方法</b> 23</p> <p>事例【住民集積場(地区集積場)】静岡市(令和4年 台風第15号)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自治会ごとに可能な範囲で臨時ごみ集積所の管理を依頼したが、集入される片付けごみの量は多く、管理が困難な臨時ごみ集積所も多数あった。初期段階には分別が徹底されていたものの、徐々に管理が難しくなってしまう場所もあった。</li> <li>市内でも時に大型の臨時ごみ集積所は、テレビや新聞等で連日報道された影響もあり、他の地域からも災害ごみが持ち込まれる事態となった。</li> <li>住民同士トラブルも多く、安全性の面からも早期の撤去が必要であったことから、大型の臨時ごみ集積所については自衛隊に撤去を依頼した。</li> <li>臨時ごみ集積所における管理を徹底してきちんと分別されていた例もあった。分別が徹底されていたことで、収集の効率がよくなり、早期の撤去に繋がった。</li> </ul>  <p style="font-size: small;">自治体によって分別の徹底状況や、臨時ごみ集積場                  ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺</p> </div> </div> <p style="text-align: center;"><b>収集方法の説明</b></p> <p style="text-align: right;"><b>地域の実情に合わせた収集事例の紹介</b></p>
参加人数	計7名(計1班) (市町村6自治体) ※事務局を除く

表 7.1-3 仮置場WGメンバー

エリア	市町村	人数
道央	空知総合振興局管内 2市町村	3名
	後志総合振興局管内 1市町村	
道南	渡島総合振興局 1市町村	1名
道北	—	0名
道東	釧路総合振興局管内 2市町村	7名
	十勝総合振興局 1市町村	
	オホーツク総合振興局管内 1市町村	

## 7.2 仮置場 WG の実施結果

仮置場 WG の実施結果について以下に示した。なお、話題提供や意見整理等に用いた当日の資料は資料編に整理した。

第1回 WG では仮置場選定、管理運営に関する課題を抽出した。第2回 WG では仮置場設置訓練も踏まえて、より具体的な仮置場に関する課題を抽出した。

### 7.2.1 第1回仮置場 WG

本 WG では仮置場の設置・運営に係る事例紹介を話題提供したのち、参加者（団体）を2班に分け、仮置場候補地の選定、仮置場の管理運営に関する課題を抽出し、解決策を検討した。班ごとの意見整理シートを図 7.2-1、図 7.2-2 に示す。

また、仮置場候補地の選定に係る課題として共通した内容を類型化して表 7.2-1、表 7.2-2 に示した。

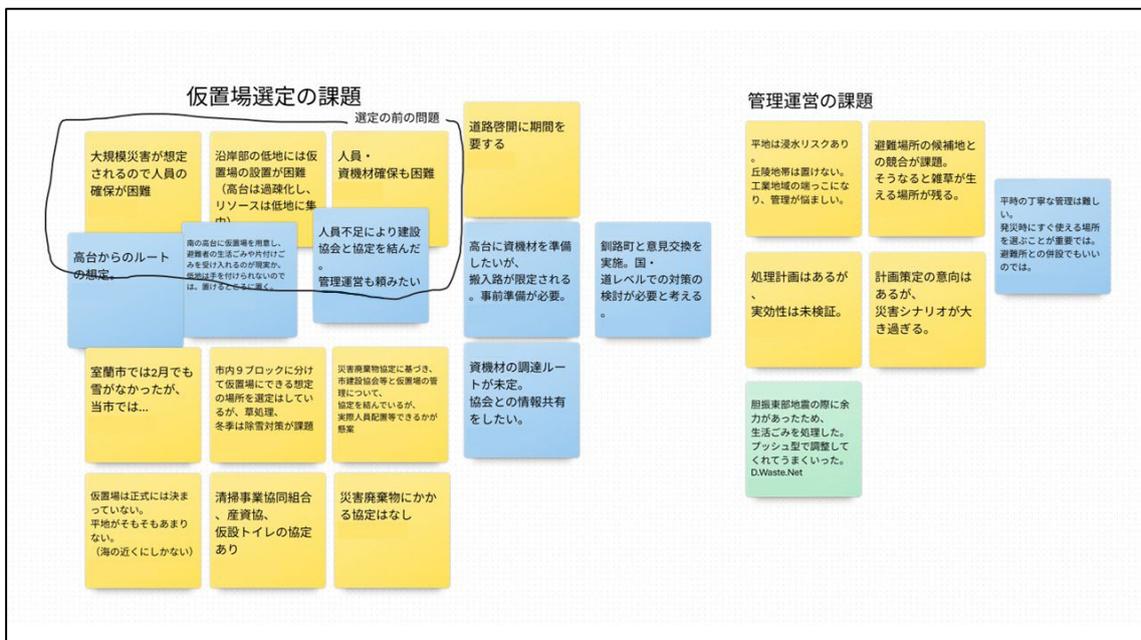


図 7.2-1 班ごとの意見整理シート（A班）



表 7.2-1 仮置場候補地選定に係る課題

項目	課題	解決策
必要面積の確保について	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸部以外、平地がそもそも少ないため仮置場が正式に決まっていない。</li> <li>市有地では面積的に不足する。国や道有地を紹介してもらえないか。</li> <li>平地は浸水リスクがあり、丘陵地帯は面積が足りない。</li> <li>仮置場候補地が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発災後すぐに使える場所を選ぶことが重要では。</li> <li>避難所と併設でも良いのでは。</li> <li>学校の統廃合により仮置場候補地となる場所もできる可能性もある。</li> </ul>
地域住民との調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地に係る町内会への説明、パブリックコメントの対応に労力がかかる。</li> <li>仮置場と周辺との調整が難しい。</li> </ul>	
手続き	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地にする手続きが煩雑である。</li> </ul>	
他計画との整合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>策定済みの処理計画で決められた候補地が適切か検証できていない。</li> <li>地域防災計画との整合性を取る必要がある。</li> </ul>	
冬期の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>候補地としている場所は、冬季雪捨て場になるため、冬季の災害で利用できるか分からない。</li> <li>雑草処理、冬期は除雪が必要となり課題である。</li> </ul>	
運搬経路	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路啓開に時間を要する。</li> <li>処理施設が被災した場合の対応を明確化できていない。</li> <li>津波被害の場合、候補地にアクセスできなくなる可能性がある。</li> <li>高台に資機材を準備するには搬入路が限定される。</li> <li>沿岸部の低地には仮置場の設置が困難（高台は過疎化し、低地は開発されている）。</li> </ul>	
資機材	<ul style="list-style-type: none"> <li>資機材の確保が困難。調達方法が未定である。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>国、道レベルでの対策が必要ではないか。</li> </ul>	

表 7.2-2 仮置場管理運営に係る課題

項目	課題	解決策
平時の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難場所の候補地との競合が課題になる。余った土地は雑草等管理の手間がかかる場所である。</li> <li>・ 平時から管理を行う予算がない。</li> <li>・ 平時の丁寧な管理が難しい。</li> <li>・ 周辺住民から要望のない限り、平時に草刈り等はできていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平時利用されている土地は管理を行いやすい。</li> </ul>
災害時 人員配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人員が限られるため、点在する仮置場への人員配置が難しい。</li> <li>・ 夜間の管理</li> <li>・ ボランティア受け入れ、廃棄物に詳しくない人材の配置について課題がある。</li> <li>・ 廃棄物について知見、経験のある人材の確保ができるのか。</li> <li>・ 災害廃棄物協定に基づき建設協会等と仮置場の管理について協定を締結しているが実際、人員配置できるか懸念がある。</li> <li>・ 大規模災害が想定されるので人員の確保が困難。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最終処分場の事業者へ委託すると円滑に進むのでは。</li> <li>・ 防災部門と協議して必要人員を割り振る。</li> <li>・ 民間、収集運搬事業者との協定を締結し支援してもらう。</li> </ul>
役割 分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災部門との人員配置の調整が必要になる。</li> <li>・ 発災時の補助金対応を課内で行うのか、補助金に詳しい部門が担当するのか、役割分担ができていない。</li> <li>・ 災害廃棄物処理計画策定、防災計画策定、市有地の管理がそれぞれ異なる部署のため、調整が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助金に詳しい部門が担当する。平時に協議を行い、処理計画に記載する。</li> </ul>
冬期の 対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬期の管理について、災害廃棄物処理計画に記載しているが、実際は対応が難しいこともあるのではないか。</li> <li>・ 冬期の管理について災害廃棄物処理計画に記載するのか、BCPに記載するのか不明確である。</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 処理計画はあるが、実効性は未検証である。</li> <li>・ 計画策定の意向はあるが災害シナリオが大き過ぎる。</li> <li>・ 治安が悪くならないか（便乗ごみ等が投棄されないか。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助金事務の簡素化（国の対応）</li> </ul>

## 7.2.2 第2回仮置場WG

本WGにおいては第1回のWGで類型化した仮置場候補地選定にあたっての課題および、仮置場設置訓練を踏まえて、仮置場候補地の管理・運営に係る課題と解決方法、平時に自治体で実施できる災害対応力の向上の方策を意見交換した。意見交換の内容を図7.2-3に示す。類型化した課題を表7.2-3に、対応策を表7.2-4に示す。

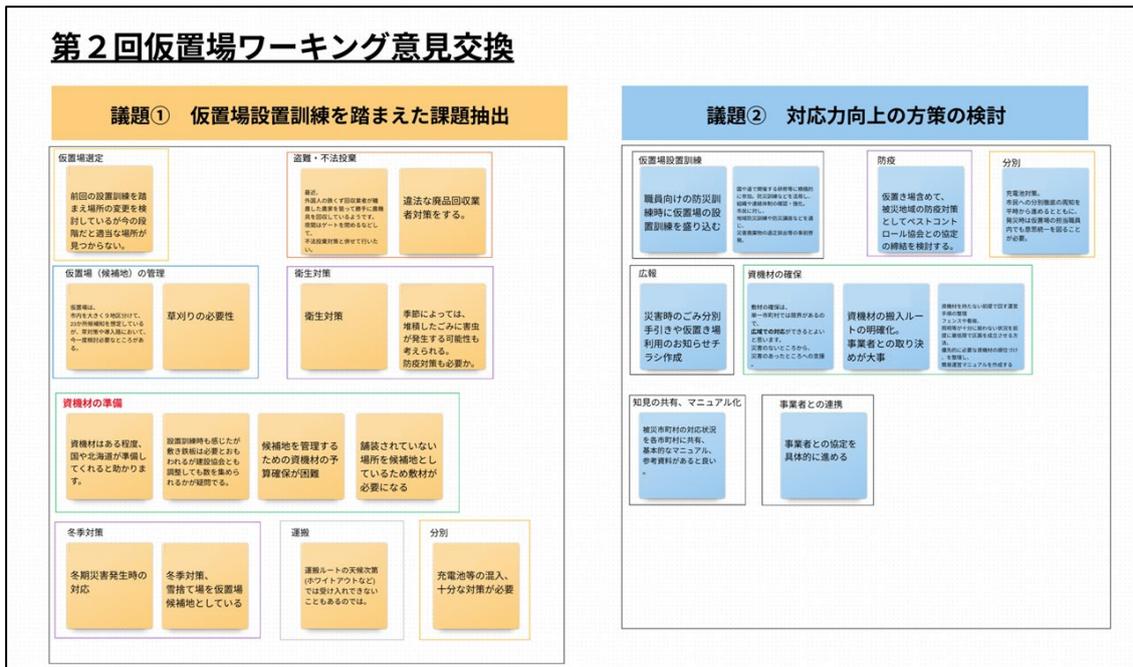


図 7.2-3 仮置場候補地選定に係る課題の解決策

表 7.2-3 仮置場候補地選定に係る課題

項目	課題
仮置場選定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回の設置訓練を踏まえ場所の変更を検討しているが、今の段階だと適当な場所が見つからない。</li> </ul>
仮置場（候補地）の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入路において、今一度検討が必要などところがある。</li> <li>・ 草刈りが必要。</li> </ul>
資機材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資機材をある程度、国や北海道が準備してほしい。</li> <li>・ 敷き鉄板は必要とおもわれるが建設協会とも調整しても数を集められるかが疑問である。</li> <li>・ 候補地を管理するための資機材の予算確保が困難。</li> <li>・ 舗装されていない場所を候補地としているため敷材が必要になる。</li> </ul>
盗難・不法投棄対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄くず回収業者が離農した農家を狙って勝手に農機具を回収しているという話を聞く。</li> <li>・ 夜間はゲートを閉めるなどして、不法投棄対策と併せて盗難対策を行いたい。</li> <li>・ 違法な廃品回収業者の対策をする。</li> </ul>
衛生対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節によっては、堆積したごみに害虫が発生する可能性も考えられる。防疫対策も必要か。</li> </ul>
冬期対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 雪捨て場を仮置場候補地としているため、冬季対策が必要である。</li> <li>・ 運搬ルート为天候次第（ホワイトアウト）では受け入れできないこともあるのでは。</li> </ul>
分別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 充電池の混入等の対策が必要。</li> </ul>

表 7.2-4 対応力向上の方策の検討

項目	方策
資機材の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資機材の確保は、単一市町村では限界があるので、広域での対応ができるとよいと思う。</li> <li>・ 災害のないところから、災害のあったところへの支援が大事。</li> <li>・ 資機材の搬入ルートの明確化。事業者との取り決めが大事。</li> <li>・ 資機材を持たない前提で回す運営手順の整理が必要。</li> <li>・ フェンスや看板、照明等が十分に揃わない状況を前提に最低限で区画を成立させる方法、優先的に必要な資機材の順位づけ、を整理し、簡易運営マニュアルを作成する。</li> </ul>
衛生対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仮置場含めて、被災地域の防疫対策としてペストコントロール協会との協定の締結を検討する。</li> </ul>
分別	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 充電池対策については、市民への分別徹底の周知を平時から進めるとともに、発災時は仮置場の担当職員内でも意思統一を図ることが必要。</li> </ul>
訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員向けの防災訓練に、仮置場の設置訓練を盛り込む。</li> <li>・ 国や道で開催する研修等に積極的に参加。防災訓練などを活用し、組織や連絡体制の確認・強化。市民に対し、地域防災訓練や防災講座などを通じ、災害廃棄物の適正排出等の事前啓発をする。</li> </ul>
広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時のごみ分別手引きや仮置き場利用のお知らせチラシを作成するとよいのでは。</li> </ul>
知見の共有・マニュアル化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの被災市町村の対応状況を各市町村に共有する、基本的なマニュアル、参考資料があると良い。</li> </ul>
事業者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業者との協定を具体的に進める。</li> </ul>

## 8. 仮置場設置訓練の開催

---

自治体職員、関連団体職員等が仮置場の設置、管理運営について理解を深め、迅速かつ的確な対応ができるようになることを目的として実地訓練を実施した。できるだけ多くの関係者が参加できるよう旭川市会場、美幌町会場、共和町会場の3か所で訓練を開催した。

### 8.1 仮置場設置訓練の実施概要

旭川市会場、美幌町会場、及び共和町会場の3か所においてそれぞれ以下の要領で実施した。

#### 8.1.1 開催時期と場所

旭川市会場：令和7年10月24日（金）10:00-15:00

美幌町会場：令和7年10月30日（木）10:00-15:00

共和町会場：令和7年11月7日（金）10:00-15:00

#### 8.1.2 訓練対象

市町村、一部事務組合、広域連合、民間団体及び北海道（総合）振興局の職員

#### 8.1.3 想定災害

水害により大量の災害廃棄物が発生

#### 8.1.4 事前勉強会

第1回：令和7年10月21日（火）13:30-15:30

第2回：令和7年10月27日（月）13:30-15:30

第3回：令和7年11月4日（火）13:30-15:30

#### 8.1.5 仮置場設置運営訓練

午前中は事務局による仮置場運営のデモンストレーションを行い、午後は参加者が受付や搬入などの役割を交代しながら仮置場運営の訓練を実施した。また、班ごとに適切な仮置場レイアウト、訓練について意見交換を行い発表した。

## 8.2 仮置場設置訓練の実施結果

### 8.2.1 事前勉強会の開催

仮置場設置訓練の効果を高めるために事前勉強会をオンラインで開催した。事前勉強会では、災害廃棄物の特徴、初動対応の重要性、仮置場の設置や運営に必要な基礎知識の説明、訓練について説明した。基礎知識については各回とも同様の内容とした。訓練に参加する場合はいずれかの勉強会に事前に参加することを推奨し、事前勉強会のみでの参加も受け付けた。事前勉強会の内容について図 8.2-1 に示す。なお、使用した資料は資料編に整理した。

41

**仮置場の運用に当たっての留意事項**

仮置場の運用のポイント

- ・ 人員の確保
- ・ 災害廃棄物の分別
- ・ 搬入量・搬出量の把握
- ・ 早期の搬出と仮置場の整理・整頓
- ・ 野焼きの禁止、便乗ごみ・不法投棄の禁止
- ・ 仮置場の安全管理

【人員の確保】

- ・ 仮置場を管理・運営するためには、受付、交通誘導員、分別指導員、荷下ろし補助員等が必要である。平時から応援体制の構築や近隣自治体との災害支援協定の活用やシルバー人材センター等との連携について協議し、円滑な人員確保のための体制を整えておくことが重要である。

出典：災害廃棄物対応隊（R7）の仮置場の運用に当たっての留意事項（01.4.1）抜粋

61

**仮置場設置訓練について（R7北海道ブロック）**

- ・ 参加者は6つ程度（A～F）に班分けし、自治体役（受付・同行）、住民役、及び仮置場のレイアウト変更をすべて経験いただけるよう実施する予定です。

時間の流れ	実施回数	使用するレイアウト	自治体役（受付・同行）	住民役①	住民役②	見学
	午前中にデモとして事務局がレイアウト設置済					
	1	a	A	B	C	←以外
	2	a	D	E	F	←以外
	A,B,C班でレイアウト変更					
	3	b	B	C	D	←以外
	4	b	E	F	A	←以外
	D,E,F班でレイアウト変更					
	5	c	C	D	E	←以外
	6	c	F	A	B	←以外
	班内で意見交換、各社の代表者が発表					
	講評					

受付

受付

荷下ろし

図 8.2-1 事前勉強会の内容（抜粋）

## 8.2.2 仮置場設置訓練（旭川市会場）

### (1) 訓練方法

事務局が設置した仮置場の資機材、レイアウトを参加者へ説明した後、仮置場運営のデモンストレーションを行った。その後、参加者を班分けして、仮置場を運営する自治体職員役、災害廃棄物を搬入する住民役として仮置場の設置から廃棄物の受入シミュレーションを実施した。また、仮置場で必要な資機材の確認、レイアウト変更を行った。

訓練終了後、班ごとに振り返りを行い、気づき、課題等を共有した。

### (2) 想定した効果

訓練により下記の効果を図った。

- ・ 仮置場の規模感、運営の流れの体験することにより平時より必要な準備について、気づきを得ること。
- ・ 参加者と交流・意見交換することにより、災害廃棄物処理関係者間の交流を深めること。

### (3) 使用した資料

下記に示す資料を使用した。なお、使用した資料は資料編に掲載した。

- ・ 仮置場設置訓練開催概要
- ・ 訓練チラシA（レイアウト a 掲載）
- ・ 訓練チラシB（レイアウト b 掲載）
- ・ 訓練チラシC（レイアウト c 掲載）
- ・ 仮置場日報
- ・ 罹災証明書
- ・ プログラム

#### (4) 訓練のスケジュール

当日のスケジュールを、表 8.2-1 に示す。

スケジュールについては、前日・当日の天候や気温、地面の状況、参加者の様子を踏まえ調整を行った。

表 8.2-1 訓練スケジュール

時間	内容
09:30～10:00 (30分)	受付
10:00～10:10 (10分)	開会挨拶
10:10～11:30 (80分)	・スケジュール、実施方法説明 ・仮置場資機材、レイアウト確認 ・事務局デモンストレーション
11:30～12:30 (60分)	昼休憩
12:30～14:50 (140分)	・仮置場設置、廃棄物受入シミュレーション ・レイアウト変更 ・レイアウト検討、検討結果共有 ・訓練振り返り、気づき共有
14:50～15:00 (10分)	閉会挨拶

#### (5) 役割分担

各 4～5 人の 5 グループに分かれて訓練を実施した。グループごとに役割を入れ替えて、全ての役割の対応をした。役割について、表 8.2-2 に示す。

表 8.2-2 参加者の役割

役割		対応
自治体役	受付係	搬入者の受付
	誘導係	出入口及び場内の車両誘導
	受入補助係	荷下ろし補助、分別誘導
住民役	搬入者	住民として片付けごみを搬入する

#### (6) 災害設定

訓練の災害設定等を表 8.2-3 に示す。

表 8.2-3 模擬訓練の災害設定

種別	内容
災害設定	・ 水害により、災害廃棄物が大量に発生。
仮置場の状況	・ 事前に策定していた仮置場レイアウト案に基づいて仮置場を開設した。 ・ 住民が片付けごみの搬入を始める。

## (7) 取り扱う廃棄物

模擬訓練で取り扱った廃棄物について表 8.2-4 に示す。廃棄物は資源循環及び安全性の観点から、模擬ごみとして廃棄物の種別を記載した用紙を貼付したダンボールを利用した（以下、「ダンボールごみ」という）。

表 8.2-4 模擬訓練で取り扱った廃棄物種類

分別区分	具体例
可燃混合	ぬいぐるみ、洋服類、こたつ布団、カーペット、衣装ケース、布団
不燃混合	鏡、ベビーカー、DVD、CD、ホットカーペット、ベッドマット、スキー用品、スーツケース、水槽、電気毛布、クーラーボックス
大型家具	こたつテーブル、テレビ台（木製）、机、戸棚、リクライニング付ベッド、たんす、下駄箱
家電 4 品目	冷蔵庫、エアコン室外機、窓用エアコン、家庭用ワインセラー、ポータブル保冷庫、テレビ
その他家電	掃除機、ポット、電子レンジ、電気ストーブ、スピーカー、照明器具、食洗機、電気ファンヒーター、空気清浄機、扇風機、ゲーム機、モニター、パソコン
危険物	灯油ストーブ、灯油タンク（ポリ）、灯油タンク、ガスボンベ
消火器	消火器
金属くず	ガスコンロ、スチール棚、ワゴン（スチール）、ゴルフ用品、車いす、自転車、三輪車
非対応	農業用ビニールハウス、車のバッテリー、農薬



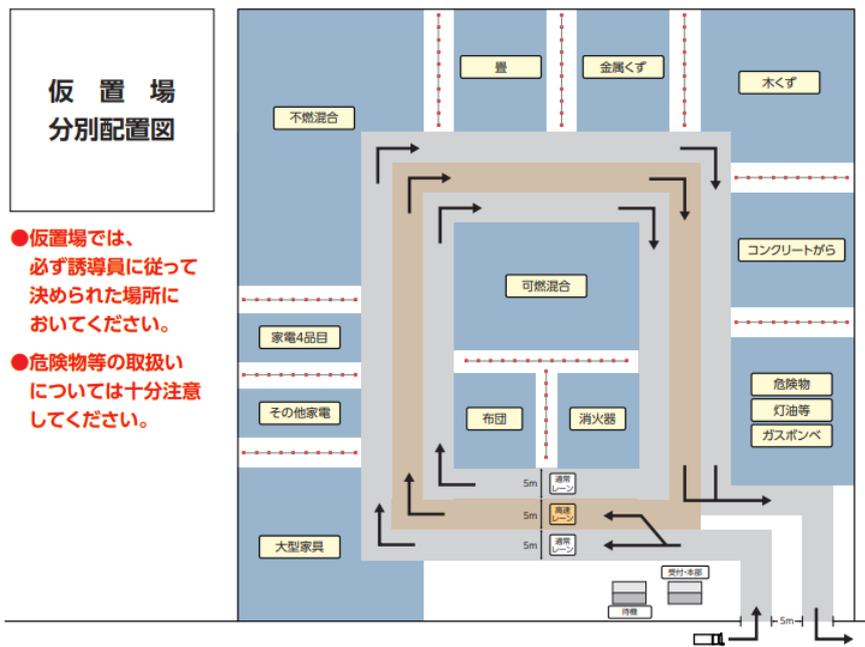


図 8.2-3 レイアウト b

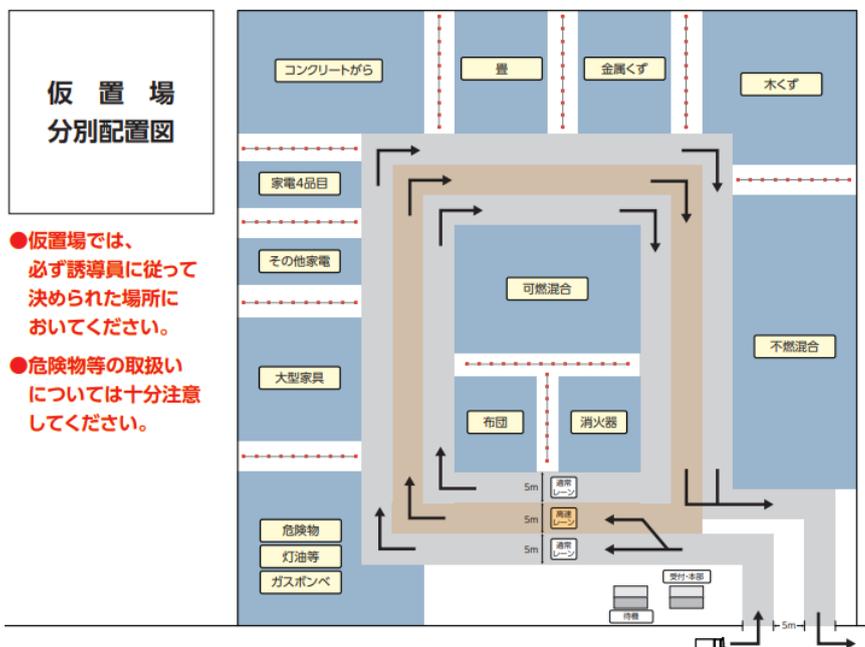


図 8.2-4 レイアウト c

(10) 実地訓練の流れ

表 8.2-6 に各役割別の流れ、表 8.2-7 に役割分担の順番を示す。各役割を交代で担当し、各班が全ての役割を経験した。

表 8.2-6 実地訓練の流れ

	役割	対応内容
搬入・受付	搬入者	<ul style="list-style-type: none"> <li>軽トラックにダンボールごみを積み込み、仮置場に搬入する。</li> <li>受付で受付係の指示を仰ぐ。</li> </ul>
	受付係	<ul style="list-style-type: none"> <li>搬入者の受付を行う。</li> <li>搬入者に罹災証明書または身分証明書の提示を求める。</li> <li>廃棄物の種類、状態、量を確認して受け入れ可能か確認する。</li> <li>廃棄物の分別、仮置場内の順路を指示する。</li> </ul>
荷下ろし	搬入者	<ul style="list-style-type: none"> <li>受入補助係の指示に従い、荷下ろしを行う。</li> <li>原則として搬入者自身が荷下ろしを行う。</li> </ul>
	誘導係	<ul style="list-style-type: none"> <li>搬入車両を順路に従い、所定の区画まで誘導する。</li> <li>順路に従うよう指示する。</li> <li>荷下ろし後、出口へ誘導する。</li> </ul>
	受入補助係	<ul style="list-style-type: none"> <li>搬入者が適切に分別して荷下ろしすることを確認する。</li> <li>他者も廃棄物を搬入しやすいように配置することを指示する。</li> </ul>

表 8.2-7 役割分担の順番

実施回数	使用するレイアウト	自治体役(受付・同行)	住民役①	住民役②	見学
<b>午前中にデモとして事務局がaのレイアウト設置</b>					
1	a	A	B	C	←以外
2	a	D	E	A	←以外
<b>A,B,C班でa→bにレイアウト変更</b>					
3	b	B	C	D	←以外
4	b	E	A	B	←以外
<b>D,E班でb→cにレイアウト変更</b>					
5	c	C	D	E	←以外
6	c	時間を踏まえ事務局より指示			
班内で意見交換、各班の代表者が発表					
講評					

### (11) レイアウト検討

班ごとに訓練を行ったレイアウト a、b、c を参考に、水害に適したレイアウトを検討した。検討内容を表 8.2-8 に示す。

表 8.2-8 レイアウト検討内容（旭川市会場）

A 班
大型ごみ、漂流してくるタイヤ等が想定されるため、置場を作ると良い。
B 班
レイアウト c が良いと考える。水害ではコンクリートがら、木くずが少なくなる。一方、ガラス、陶器の不燃ごみが多くなるので置場区域を作りたい。河川が氾濫するとスペアタイヤが流れてくるので置場区域が必要になる。
C 班
B 班同様、レイアウト c が良いと考える。住民は軽いものを上に積んでおり、荷下ろしの際も軽いものから、重いものの順になる。仮置場レイアウトもそのように設定すると良い。不燃物にガラス、陶磁器が多くなるので区域を作っても良いかもしれない。土砂置場も必要になる。
D 班
住民は大型ごみを先に積んで、細かいものを後に積むと想定される。仮置場のレイアウトも細かいゴミを先に設定し、大型家具や畳を後としたら良いと思われる。タイヤも多いと想定するため区域と作りたい。コンクリートがらの面積は小さくて良い。
E 班
水害では畳の廃棄物が多く発生する。軽トラ等に積む際、畳の上に家具、家電を載せるので、そのようなレイアウトにすると荷下ろしがスムーズだと考えるため、先に家電、タイヤの置場を設定したい。

## (12) 訓練の振り返り

訓練の気づき、感想について班ごとに話し合い、全体に共有した。振り返り内容を表 8.2-9 に示す。

表 8.2-9 訓練の振り返り内容（旭川市会場）

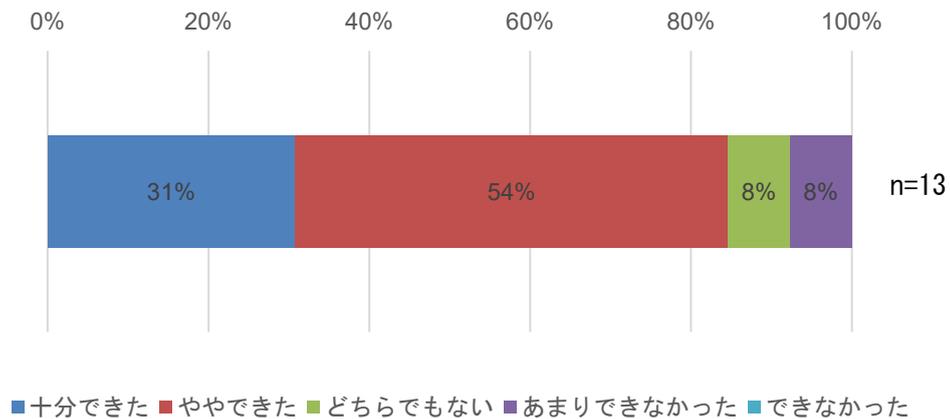
A 班
本日は訓練なので丁寧に荷物確認、罹災証明確認をしたが、実際は悠長にもできないのではないかと思う。廃棄物の各置き場所に人を配置して指示することが大切になる。どう分別するのか、判断に困るものも多く出てくること等を考える機会になった。
B 班
品目の処理先を決めてからでないと分別の区域分けを計画しても意味がないと感じた。レイアウトについて、住民は軽トラに大きいものから先に積んで、細かいものを後に積むことが想定されるのでレイアウトも荷下ろししやすいようにする必要がある。受付でレイアウト、置き場所を番号で指示したらスムーズに行くのではと考えた。
C 班
災害は突然起こるので、事前準備が非常に大切だと感じた。自治体が処理業者等と事前に協議したうえで仮置場での分別について決めていくことが大切だと考えた。
D 班
自分は民間の立場であるが、行政が対応される仮置場の受付を体験ができたのでよかった。混合廃棄物となってしまうと、処理のための分別が大変で手間がかかる。最初の一次仮置場で分別できると良いと考えている。便乗ごみ、分別されていないゴミへの対応、仮置場内でのルート、レイアウト等を予め決めておかないとうまくいかない。行政と連携として平時より上手くできたらよいと感じた。
E 班
仮置場設置を体験することで、実感を持って理解することができた。看板、みせごみ等、住民に理解しやすい工夫が必要である。発災時には住民とコミュニケーションをとって、仮置場のルールをしっかりと説明することが必要である。民間事業者と協定を締結するだけでなく、事業者のBCPを確認する等、日頃から準備していきたい。

### (13) アンケート結果

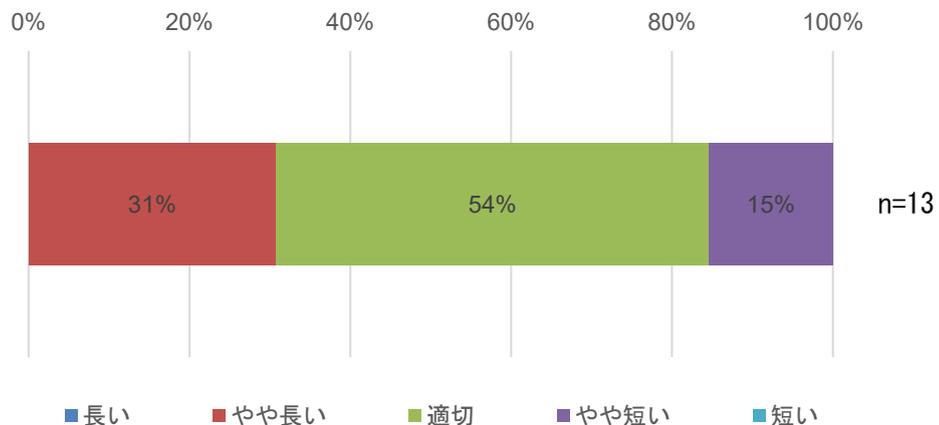
訓練実施後に参加者に対しアンケートを実施した。

アンケート結果については、以下のとおり。

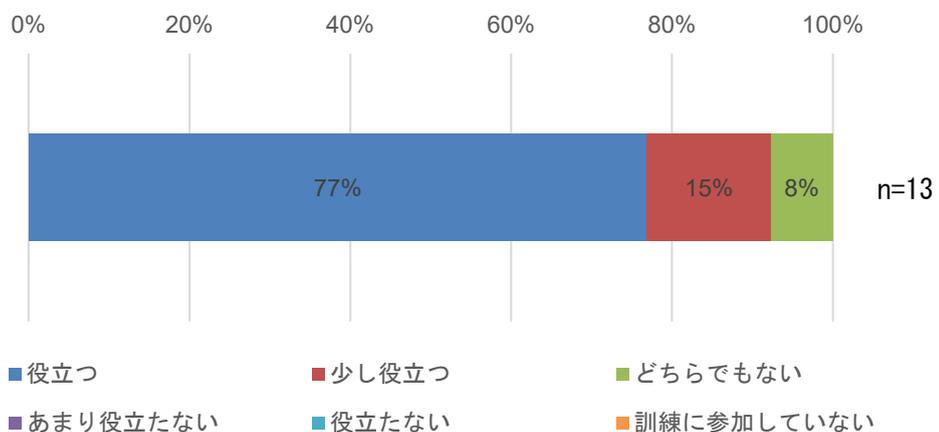
Q1. 事前勉強会を通じて、仮置場について具体的にイメージできましたか。



Q2. 事前勉強会の時間（2時間）は適切でしたか。



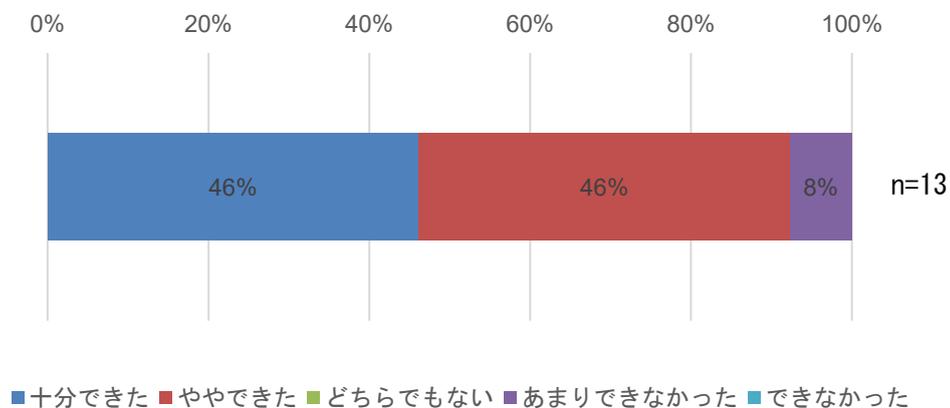
Q3. 事前勉強会の内容は、仮置場設置訓練での理解を深めるのに役立ちましたか。



**Q4. 事前勉強会について気づいたこと、学んだことがありましたら、ご記入ください。**

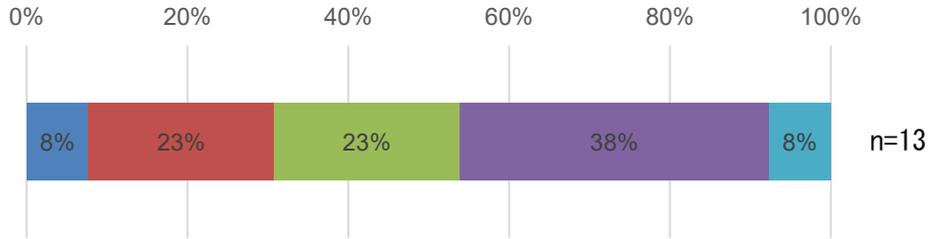
- ・活字だけではなく、写真やイラストもあったので、よりイメージがつかえました。
- ・仮置き場をどう設置運営するかは、その後必要になる作業・対応時間にも影響するという事。
- ・発災時、事前に選定した仮置き場候補地から仮置き場を速やかに選定していけるよう、平時から当市の候補地の現状確認、対応手順のさらなるイメージトレーニングが必要と感じた。また、勝手仮置き場や便乗ごみ発生防止対策も重要であること、そのため住民周知をしっかりと行うことで、仮置き場の設置準備や運営に注力できると改めて感じた。
- ・毎回同じ内容で復習出来るので良いと思います。
- ・仮置き場についての基本的な知識を再確認できた。
- ・休憩時間を挟みながらの方が良いと思う。
- ・レイアウトの種類があれば良い。
- ・災害ごみの量がドローンでわかるとのことだったので、資料等があればうれしいです。
- ・災害時の緊急仮置き場に対する留意点を学ぶことができた。
- ・実地訓練を経たうえで、事前勉強会での実際の対応事例や検討方法について実感を持って理解することができた。
- ・道内ブロック毎の、災害廃棄物受け入れ可能施設の情報（品目、数量、受け入れ条件等）を共有できるとありがたいです
- ・仮置き場の候補地について、協定先事業者の意見も踏まえて、改めて現地調査を行うことの必要性を感じている。
- ・説明が長く、やや中だるみする内容であった。

**Q5. 訓練通じて仮置き場の設置・運営の流れを理解できましたか。**



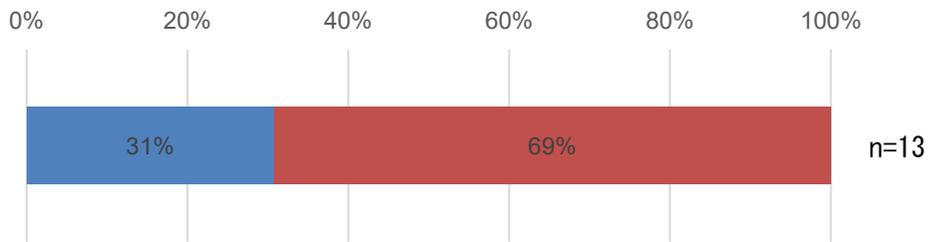
Q6. 訓練の前後で、仮置場設置・運営に関する理解度はどのように変化しましたか。

【訓練前】



- 十分理解している
- やや理解している
- どちらでもない
- あまり理解していない
- 理解していない

【訓練後】



- 十分理解している
- やや理解している
- どちらでもない
- あまり理解していない
- 理解していない

Q7. 訓練について気づいたこと、学んだことがありましたら、ご記入ください。

- ・ デモンストレーションや訓練を通して、仮置場設置のイメージができた。
- ・ 配置のあり方や地面状況による影響もできるだけ事前に想定しておくべきだとわかりました。
- ・ 被災した住民から想定される質問にたいするやりとり、仮置場運営者側の動きを実体験でき、発災時の対応がより具体的にイメージできた。
- ・ 民間事業者の参加者とも、情報交換、意見交換ができ貴重な機会となったほか、引き続き発災時の協力依頼を想定した事業者との意見交換や対応のすり合わせも必要と感じた。
- ・ 仮置場内で起きたトラブル対応等も教えて頂けるとありがたかった。
- ・ 実際の現場の動線をイメージすることが出来た。
- ・ 災害ごみの量がドローンでわかるとのことだったので、デモか訓練に入れた方が良いのでは？
- ・ 仮置場受け入れの際、自治体ごとで異なる場合もある廃棄物区分の知識を仮置場に配置される職員全員が共有しておくことが重要と感じた。置場受付には多くの被災者が集中して搬入し渋滞が発生することも考えられるが、誘導する職員が明瞭に指示することが迅速な対応には欠かせないものと感じた。分別に対する事例訓練を日頃より行っておくことも大事であると思った。
- ・ 事前準備をしなければ、適切な分別ができないことを改めて実感しました。
- ・ 災害廃棄物の計画の必要性については、以前から認識はしており、市町村に対して、計画の作成をお願いしておりますが、多くの市町村が作成できていません。どのような廃棄物がどれくらい発生し、どこで処分できるのかを事前に計画書等に整理しておかなければ、現場が混乱することは容易に想像できるため、できるだけ市町村にも理解いただけるよう、継続して話をしていこうと感じました。
- ・ 実際に設置された仮置場を見学することや、訓練を行うことで仮置場の設置運営について苦労する点や問題となる点を理解することができたが、実際に当市で選定している仮置場候補地との広さの違いを考えると全く別物になると思い、事前の検討が重要であることを再確認した。
- ・ 実際に現場で考え、行動する経験の大切さ
- ・ 仮置場内の分別区分を徹底することで、その後の災害廃棄物処理がスムーズに進むことから、市民及び関係者への周知が重要であると感じている。
- ・ 仮設場所の設置から始める訓練であってほしかった。
- ・ 受入などの対応などよりは各置場所のサイズをどうするかなど、より具体的なほうがよかった。

Q8. 仮置場設置訓練 事前勉強会・訓練について、ご質問、ご感想、改善要望など、ご自由にご記入ください。事務局へのご要望、ご意見ございましたら併せてご記入ください。

- ・ 訓練は、屋外、軍手、老眼等を考慮して、見やすく探しやすく、手が使いやすいとより集中できます。
  - 見やすく探しやすく・・・訓練 abc のプリントの区別・確認がしづらかったので、abc の表示を大きくする、上部の色を abc で変えるなどして探したり確認したりする時間・手間が少なければいい。また、下部の「危険物」「大型家電」などを区分について、文字を大きくしたり、種別ごとに色を変えるなど、見つけやすければいいと思いました。
  - 手が使いやすく・・・段ボールを降ろす時など、画版で片手がふさがっていて作業しづらかったので、首から下げるタイプなど両手が使えるものがありました。
- ・ トイレが遠くて不安でした。
- ・ 受け入れの流れや住民対応の基本的な方法、各自治体にあわせた廃棄物の分別の必要性が訓練を通じて理解することが出来た。
- ・ 寒さ厳しい中、仮置場設置訓練の準備をして下さったスタッフの皆様に感謝いたします。
- ・ 今回学んだことを実際の業務にも活かしていきます。
- ・ このような現場での研修は、書面のものよりも、より具体的なイメージを感じることが出来るため、今後も継続して実施いただけると助かります。
- ・ いずれ、地域住民代表の参加もできるようになればいいなと思います（自治体がやるべきこととは思いますが）
- ・ 今後、協定事業者とも参加できればと思っている。
- ・ 訓練である以上、実際に設置する場所で、実状にそった内容でおこなったほうが、訓練になると思います。

### 8.2.3 仮置場設置訓練（美幌町会場）

#### （1）訓練方法

※旭川市会場と同様

#### （2）想定した効果

※旭川市会場と同様

#### （3）使用した資料

※旭川市会場と同様

#### （4）訓練のスケジュール

※旭川市会場と同様

#### （5）役割分担

各4～6人の5グループに分かれて訓練を実施した。グループごとに役割を入れ替えて、全ての役割の対応をした。

※役割は旭川市会場と同様

#### （6）災害設定

※旭川市会場と同様

#### （7）取り扱う廃棄物

※旭川市会場と同様

#### （8）資機材の確認

※旭川市会場と同様

#### （9）レイアウトの確認

※旭川市会場と同様

#### （10）実地訓練の流れ

※旭川市会場と同様

### (11) レイアウト検討

チラシA、B、Cには異なるレイアウトa、b、cを掲載した。シミュレーションを2巡後、レイアウトを変更した。班ごとに各レイアウトを参考に水害に適したレイアウトを検討した。検討内容を表 8.2-10 に示す。

表 8.2-10 レイアウト検討内容（美幌町会場）

A 班
<p>水害で発生量の少ないコンクリートがら、消火器は少ないと想定するため、真ん中のエリアに配置する。なるべく外周だけで済むように配置するとスムーズに荷下ろしができるのではないかと。可燃物は車の隙間に積むと思うので、荷下ろししやすいように最初の方に、畳、家具は最後に配置する。レイアウト abc どれも水害時の仮置場には向いていないのではないかと。</p>
B 班
<p>大型家具の上に、小型家電等を置くと想定される。最初に家電や小物類を配置する。最後に大型家具を配置する。コンクリートがらの発生量は少ないと想定されるため真ん中に配置する。</p>
C 班
<p>レイアウト c をベースに、危険ごみは受付の近くに配置し、何かあったときに気付けるようにしたい。コンクリートがらは受付をしないこととして、別の仮置場に運んでもらうようにする。水害で布団が出てくると思うので、面積の広いコンクリートがらの位置に布団を置くと良いのでは。</p>
D 班
<p>レイアウト c が一番近いのではないかと。水害では不燃混合が増えると想定する。大型家具はかさばるがおろすのに時間かからないと思われるので最初の方に配置する。</p>
E 班
<p>レイアウト a が良いのではないかと。大型を積んで、小型のものを積む。家電四品目、大型家具を最後の方に配置したい。搬出を最初に考えて、配置図を考えることが大事ではないかと。</p>

## (12) 訓練の振り返り

訓練の気づき、感想について班ごとに話し合い、全体に共有した。振り返り内容を表 8.2-11 に示す。

表 8.2-11 振り返り内容（美幌町会場）

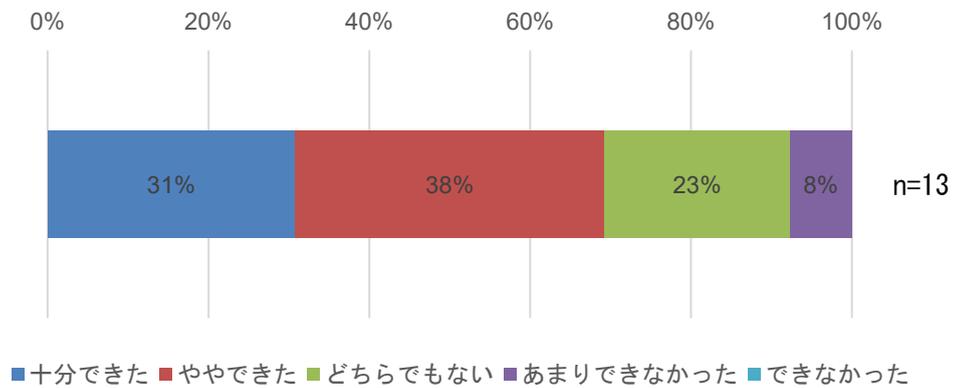
A 班
訓練でいくつかのハプニングを練習したが、実際の仮置場ではさらに臨機応変に対応する必要があると考えさせられた。民間、行政の連携が重要だと感じた。
B 班
内回り、外回り実際にはできないのではないかと。持ってくる人は素人なのでどう分別する分からないため、各区分に人を配置することが重要だと感じた。一次仮置場である程度分別されないと、二次仮置場での分別に時間がかかる。自治体の環境部署に人はあまりいないため、民間事業者からの派遣も必要である。夜間の便乗ごみの防止も必要である。
C 班
実際に仮置場運営するときは限られた人員で対応する必要があるため、大変だと感じた。分別も重要だが、疲弊、身内に不幸があって搬入する人もいる。ある程度柔軟に対応する必要があると考えた。
D 班
発災時はパニック状態になる。災害では市町村で対応できないゴミがたくさん出てくる。胆振東部地震では産業廃棄物業者に支援していただいた。普段から民間事業者と関係を築くことが重要だと感じた。
E 班
どこに仮置き場設置するか、レイアウト、どこに協力依頼するか、事前準備が重要だと感じた。

### (13) アンケート結果

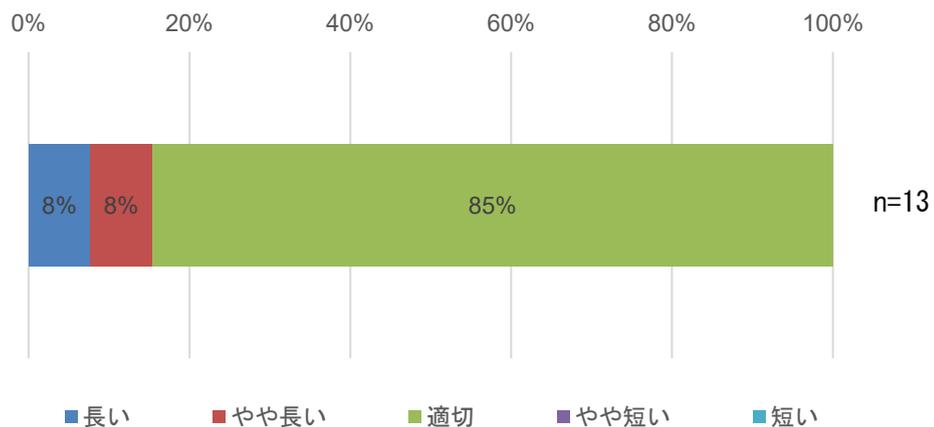
訓練実施後に参加者に対しアンケートを実施した。

アンケート結果については、以下のとおり。

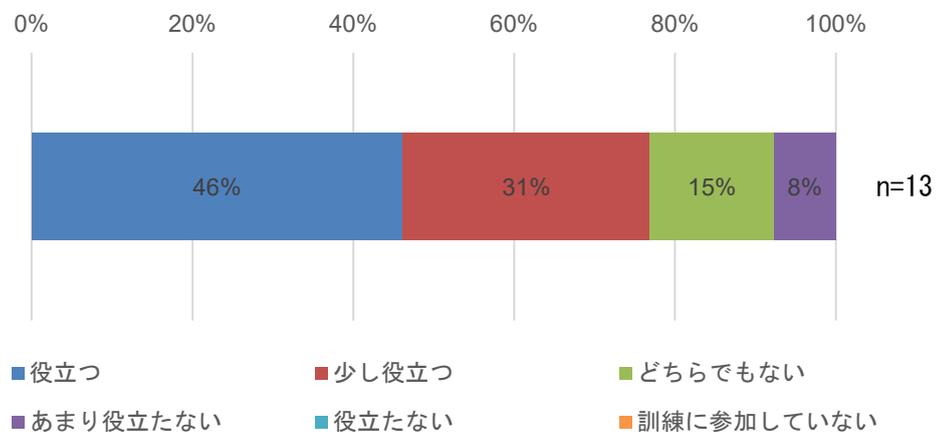
Q1. 事前勉強会を通じて、仮置場について具体的にイメージできましたか。



Q2. 事前勉強会の時間（2時間）は適切でしたか。



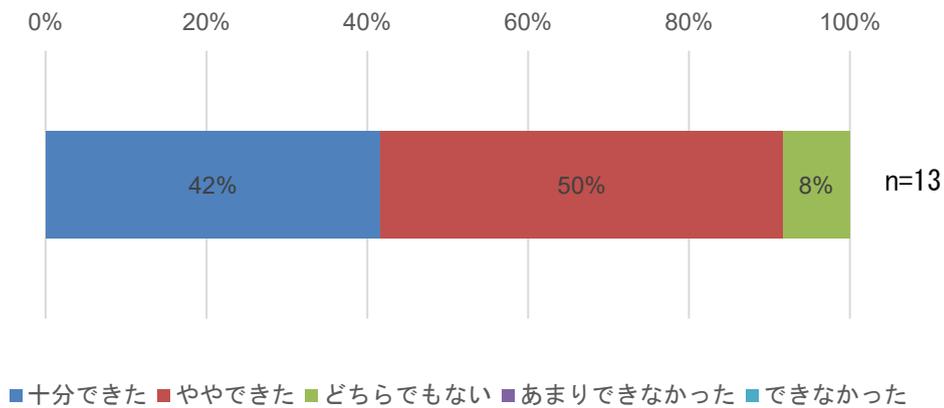
Q3. 事前勉強会の内容は、仮置場設置訓練での理解を深めるのに役立ちましたか。



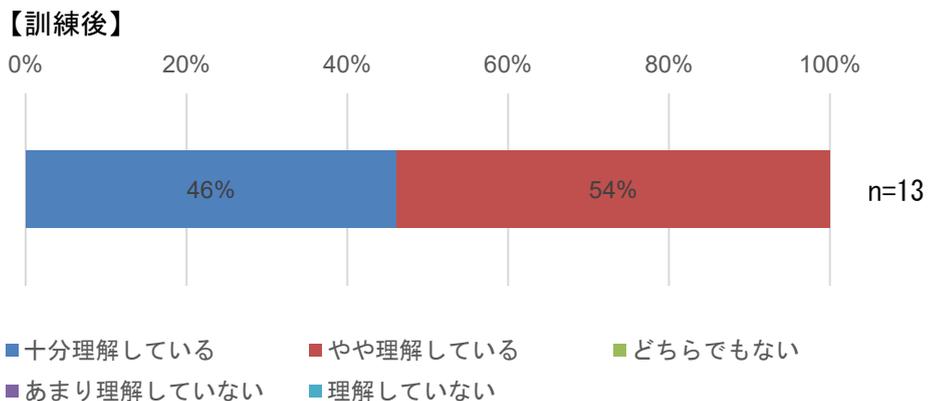
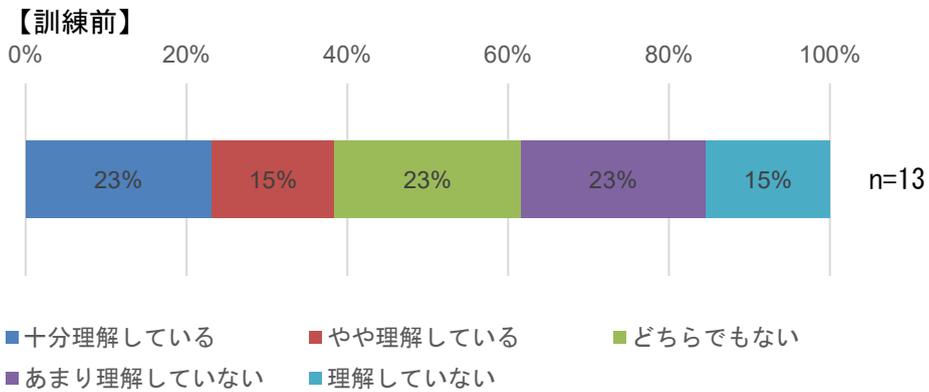
Q4. 事前勉強会について気づいたこと、学んだことがありましたら、ご記入ください。

- ・ 事前に計画する事の重要性
- ・ 仮置場設置訓練の事前説明だけでいいと思います。
- ・ 仮置場がどのような場所に設置するのが適切なのかまた、事前の現地調査や搬出先等の準備の大切さ

Q5. 訓練通じて仮置場の設置・運営の流れを理解できましたか。



Q6. 訓練の前後で、仮置場設置・運営に関する理解度はどのように変化しましたか。



**Q7. 訓練について気づいたこと、学んだことがありましたら、ご記入ください。**

- ・ 発災前の事前準備（仮置場所の確保、分別方法、人員の確保等）の重要性を改めて認識できました。
- ・ 被災者の受け入れ時のクレーム対応が大変だと思った
- ・ 実際に起きた時のイメージがなんとなくできる。
- ・ 各自治体での協力体制と準備が大切だと感じた。
- ・ 住民と話す内容や対応の仕方について。また、実際に対応することになった場合、住民は精神的に疲弊していると思うので、訓練のようにうまくはいかないと感じた。
- ・ 実際に訓練場所で感じたことは、人数配置がとても難しいところです。実際には2～3人程度しか配置できないと思います。
- ・ いつ、災害がくるかわからないので、事前に勉強、訓練を行い非常に役立ちました。
- ・ 仮置場でのご経験がある方から話を聞くことができたので、とても有意義な一日でした。ありがとうございました。

Q8. 仮置場設置訓練 事前勉強会・訓練について、ご質問、ご感想、改善要望など、ご自由にご記入ください。事務局へのご要望、ご意見ございましたら併せてご記入ください。

- ・ 11月の屋外訓練ということもありかなり寒かったので、もう少し早い時期の実施を希望。
- ・ 災害廃棄物（一般廃棄物）の処理主体となる市町村職員の参加が少なかったので、事前のPRを十分に行うことを希望。
- ・ 事前計画がいかに重要かわかった。自治体の参加が少なかったので、もっと重要性を認識して貰い、参加率を上げる必要があると思った。
- ・ 災害が発生し実際になにが必要でどういう動きになるのか、スピードが求められると思います。
- ・ 私は民間企業なので行政の動きにあわせて現地でのボランティア活動になると思うのでより連携が必要だと感じましたし、現地での対応の大変さを感じ取れました。
- ・ 弊社所在の町内で同じような説明会を今回のように、レクチャーしていただくことは可能でしょうか？
- ・ 訓練では、最初からある程度準備がされていたので、ほぼ何もない状態から仮置場を設置するような訓練をしてみたいと思った。
- ・ 仮置場設置訓練 事前勉強会・訓練にて、非常に役立ちました。
- ・ 災害廃棄物の仮置き場設置訓練” 通常時は各市町村の処分場へ運び入れ等にて処分する廃棄物ですが、運び入れ出来ない量の災害廃棄物の受け入れ訓練ですが、リアリティに欠けると感じます
- ・ 仮置場でのご経験がある方から、全体に向けたお話があるとさらに良いと思いました。

#### 8.2.4 仮置場設置訓練（共和町会場）

(1) 訓練方法

※旭川市会場と同様

(2) 想定した効果

※旭川市会場と同様

(3) 使用した資料

※旭川市会場と同様

(4) 訓練のスケジュール

※旭川市会場と同様

(5) 役割分担

各4～6人の5グループに分かれて訓練を実施した。グループごとに役割を入れ替えて、全ての役割の対応をした。

※役割は旭川市会場と同様

(6) 災害設定

※旭川市会場と同様

(7) 取り扱う廃棄物

※旭川市会場と同様

(8) 資機材の確認

※旭川市会場と同様

(9) レイアウトの確認

※旭川市会場と同様

(10) 実地訓練の流れ

※旭川市会場と同様

### (11) レイアウト検討

チラシA、B、Cには異なるレイアウトa、b、cを掲載した。班ごとに各レイアウトを参考に、水害に適したレイアウトを検討した。検討内容を表 8.2-12 に示す。

表 8.2-12 レイアウト検討内容（共和町会場）

A 班
レイアウト a, b, c いずれでもないが、災害廃棄物を住民が積む、荷下ろししやすい順番を考慮して大型家具は最後の方に配置する。危険物は目の届きやすいように最初の方に配置する。
B 班
最初に混合物、後の方に大型家具とすると荷下ろしが円滑にできそう。内側にレイアウトし2周するよりも、1周で終わる方がスムーズだと思われるので、そのように配置したい。ガラスは怪我をする恐れがあるので、個別のエリアを設けたい。北海道ではストーブも多く発生しそうなのでエリア設置したい。
C 班
レイアウト c の反対周りが良いのではないかと。混合物から配置すると荷下ろしがスムーズに行えるのでは。
D 班
レイアウト c が近い。危険物は管理しやすいように最初の方に配置する。危険物の隣に燃えにくいコンクリートがらを配置する。大型家具、家電はおろすのに時間がかかるので最後の方に配置する。
E 班
細々したものは最後に積むと想定して荷下ろししやすいように最初の方に混合可燃物、不燃物を配置する。札幌市等、人口の多い都市では身分証明書確認を厳格化するより、全て受け入れたほうがスムーズに進むのではと考える。

## (12) 訓練の振り返り

訓練の気づき、感想について班ごとに話し合い、全体に共有した。振り返り内容を表 8.2-13 に示す。

表 8.2-13 振り返り内容（共和町会場）

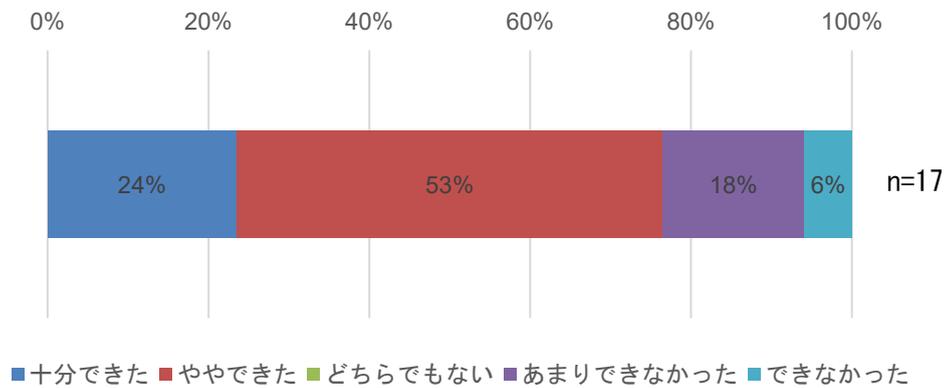
A 班	軽トラが数回走っただけで、地面がぐちゃぐちゃになった。実施に仮置場を設置する際には、敷鉄板を敷く等対策が必要だと実感した。近隣市町村で同時に仮置場を設置した際、A 町は分別が緩く、B 町は厳しいとなると隣町の住民が搬入してくる可能性がある。適切に受付できるようにすることが大切だと感じた。
B 班	厳密に受付することも大切だが、トラブル回避のためにスムーズに受け入れることも重要だと感じた。現場判断が多くなるがスムーズに対応できるようにしたい。置き場所を番号で示すことも効率化に繋がると考えた。初動が大事なので市町村のHPに平時より分別方法を示したい。有価物の盗難対策も必要だと学んだ。地域によっては住民自身での搬入が難しいので、小さい仮置場、住民集積所を設ける必要もあるかもしれない。
C 班	時間を区切って、搬入できる時間、職員の休憩時間、搬出時間を設定できると良いと考えた。円滑に搬入できるように管理運営を効率化することが重要だと感じた。
D 班	このような訓練を各自治体で行うことは難しい。また、数年で人事異動もあるので継続的に訓練を実施して、多くの人に参加してもらいたい。11 月は既に寒さが厳しいので開催時期は検討してほしい。合宿形式で集中的に訓練するのはどうか。
E 班	天気、土地状況が重要だと実感した。広い空き地が合っても、大型車両が乗り入れできないなど、現地確認が重要だと学んだ。

### (13) アンケート結果

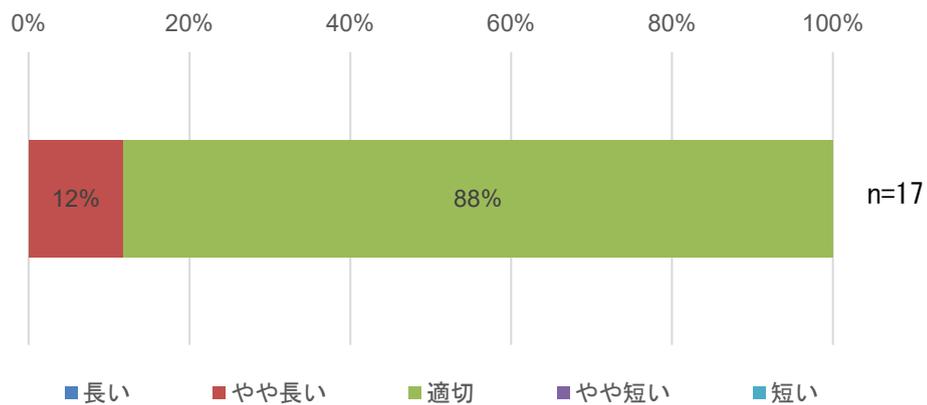
訓練実施後に参加者に対しアンケートを実施した。

アンケート結果については、以下のとおり。

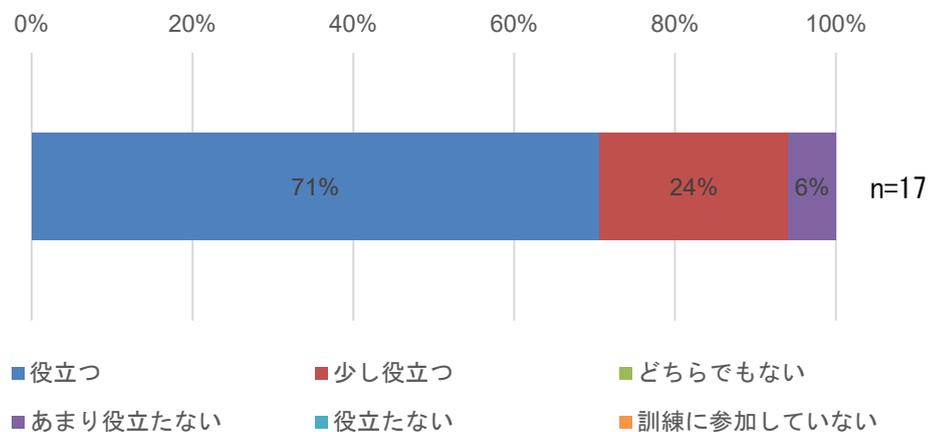
Q1. 事前勉強会を通じて、仮置場について具体的にイメージできましたか。



Q2. 事前勉強会の時間（2時間）は適切でしたか。



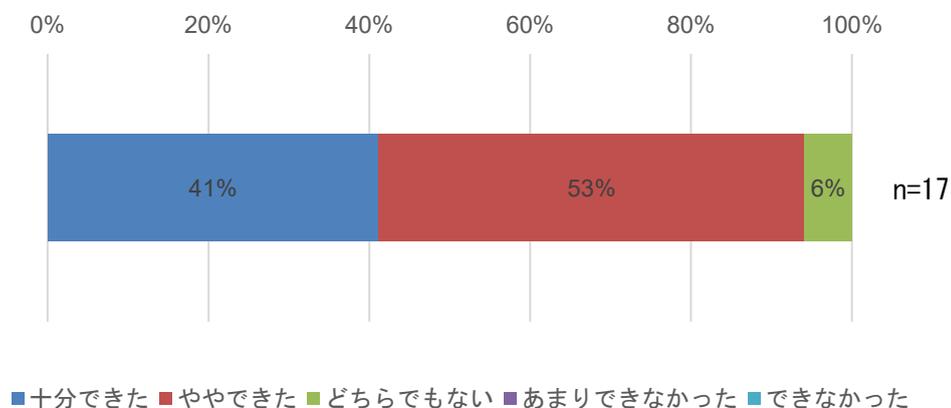
Q3. 事前勉強会の内容は、仮置場設置訓練での理解を深めるのに役立ちましたか。



Q4. 事前勉強会について気づいたこと、学んだことがありましたら、ご記入ください。

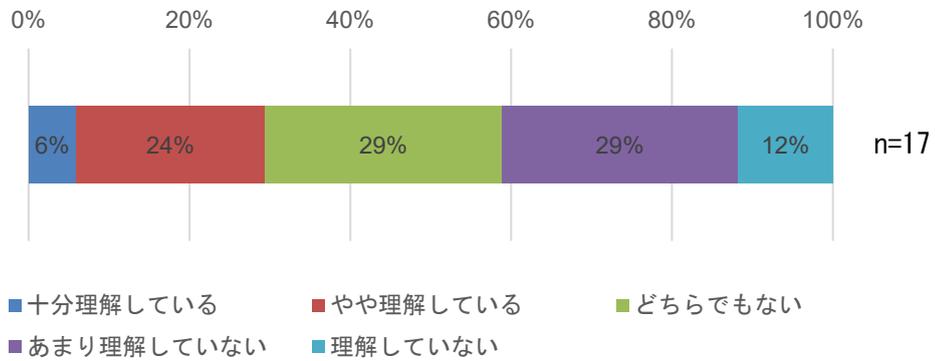
- ・ 災害によって発生した廃棄物の処理等について通常の廃棄物処理との違いや困難さ、及び関係法令について大変分かりやすく理解が出来たこと。
- ・ 資料をそのまま読み上げる形であったため、資料配布だけでも良かったと思われる。
- ・ 今回映像を撮っていらっしやいましたので、事前勉強会に一部流してみても良いかなと思いました。
- ・ 仮置場の選定、見直しについて、天候等による路面状態等も考慮する必要があると感じた。
- ・ 大まかな仮置場での対応を確認することができ、災害廃棄物の受入れに災害規模や場所、状況により置き場のレイアウト等を考慮することで受入れ状況が大きく変わることを各市町村担当者とディスカッションを通して感じた。
- ・ 仮置場は交通渋滞が発生する事例があることや、仮設住宅など他の候補地と重なると優先度が低く、決定に調整を要すること、初動対応が遅れることによる勝手置場が問題となることなど、実務経験がないと気づけない課題について理解できた。
- ・ 仮置場候補地の選定やレイアウトの設定方法など、ツールを利用して作成する方法を知ることができた。
- ・ 実際に設置訓練を実施することによって、空間把握やイメージアップが図ることができ、机上では気付くことができなかったような課題等が浮かび上がってきた。
- ・ 過去の災害での実例がとても参考になり、良かったこと、課題になったことを学んだ。
- ・ 災害時、どのような対応をしたらいいかだいたいイメージがつかえました。
- ・ 実際に起きてみないとわからない部分も多いですが、とても参考になりました。

Q5. 訓練通じて仮置場の設置・運営の流れを理解できましたか。

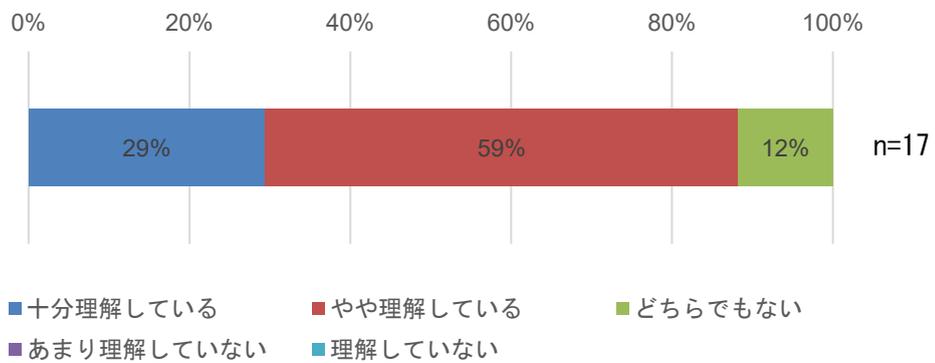


Q6. 訓練の前後で、仮置場設置・運営に関する理解度はどのように変化しましたか。

【訓練前】



【訓練後】



Q7. 訓練について気づいたこと、学んだことがありましたら、ご記入ください。

- ・ 通常の廃棄物とは異なり危険な廃棄物について適切な処理が必要なこと。住民が持ち込む廃棄物の内容確認が重要であるが現場では説明することが難しいこと。
- ・ 事前に廃棄物の種類について理解することが大切であると学んだこと。
- ・ 仮置場受付窓口での受付の煩雑さ（罹災証明書・町民表示、廃棄物の内容確認）があるとともに、場合によっては、一切受け付けられないこともありUターンさせることもあり得るが、実際にそんなことができるのかどうか心配になった。
- ・ 災害廃棄物は、その後、その処理・処分が国に認められるかどうか当該市町村にとっての死活問題になる。その点がもう少し仮置場設置訓練でダメな事例の紹介等詳しく教えてもらえると有り難いです。
- ・ 受託事業者様の説明は、他自治体の事例などから、運営における注意事項などをわかりやすくご説明していただいて、理解につながりました。
- ・ あいにくの悪天候であったが、災害廃棄物は当然悪天候時でも発生するし、仮置場も悪天候の中設置しなければいけない状況はあり得る。ぬかるみなどに対応するための敷き鉄板の重要性、職員の防寒対策、トイレや休憩場所、食事をとる場所の必要性など気づきがあった。
- ・ 仮置場でスムーズに受付することの難しさや、候補地の地面が大量の搬入車によりぬかるむ懸念があること、補助金や仮置場の復旧のことを考慮しながら運営することについて理解できた。
- ・ 実地訓練において、自治体役を全の班に体験させるのはもちろんいいことではあると思うが、全体のやり取りを共有さえすれば、代表例を2、3行えればそれで十分研修効果はあると思う。また、実際には現場で回収順を検討することにはなると思うが、研修として一から考え方を学ぶのであれば、室内でじっくりと考える時間をとってほしいかと思った。
- ・ 万一の事態に備え具体的な準備を進めておくことが重要だと気づいた。
- ・ 仮置場となる場所の選定は気象や地盤の状況など考慮し慎重に検討することが必要と学んだ。
- ・ 一連の流れについては参加された方は理解できたと思いますが、関連する方たちと周知理解のもと運営できるようにすることの大切さが今後の課題だと思いました。
- ・ 仮置き場の再考が必要と感じた。
- ・ 設置する場所によって、状況は千差万別だと思っています。雨の場合、風の場合、雪の場合など天候にも大きく左右されますので、あらかじめあらゆる状況を想定しておくことも重要だと思っています。シミュレーションができたことはいい経験となりました。

Q8. 仮置場設置訓練 事前勉強会・訓練について、ご質問、ご感想、改善要望など、ご自由にご記入ください。事務局へのご要望、ご意見ございましたら併せてご記入ください。

- ・ 時期が初冬となってしまい、悪天候の中の実施となったので実施時期について考慮してほしい。
- ・ 住民役として想定されるケースに沿った訓練となるよう事務局側でやった方が効果的だと思います。
- ・ 今回の11/7共和町訓練は、参加した方全員が思ったと思いますが、屋外は雨風低温で過酷でした。たしかに、実際の被災のことを考えると過酷な状況もあるとは思いますが、演習は、モデル実施と解説理解に特化できれば十分と考えますので、屋外であれば9月までに実施、それ以降であれば、体育館での実施で代えてもよい（今回、リヤカーもあったので、代用できるのが分かりました。）かと思います。来年度以降のご検討、よろしく申し上げます。
- ・ いつ災害が起こるかわからないため、それも含めた訓練になりましたが、悪天候により、厳しい訓練でした。会場設営や準備等の問題もあるかと思いますが、時期や天候を考慮していただけると、より学びに繋がったのではないかと考えています。ありがとうございました。
- ・ 災害発生から仮置き場設置までの流れについての研修をしてもらいたい。処理計画で流れは書いているが、実際の現場ではまずどうしたのか？どこに連絡したのか、どこに連絡したほうがよかったといった体験談を知りたい。
- ・ 外での訓練となる為、天候等に左右されますが、開催時期を考慮願いたい。
- ・ 開催日時・場所が選択できることで、業務に支障のない日を選定して参加しやすかった。
- ・ 仮置場設置訓練の昼休憩の時間は短縮しないでほしかった、参加当日は極寒で暖をとる時間が短かったため。
- ・ 北海道の秋口はかなり冷え込む等、気候が不安定な時期も多いので、研修効果を高めるためにも次期の見直しを図ってほしいと感じた。また、共和町の現場では、霰や雨も降り過酷な環境となっていたため、カリキュラムを省略する等の臨機応変さも必要かと思った。
- ・ 災害ボランティアの経験があったので廃棄物仮置場の対応はその時の記憶と照らして今回の訓練に参加することができた。多くの市町村の様々の部署の職員が実地訓練を体験できれば災害対策の準備が進むと思います。
- ・ 行政職員主体の現場訓練でしたので、業界団体、民間なども含め一連の仮置場設置からの搬出導線、大規模仮置き場以外の野良置き場や被災状況に合わせた回収までの導線、処理場の場所でのルール、写真撮影での状況保存の仕方や被災時の組織系統の団体との明確化連絡先などもう一步踏み込んだ内容を希望します。

- ・ 天候が悪い場合はリヤカーなどを使用し、体育館で行うのも1つの方法だと思います。また、雨はしょうがないですが、今回の時期だと寒すぎるのでもう少し時期を検討していただきたいです。
- ・ 事前勉強会と設置訓練を同日で行っても良いのではないかと感じた。
- ・ 実地訓練の開催時期、当日の中止判断等を今一度見直した方が良いかと思えます。
- ・ 大変いい経験をさせていただきましたので、次回は担当者を変えて出席させていただきたいと思えます。

## 9. 連携強化 WG の開催

災害廃棄物処理に係る連携における課題を自治体、一部事務組合や広域連合、民間事業者それぞれの立場から抽出し、解決策を検討することで、道内外における今後の災害廃棄物処理における連携強化を図ることを目的とし、連携強化 WG を開催した。

### 9.1 連携強化 WG の実施概要

連携強化 WG は、表 9.1-1～表 9.1-2 に示す日程、テーマで実施した。WG メンバーの所属団体種別及び団体数、人数は表 9.1-3 のとおりである。

当日は、関連する内容について話題提供を行った後、各班で意見交換を行った。

話題提供や意見交換に用いた当日の資料は、資料編に整理した。

表 9.1-1 第1回連携強化 WG の実施概要

開催日時	令和7年9月30日(火) 14:00～16:00						
開催場所	[オンライン開催]						
主な内容	<p>話題提供①：道内の実情と連携の必要性            意見交換①：関係者との連携に関する課題共有            意見交換②：円滑な連携に向けた平時からの取組</p> <p>&lt;当日の資料抜粋&gt;</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>北海道内の災害廃棄物処理の実情について</p> <p>北海道ブロック災害廃棄物対策行動計画における想定する大規模災害</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>内陸型地震</th> <th>海溝型地震</th> <th>水害</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月間資料に相当する被害</td> <td>日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震</td> <td>H28豪雨相当</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震災害については、北海道が平成24年度から平成28年度にかけて被害想定を行った24地震54断層モデルのうち、北海道内で被害が大きい内陸型地震と、令和4年7月に被害想定が公表された津波を伴う海溝型地震を災害廃棄物処理について連携等を検討する目的で大規模災害として選定した。</li> <li>水害については、4つの台風が北海道に上陸・接近し、河川の氾濫などが多発した平成28年北海道豪雨(H28豪雨)時において、被害が最も大きかった十勝総合振興局と同程度の被害が全振興局で同時発生した場合を想定こととした。</li> </ul> <p>振興局ごとの災害廃棄物推計量の結果について、北海道における令和元年度の一般廃棄物排出量は1,851千トンであり、日本海溝・千島海溝沿いの巨大震においては約30分に相当する大量の廃棄物が一度の災害で発生する果になった。</p> <p style="text-align: center;"><b>道内の災害廃棄物処理の実情</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>北海道ブロック内におけるネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害廃棄物処理に係るネットワーク構築のイメージ</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>連携体制</b></p> </div> </div>	内陸型地震	海溝型地震	水害	月間資料に相当する被害	日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震	H28豪雨相当
内陸型地震	海溝型地震	水害					
月間資料に相当する被害	日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震	H28豪雨相当					
参加人数	<p>計 13 名 (計 2 班)</p> <p>(市町村 3 自治体、一部事務組合 1 組織、振興局 3 局、民間団体 2 団体)</p> <p>※事務局を除く</p>						

表 9.1-2 第2回連携強化WGの実施概要

開催日時	令和7年12月22日(月) 13:00~15:00										
開催場所	[オンライン開催]										
主な内容	<p>話題提供：支援-受援体制の構築について                  意見交換①：支援が必要となるフェーズの整理                  意見交換②：支援-受援体制の構築の検討</p> <p style="text-align: center;">＜当日の資料抜粋＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>支援-受援の体制の考え方について 受援体制の構築</b> 6</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害廃棄物の処理を適正かつ円滑・迅速に行うためには、多くの人的・物的資源が必要となる。</li> <li>不足する場合には、他道府県や市区町村、収集運搬支援団体から支援を受けて確保すること(受援)が必要となり、技術的知見を教示してもらうため、学識経験者の受入も必要となる場合もある。</li> <li>受け入れる前から様々な事前準備(受援体制の構築)を行う必要がある。</li> </ul> <p style="text-align: center;">受援に向けて被災自治体が事前に準備、及び受援時に実施する事項*</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>平時からの支援要請ルートの検討</li> <li>受援に当たって留意すべき事項</li> <li>受援体制構築の基本的な流れ</li> <li>事前に準備すべき事項、配慮すべき事項</li> <li>受援体制の検討時期</li> </ol> <p><small>※被災初期(場合によっては中長期)に支援者(都道府県や市区町村職員、学識経験者、運搬支援団体)を受け入れることを想定。 災害廃棄物処理事業発注後の民間事業者からの支援は想定していない。</small></p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;"><b>支援-受援の体制の考え方について 受援体制の構築</b> 15</p> <p style="text-align: center;">受援に向けて被災自治体が事前に準備、及び受援時に実施する事項</p> <p style="text-align: center;"><b>4. 事前に準備すべき事項、配慮すべき事項</b></p> <p><b>□ 支援者を受け入れる場合の準備</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">準備内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スペースの確保</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援者が執務できるスペースや、活動拠点における作業スペース、待機・休憩スペースを可能な限り確保する。</li> <li>可能な範囲で、支援者の駐車スペースを確保する。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>資機材等の提供</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>執務を行う上で必要な文具や、活動を行う上で必要な資機材を可能な範囲で提供する。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>執務環境の整備</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>執務できる環境として、可能な範囲で机、椅子、電話、インターネット回線等を用意する。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>宿泊場所に関するあせせん等</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援者の宿泊場所の確保については、支援前での対応を基本とするが、紹介程度は行う。また、必要に応じてあせせんする。</li> <li>被災状況によってホテル等の確保が困難な場合は、避難所となっていない公民館や庁舎等の会議室、避難所の有隣等のスペースの提供を検討する。</li> <li>仮設のための布団等を準備する。</li> <li>長期的な支援を受ける場合には、支援者のための住まいを確保することも検討する。(東日本大震災では、支援者のために仮設住宅を確保した事例がある。)</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;"><b>受援体制の構築について</b></p> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;"><b>支援者が準備すべき事項</b></p>	項目	準備内容	スペースの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援者が執務できるスペースや、活動拠点における作業スペース、待機・休憩スペースを可能な限り確保する。</li> <li>可能な範囲で、支援者の駐車スペースを確保する。</li> </ul>	資機材等の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>執務を行う上で必要な文具や、活動を行う上で必要な資機材を可能な範囲で提供する。</li> </ul>	執務環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>執務できる環境として、可能な範囲で机、椅子、電話、インターネット回線等を用意する。</li> </ul>	宿泊場所に関するあせせん等	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援者の宿泊場所の確保については、支援前での対応を基本とするが、紹介程度は行う。また、必要に応じてあせせんする。</li> <li>被災状況によってホテル等の確保が困難な場合は、避難所となっていない公民館や庁舎等の会議室、避難所の有隣等のスペースの提供を検討する。</li> <li>仮設のための布団等を準備する。</li> <li>長期的な支援を受ける場合には、支援者のための住まいを確保することも検討する。(東日本大震災では、支援者のために仮設住宅を確保した事例がある。)</li> </ul>
項目	準備内容										
スペースの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援者が執務できるスペースや、活動拠点における作業スペース、待機・休憩スペースを可能な限り確保する。</li> <li>可能な範囲で、支援者の駐車スペースを確保する。</li> </ul>										
資機材等の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>執務を行う上で必要な文具や、活動を行う上で必要な資機材を可能な範囲で提供する。</li> </ul>										
執務環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>執務できる環境として、可能な範囲で机、椅子、電話、インターネット回線等を用意する。</li> </ul>										
宿泊場所に関するあせせん等	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援者の宿泊場所の確保については、支援前での対応を基本とするが、紹介程度は行う。また、必要に応じてあせせんする。</li> <li>被災状況によってホテル等の確保が困難な場合は、避難所となっていない公民館や庁舎等の会議室、避難所の有隣等のスペースの提供を検討する。</li> <li>仮設のための布団等を準備する。</li> <li>長期的な支援を受ける場合には、支援者のための住まいを確保することも検討する。(東日本大震災では、支援者のために仮設住宅を確保した事例がある。)</li> </ul>										
参加人数	計17名(計2班) (市町村3自治体、振興局3局、民間団体2団体) ※事務局を除く										

表 9.1-3 連携強化WGメンバー

区分	団体数、人数	
北海道(総合)振興局	6局	11名
市町村	3自治体	5名
一部事務組合	2団体	2名
民間事業者	2団体	5名

## 9.2 連携強化 WG の実施結果

連携強化 WG の実施結果について以下に示した。

### 9.2.1 第1回連携強化 WG

第1回 WG では、事前アンケートを行い、アンケート結果を踏まえて話題提供、意見交換のテーマを選定した。

話題提供では災害廃棄物処理に関する道内の実情と連携の必要性について事例を交えて紹介した。

意見交換は参加者（団体）を2班に分け行った。意見交換①では、自治体や一部事務組合・広域連合、民間事業者との協定締結状況、関係者との連携に関する課題を共有して、整理した。意見交換②では、意見交換①で抽出された課題を踏まえ、連携を円滑に進めるために平時から取り組むべき事項について検討した。

第1回連携強化 WG で挙げられた主な課題・問題点及び意見整理結果を表 9.2-1 に示す。

表 9.2-1 連携に関する課題、意見

区分	課題、意見
他部門との 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機対策室と役割分担が把握できていない（災害時の廃棄物以外の業務との調整ができていない）。</li> <li>・単独での対応が難しいことは認識しているが、マネジメントはどかが担当するのか明確化されていない。</li> <li>・収集業務、処理処分業務について協定を結んでいるが担当が異なるため詳細を把握できていない。</li> <li>・市として災害廃棄物以外の災害時の協定（道路上の障害物除去、道路補修等）も締結しているが防災課が担当しており、把握できていない。</li> <li>・必要な支援が把握できていない。</li> </ul>
民間事業者 との情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平時、災害時の運搬事業者に対しての情報共有体制が整えられていない。</li> <li>・事業者の運搬能力、回収ルート、災害時の余力を把握できていない。</li> </ul>
他自治体と の情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他自治体と話す機会が少なく、平時からコミュニケーションが取れていないので、災害時の連絡窓口が分からない。</li> <li>・相手方の窓口担当を把握していない。</li> <li>・事業者との連携は進めることができるが、市町村間の連携を取ることが難しい。</li> <li>・事務組合を構成している市町村間では取組が進んでいるが、構成外は関わりが少ない。</li> </ul>
協定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括的連携協定や防災分野での協定（避難所等）はあるが、災害廃棄物に関しての具体的な協定はできていない。</li> <li>・協定を締結するだけでは対応が難しい。</li> <li>・連携のメリットが見いだせないと判断し自組織内で進めがちである。</li> <li>・推計量把握、仮置場設置等の作業に意識が行き、連携が後回しになりがちである。</li> <li>・平時から単独で廃棄物の処理を行っている市町村間で協定の充実度に差がある。</li> <li>・千島海溝地震の場合、近隣町村との連携では対応が困難である。振興局（北海道）での協定により対応する必要があるのでは。</li> </ul>
費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者として支援を継続するにあたって、事業としての費用面について不安がある。</li> </ul>

### 9.2.2 第2回連携強化WG

第2回WGでは、話題提供として支援-受援体制の構築について事例を交えて紹介した。

意見交換は参加者（団体）をA、Bの2班に分け行った。意見交換①では、支援が必要となるフェーズの共有、整理を行った。意見交換②では支援-受援体制の構築のため、支援要請先の整理、課題の抽出を行った。

A班の検討結果を表9.2-2に示す。A班は支援事項ごとに検討した。

B班の検討結果を表9.2-3に示す。B班はフェーズごとに検討した。

表 9.2-2 A班の検討結果

支援が必要な事項	支援要請先
・技術助言	国
・広域連携の調整	道、振興局
・被害状況の確認、共有、国や道との調整 ・施設の処理対象の変更許可申請への助言 ・支援先のニーズの把握、必要な関係先との調整 ・廃棄物処理の支援要請、補助金の申請補助	振興局
・応援職員、被災状況の把握	他市町村
・生活ごみ、し尿、避難所ごみ、浄化槽清掃、下水道管調査・清掃、仮置場管理、災害廃棄物収集、運搬、飲料水給水、道路清掃等（支援できる可能性がある）	一般廃棄物処理業者 産業廃棄物処理業者
・運搬、仮置場運営	建設事業者

表 9.2-3 B班の検討結果

フェーズ	対応・支援が必要な事項
初動期～数日間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮置場選定に当たっての留意事項、助言</li> <li>・仮置場で受け入れる廃棄物の種類の明確化</li> <li>・仮設仮置場が地域性や災害規模から、適切であるか環境省等、他機関からの意見</li> <li>・仮置場への人員配置</li> <li>・災害廃棄物以外の一般廃棄物（避難所ごみ、仮設トイレのし尿）対応が既存事業者で対応できるか確認</li> <li>・住民、ボランティアへの情報周知（初動期以降も継続）</li> </ul>
応急対応（前半）～3週間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者、北海道産業資源循環協会等への応援要請</li> </ul>
応急対応（後半）～3か月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金対応の人員</li> <li>・仮置場から搬出対応の人員（ルート、搬出先確保）</li> </ul>

## 10. 災害廃棄物処理セミナーの開催

道内全市町村及び一部事務組合（広域連合を含む）、北海道本庁及び振興局の災害廃棄物対策担当職員並びに災害時支援協定の対象となりうる民間事業者を対象とし、災害廃棄物処理計画の策定をはじめとする事前準備の必要性、ならびに災害廃棄物処理に係る平時からの自治体、民間事業者の連携の重要性について認識を共有することを目的として、災害廃棄物処理セミナーを開催した。

### 10.1 災害廃棄物処理セミナーの開催概要

災害廃棄物処理セミナーは、表 10.1-1 に示す日程、プログラムで開催した。講演等の内容は、表 10.1-2～表 10.1-5 のとおりである。

当日の資料は、資料編に整理した。

表 10.1-1 災害廃棄物処理セミナーの開催概要

開催日時	令和7年12月17日（水） 13:00～16:00
開催場所	北海道中小企業会館 [オンライン併用]
次第	1. 講演 1 災害廃棄物処理の基礎知識及び計画策定等の事前準備の必要性（事務局） 2. 講演 2 災害時のし尿処理について（大正大学 岡山朋子教授） 3. 講演 3 産官学連携による災害廃棄物処理における課題と展望（株奥村組 大塚義一氏） 4. パネルディスカッション 過去の災害事例を踏まえて、大規模災害発生前に自治体が備えておくべき事項について（岡山教授、大塚氏）
参加人数	合計 74 名（会場 13 名、オンライン 61 名） ※事務局を除く

表 10.1-2 災害廃棄物処理セミナー 講演1の内容

演 題	災害廃棄物処理の基礎
講演者	事務局
内 容	<p>1. 災害廃棄物とは                  2. 災害廃棄物処理の流れ（初動対応）                  3. 仮置場の設置とその重要性                  4. 災害廃棄物処理の体制                  5. 補助金申請について                  6. 災害廃棄物処理計画の必要性                  ※講演内容はエリア分科会後の基礎講座と同様                  &lt;当日の資料抜粋&gt;</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="437 683 871 1008"> </div> <div data-bbox="896 683 1321 1008"> </div> </div>

表 10.1-3 災害廃棄物処理セミナー 講演2の内容

演 題	災害時のし尿処理について
講演者	大正大学 地域創生学部地域創生学科 教授 岡山 朋子 氏
内 容	<p>1. 災害時の避難所のトイレ管理と災害廃棄物                  2. 能登半島地震の避難所トイレの実態                  3. トイレパニックを防ぐ災害トイレの備え                  &lt;当日の資料抜粋&gt;</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="437 1456 970 1765"> </div> <div data-bbox="833 1617 1327 1921"> </div> </div>

表 10.1-4 災害廃棄物処理セミナー 講演3の内容

演 題	産官学連携による災害廃棄物処理における課題と展望
講演者	株式会社奥村組 技術本部 環境技術専門部長 大塚 義一 氏
内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自治体と民間の役割分担や連携の重要性</li> <li>2. 災害廃棄物処理の基礎知識</li> <li>3. 産官学連携の意義</li> <li>4. 民間事業者の役割と期待されること</li> <li>5. 支援協定のメリットと課題</li> <li>6. 能登半島地震の事例：仮置場運営の工夫他</li> <li>7. 今後の課題と展望</li> </ol> <p style="text-align: center;">＜当日の資料抜粋＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="459 712 868 1021"> </div> <div data-bbox="906 712 1315 1021"> </div> </div>

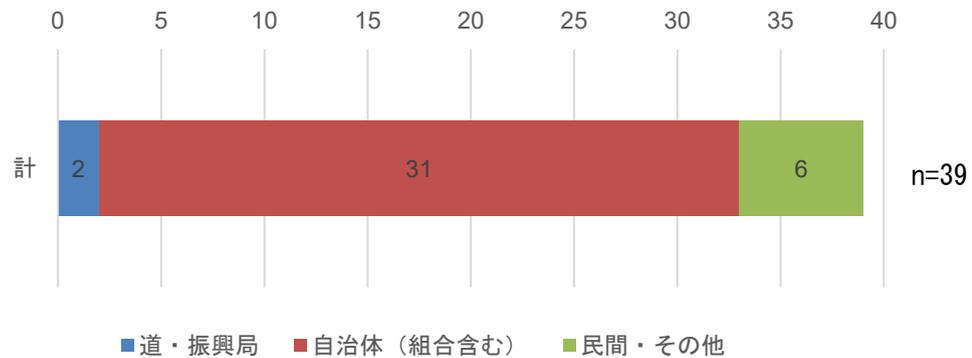
表 10.1-5 災害廃棄物処理セミナー パネルディスカッションの内容

演 題	過去の災害事例を踏まえて、大規模災害発生前に自治体が備えておくべき事項について
講演者	大正大学 地域創生学部地域創生学科 教授 岡山 朋子 氏 株式会社奥村組 技術本部 環境技術専門部長 大塚 義一 氏
内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 過去の災害廃棄物処理の事例と教訓について</li> <li>2. 自治体が平時から備えると良いことについて</li> <li>3. 自治体と民間事業者との連携について</li> </ol> <p style="text-align: center;">＜パネルディスカッションの様子＞</p> <div style="text-align: center;"> </div>

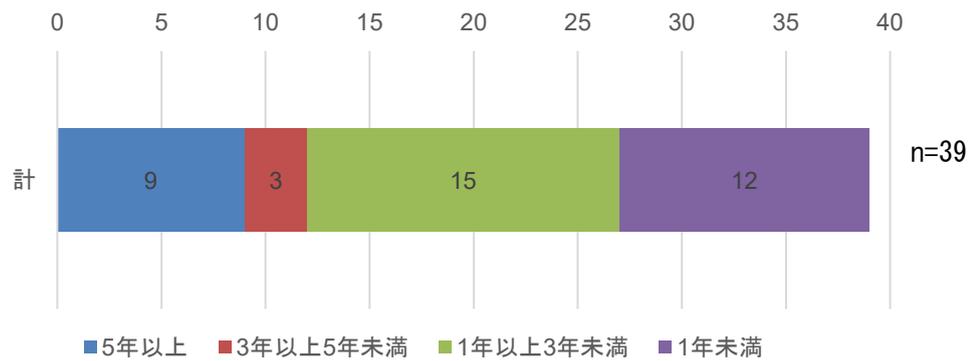
## 10.2 災害廃棄物処理セミナーの開催結果

災害廃棄物処理セミナーの参加者に対し、セミナー後にアンケートを実施した。結果を以下に示す。

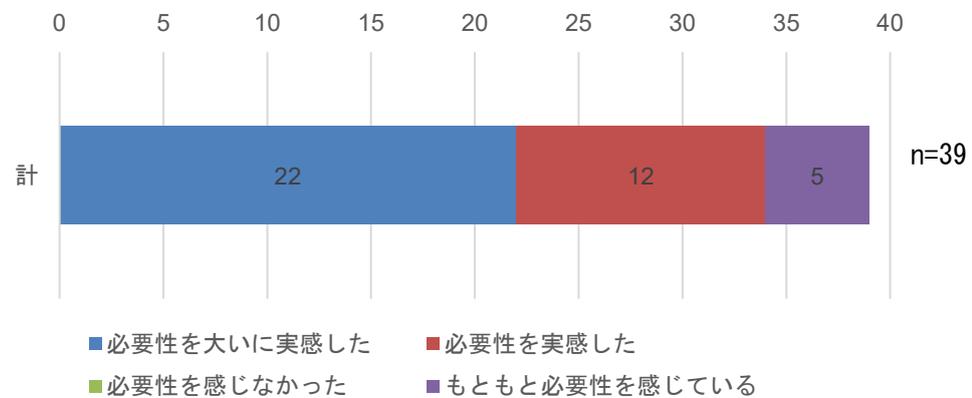
### Q1. 回答者の所属



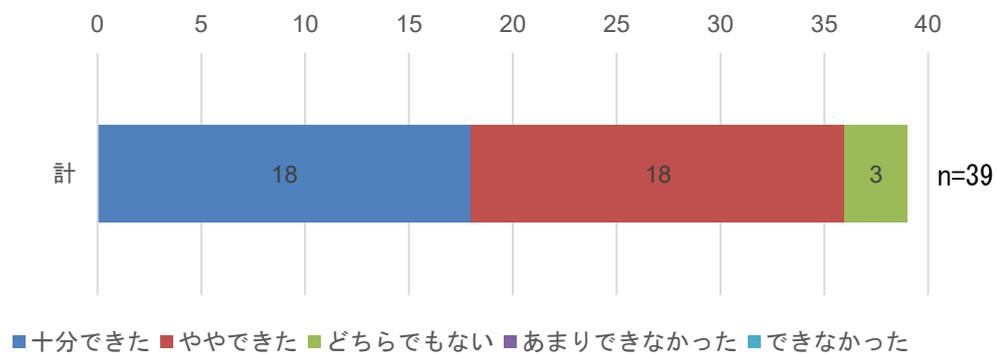
### Q2. 廃棄物関連業務の経験年数



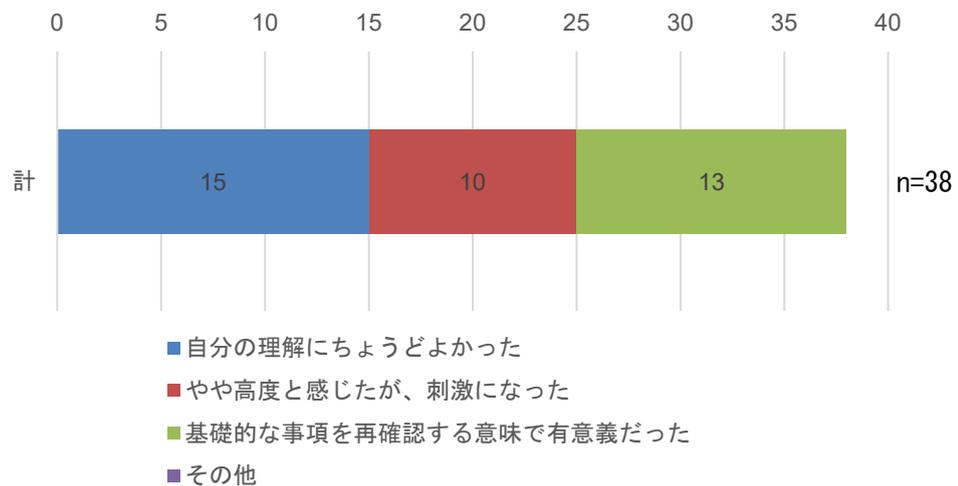
### Q3. 今回のセミナーを通じて、災害廃棄物処理に係る事前準備の必要性について、意識の変化はありましたか。



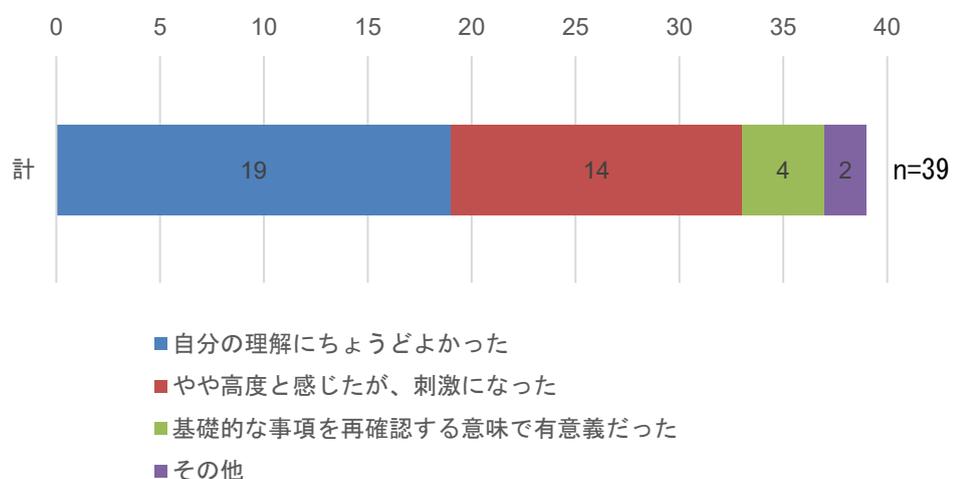
Q4. 今回のセミナーを通じて、災害廃棄物処理への対応について、具体的にイメージできましたか。



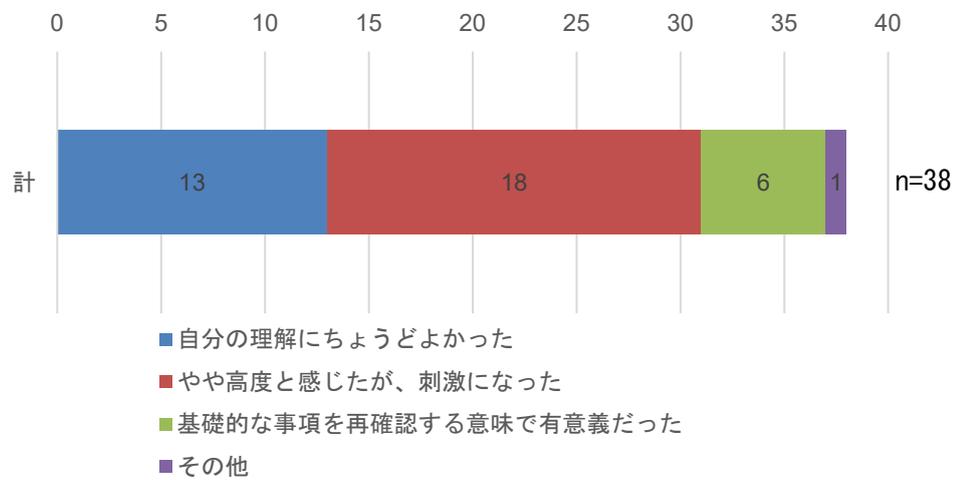
Q5. 講演1（災害廃棄物処理の基礎知識及び計画策定等の事前準備の必要性）について、どのように感じられましたか。



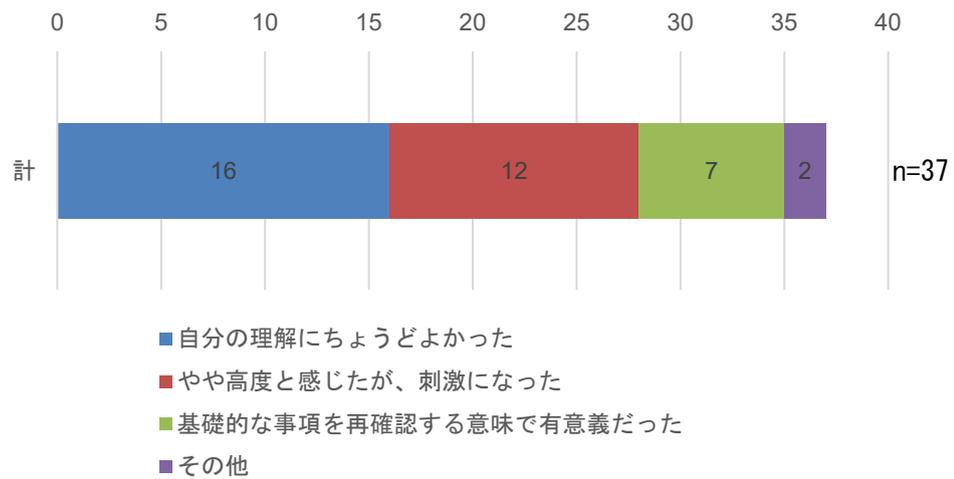
Q6. 講演2（避難所トイレ管理とし尿処理～能登半島地震事例より）について、どのように感じられましたか。



Q7. 講演3（産官学連携による災害廃棄物処理における課題と展望）について、どのように感じられましたか。



Q8. パネルディスカッションについて、どのように感じられましたか。



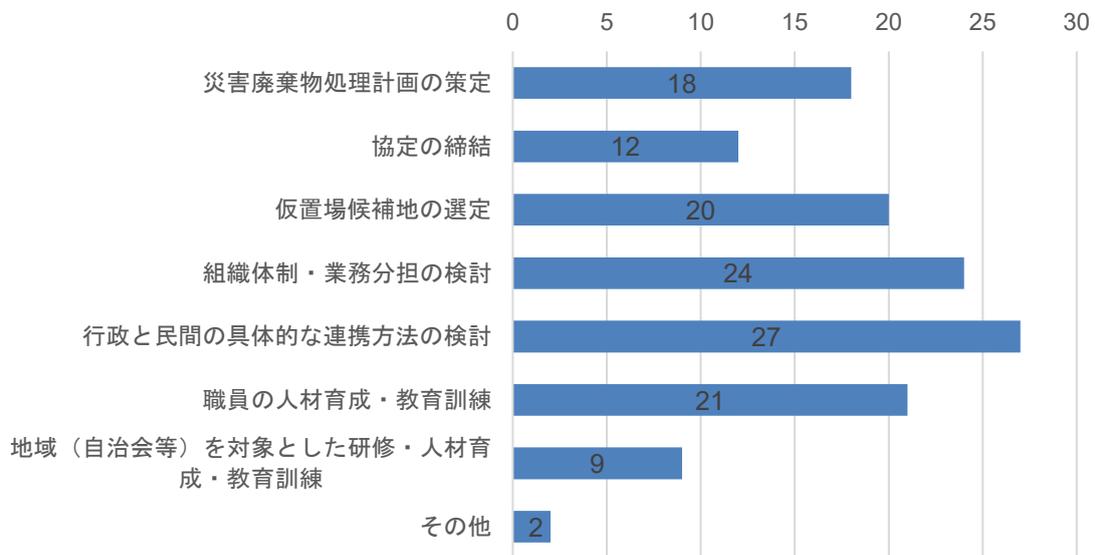
Q9. 今回のセミナーの中で、特に参考になった事項や興味を持たれた事項について、ご記入ください。

- ・ 仮設トイレの重要性を再認識した。
- ・ 各自治体はトイレのことを深くは計画していないように感じる。
- ・ 自分は東日本大震災を経験しており、トイレの重要性は重要に感じております。トイレに関しては、もう少し自治体が積極的に町内会などに簡易トイレの在庫を持つようにしていく方がいいと思います。皆が避難場所に避難できるわけでもないし、あらかじめ避難場所に救護キットなど備蓄する形をそれこそ計画的に管理できる仕組みがあるとなおいいと思います。女性の立場にたてば、ないがしろにできないそれこそ重要な問題かと思えます。
- ・ 災害時のトイレ対応の具体的な方法を学べて大変良かったです。自分は女性です。女性として当たり前に必要なだと思っていることも男性は分からないということが改めて分かりました。
- ・ 男性の多い職場です。是非そういった視点のお話を今後も広げて欲しいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 避難所はトイレに始まり、トイレで終わる
- ・ 凝固剤で固めた、し尿の収運について
- ・ 顔が見える、もしくは関係者同士の携帯番号が分かっていることの重要性
- ・ 総合管理システム
- ・ 見、感、行の重要性
- ・ 特に災害時におけるし尿処理の実情について、画像や説明により具体的な理解ができ非常に参考になった。
- ・ 避難所のトイレ問題について、事前の準備が非常に重要だと感じました。
- ・ トイレ問題は、盲点でした。避難者側、運営側、誰もが必要とするものなので、最悪のパターンを共有することで、イメージはつかめるかなと感じた。
- ・ 災害廃棄物処理におけるし尿の処理の方法の検討
- ・ 災害廃棄物に係る基礎知識を学ぶことができた
- ・ トイレパニックは、災害が発生してから対応するのではなく、準備段階で程度が決まることがわかった。
- ・ 必要性は十分認識することができた。
- ・ 教訓が無いとなかなか準備することが難しいと思った。
- ・ 財源の確保など裏付けのハードルが高いと思った。
- ・ トイレ問題や災害に備えた協定、仮置場の重要性、災害廃棄物からの火災など、ほとんどが参考になりました。
- ・ 携帯トイレの汚物処理について、焼却処理前提となっていたと思うが、焼却施設が近郊になく、平時のし尿処理は「水処理施設」で行っている地域では、ビニール袋は水処理の前処理が必要となる。

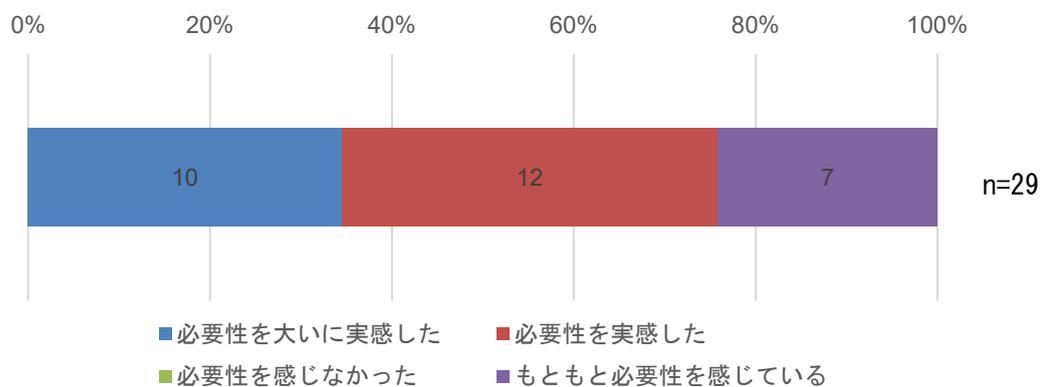
- ・ 経験した洪水土砂災害において、被災地域の便槽・浄化槽・下水道管にも土砂・砂利・その他雑多物が混入し、それらの除去・前処理に多くの時間を要した。
- ・ 被災パターンを数多く想定し、それぞれに対応する処理手段を検討準備しておくことが必要。準備に完璧はない。
- ・ 必要性については再確認できた。
- ・ 災害廃棄物処理計画策定の必要性
- ・ 人員確保の必要性が重要。
- ・ 役割分担の明確化の必要性。
- ・ トイレの話は考えたことがなかったので、重要性に気付かされた。
- ・ 災害時に発生する廃棄物の処理もし尿の処理も、事前の準備や備えをしっかりと整えていく必要があること、実際の災害発生時には準備が出来ていようとしまいと、膨大な量のそれらの処理がまったなしで迫ってくるということを、実例の紹介で実感しました。
- ・ ごみの処理については、災害報道等でも映像を目にすることがあり、多少イメージ出来ていたのですが、し尿については、こんなにたいへんなことになるのだということに初めて思い至りました。
- ・ 避難所を運営していく上でも、断水になる可能性やくみ取りがすぐ出来ない可能性、利用者がキレイに使ってくれない可能性など、リアルに考えて想定していくことが必要なのだと学びました。
- ・ 町民向けに、最初に大型袋を便器にかぶせることや、携帯トイレの備えなど、呼びかけた方が良いと感じました。
- ・ 過去に何度か災害対応の経験はあるが、いずれも短期間の避難所対応や罹災証明の現場確認であり、災害廃棄物の処理については携わったことはなかった。
- ・ 避難所が長期化する場合のし尿処理問題は、身近でかつ深刻な問題であるため、いかに平時から備えているかが非常に重要なことと思う。
- ・ トイレカーについても、北見市では所有していないため災害時に関わることがあるか不明だが、令和元年の丸森町の台風被災応援の際に現物が活躍している場面を見て、所有者に話を伺ったこともあるが、メリットだけでなくデメリットも考慮する必要性を感じた。
- ・ 避難所における仮設トイレの重要性を再認識した。
- ・ 災害時のトイレ問題の深刻さを実感できた。
- ・ 災害時に設置すべきトイレの種類、その長所と短所について理解が深まった。また、衛生管理の必要性について考えるいい機会となった。
- ・ 災害時の初動における仮置場設置及び複数個所を候補地として選定しておくことの重要性
- ・ 一次仮置場への搬入時の分別の重要性
- ・ 携帯トイレ、簡易トイレの備蓄及び実際に使用してみることの重要性"

- ・ 仮置場は遅くとも3日以内の設置が必要なこと。そのための平時から確認すべき事項の把握及び解決、シミュレーションが必要なこと。
- ・ 庁内の連携や組織体制のフレキシブルな改編が必要なこと。
- ・ 仮設トイレの現状とトイレショックの問題、代替手法（災害トイレ、トイレカー）の有用性について。
- ・ （災害時のし尿関係の実働部分は他課が担当だが、自分にとっても初めて学ぶ内容だった）
- ・ 行政の指示→民間が動く、という構図では間に合わず、官民学の連携が必須であること、日ごろからの関係構築が重要なこと。
- ・ し尿処理担当のため講演2のみを受講しましたが、地震の被災地における実体験を知ることができ、大変参考になりました。特に仮設トイレについては、道路の寸断等により避難所への設置に相当の日数が掛かるため即応性に欠けるほか、屋外設置による安全面の不安から夜間の使用を控える方が多い等課題が多いこと、避難所の既存のトイレはあつという間にあふれてしまうため、携帯トイレの備蓄が不可欠であることなどを痛感しました。
- ・ 本市でも移動式トイレを所有しており、市内の避難所への設置は想定していましたが、今回の講演を拝聴し、大規模災害の場合、他地域からのトイレカー・トレーラーの「受援」が当たり前で、そのための配備や給水・くみ取りの手配等の検討が必要であることに気付かされました。
- ・ 当町は自然災害の発生がほとんどなく、避難所開設もほぼ無いに等しい。災害発生時のトイレに関する対応策については認識不足であったため、防災担当と情報共有し災害発生に備えたい。

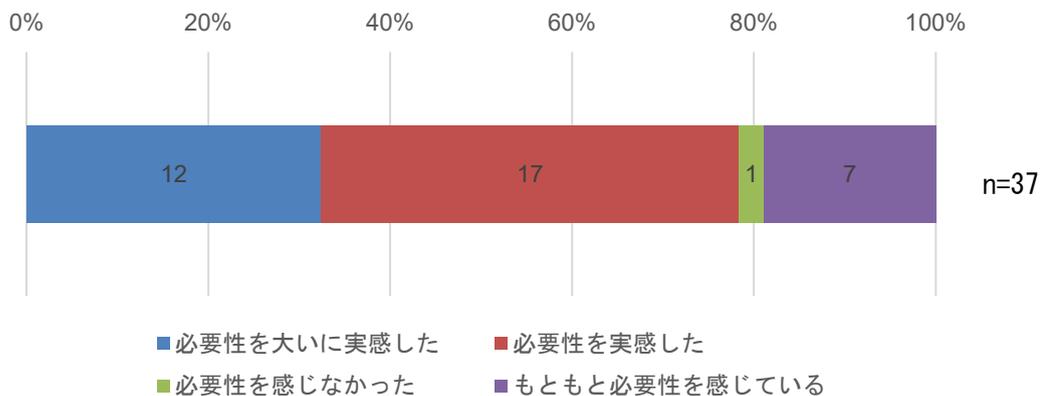
Q10. 今回のセミナーを通じて、貴団体に災害廃棄物対策として、準備が必要と考えられる事項はありますか。以下の選択肢からいくつかでもご選択ください。



Q11. （自治体・組合の方のみ）今回のセミナーを通じて、災害廃棄物処理計画の策定の必要性について、意識の変化はありましたか。



Q12. 今回のセミナーを通じて、災害廃棄物処理に関する協定締結の必要性について、意識の変化はありましたか。



Q13. 最後に、今後、災害廃棄物処理セミナーで聞きたい事項や気が付いたこと、セミナーのご感想などご記入ください。

- ・ 机上でも訓練は必要と感じるが、防災訓練はやっていても、災害廃棄物に関する訓練をやっているところは少ないのではないかと考える。
- ・ "震災を経験したものとして、全てが計画的には遂行できないにしても、対応できるようにすることは、必要だと改めて思いました。
- ・ 特に簡易トイレは絶対に常備するべき。
- ・ 内容が濃い割に講演時間が短すぎて、詰め込み過ぎという感想でした。
- ・ しかしとても有意義な講演でした、有難うございました。
- ・ 太陽光パネルなどの保管処理について
- ・ 本省で実施している、災害廃棄物対策推進検討会で議論したことの情報共有、および全国のグッドプラクティス集を勉強できる会を開催していただきたいです。
- ・ また、今回がそれに近いと思い、大変ありがたかったです、仮設トイレや避難所から出る、し尿の収運について、もっと勉強ができる会があるとありがたいです。
- ・ 文面だけでは理解の及ばない所の話をよく聞くことができ大変参考になった。
- ・ 講義について、実際の被災地での活動が豊富なお二人から、現地の状況や課題などをリアルに伝えていただけたので、非常に参考になりました。
- ・ 災害廃棄物処理は重要な対応であることは認識しますが、災害が起きた際には、あらゆる対応の一つであるので、セミナーには、災害対応を総括する組織も一緒に参加させることが望ましいと感じました。
- ・ そのような組織向けに、すでに別途セミナー等を開催し、災害廃棄物処理などについてもご説明されているのであれば、ご容赦ください。
- ・ 国や自治体が災害時に備えての取組みやどのように予算化して取り組んでいるか。
- ・ 後から考えると、処分業者から見た場合、法律に準じた取り扱いは大事ですが、災害廃棄物の大量に受入する場合の特例などあるのか気になりました。大量に来る災害廃棄物の場合、manifestの発行はかなり大変な作業ではないかと思えます。実際の災害現場では発行していたのでしょうか？気になる部分でした。
- ・ 一般廃棄物を生業とする保全協会は、もっと自治体の皆様との関りを密にしなければならぬと考えています。各自治体内における保全協会の会員は、それぞれの地区での関りは深いと思われそうですが、協会としての関りをより一層考えていかなければならぬと感じます。
- ・ 趣旨と異なる回答で申し訳ございません。この度も、ありがとうございました。
- ・ 災害廃棄物処理計画を策定している市町村の策定後の対応についての事例発表。
- ・ 本町においても「災害廃棄物処理計画」を策定しているが、仮置場の設置場所を具体的に選定していないなど、実際に災害が起きたら混乱するのは必至で、災害廃棄物処理への準備不足を強く認識した。
- ・ 大変参考になりました。

- ・本町ではちょうど災害廃棄物処理計画策定の作業を進めているところでした。
- ・計画策定業務を札幌市の企業に委託して作成を進めてもらい、出てきた案をチェックするという流れになっていますが、実際に地元のことがよくわかるのは我々職員なのであるから、主体的に作成にかかわって、しっかり実際に災害が起きたときのことをイメージして、活用出来るものを作らなければ駄目だと、身が引き締まる思いでした。
- ・仮置場についても、現在当係で打ち合わせている内容としては、「住民には近くの公園に出しておいてもらって、そこから回収して町内3か所に設定する一次仮置場に集めよう」という想定でいるのですが、住民への案内を具体的にどのようにするのか、ごみ置き場の場所や分別についての情報を迅速に周知することが出来なければ、分別されないままの勝手仮置場での火災のような状況が発生してしまうのではと心配になりました。また、分別については看板とスタッフを配置することが望ましいですが、災害発生時にさまざまな作業が求められ、人手も不足する中、そこにじゅうぶんな人員を割くことは難しいのではないかと、しかしそこを整えなければリスクがある……ということに危機感を覚えました。
- ・民間企業との連携については、講演3の大塚様の公演から、現在災害協定を結んでいるもの以外にも、もっと出来ること（民間にお願い出来ること、やっていただけたら助かること）があるのではないかと思うようになりました。
- ・自分の所属する部署の担当範囲ではないものもありましたが、今回のセミナーを通して学んだことを、まずは自分の係の分野から、活かしていきたいと思います。
- ・貴重な学びの機会を提供してくださったことに感謝いたします。
- ・被災時にとっさの対応ができるかどうかについては、平時にどれだけ備えているかが重要だと感じた。平時の備えとしてイメージしやすいものの一つとして訓練が真っ先に浮かぶが、実際に行おうとしても企画者自身が訓練の流れを含めて状況を上手く想定できず、資料作成等が進まないなど準備段階から問題が生じ、実施まで踏み切るのが難しいことがある。
- ・そのため、訓練を主催していただくことも重要だが、訓練企画者を育成する座学（一部実地含む？）研修等を企画していただけると大変助かる。（すでに行っていたなら申し訳ありません）
- ・そして持ち帰った知識や経験を基に、地元で訓練を実施していくことで少しずつでも実際に動ける人材の育成につながるのではないかと思う。
- ・災害廃棄物関連の事務を行う上で、大変参考になるセミナーだった。
- ・し尿については、所管部署が他部署にまたがる場所なので、なかなか意識が回らなかったところであるが、今回のお話を聞いて、災害時のトイレ問題についての重要性、深刻さを改めて認識できた。

- ・ 実際到大規模災害の支援に携わった方の経験や知見を拝聴し、いかに自分事として捉え、事前の備えを充実させることが重要なのかを改めて理解することができました。
- ・ 講演2、講演3のような学識経験者（被災地に赴きフィールドワークで研究されている方）や民間の災害対応経験者の方の話は災害時の現場の雰囲気をイメージしやすく、また自治体の外からの視点での話は、発災時の自治体の役割、立ち回りはどうあるべきかを逆に考えさせられるよいきっかけになると思った。
- ・ 当町では廃棄物処理を近隣町と一部事務組合を設けて処理していることから、災害廃棄物処理の対応についても、一部事務組合の構成町と連携して計画策定等をすすめていく方法が良いのではないかと感じました。

## 11. 計画策定・改定 WG の開催

災害廃棄物処理計画の策定・改定を希望する自治体を対象として、計画策定・改定 WG を実施して、災害廃棄物処理計画の策定・改定を支援した。

### 11.1 計画策定・改定 WG の実施概要

計画策定・改定 WG は、表 11.1-1～表 11.1-4 に示す日程、プログラムで実施した。WG メンバーの所属団体種別及び団体数、人数は表 11.1-5 のとおりである。

WG では、災害廃棄物処理計画に必要な内容を他市町村の災害廃棄物処理計画の記載例や過去に発生した災害での対応事例の紹介も交えて説明するとともに、演習や参加者への質問等への個別対応などを通して計画策定・改定を支援した。

また、WG での説明と別途、WG メンバーに対する処理計画作成支援を行った（骨子案作成支援：1自治体、骨子案の確認：2自治体、図面等作成：2自治体）。

説明に用いた当日の資料は、資料編に整理した。

表 11.1-1 第 1 回計画策定・改定 WG 開催概要

開催日時	令和 7 年 9 月 26 日（金） 13:00～15:00
開催場所	[オンライン開催]
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害廃棄物処理計画策定の目的</li> <li>2. 事前アンケート結果</li> <li>3. 北海道版ワークシート（第 3 版）の紹介</li> <li>4. 計画の発災時の利用方法</li> </ol>
参加人数	7 名（市町村 5 自治体） ※事務局を除く

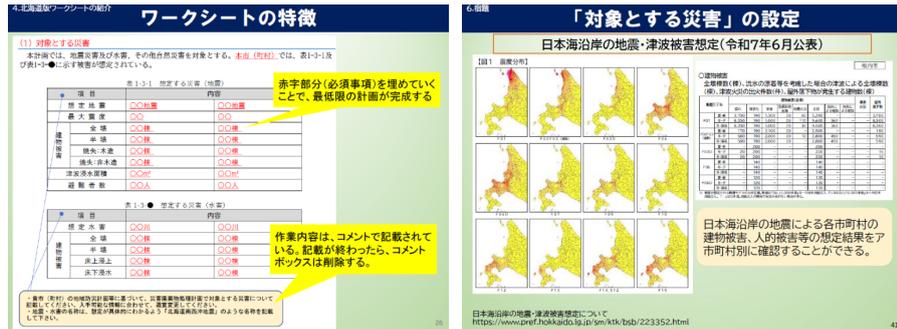


表 11.1-2 第2回計画策定・改定 WG 開催概要

開催日時	令和7年10月20日(月) 13:00~15:00
開催場所	[オンライン開催]
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>被害想定の確認</li> <li>災害廃棄物処理計画の基礎的事項、組織体制、災害廃棄物発生量推計</li> <li>素案の作成について</li> <li>【演習】避難所ごみ、仮設トイレし尿処理量の推計</li> </ol>
参加人数	6名(市町村4自治体) ※事務局を除く

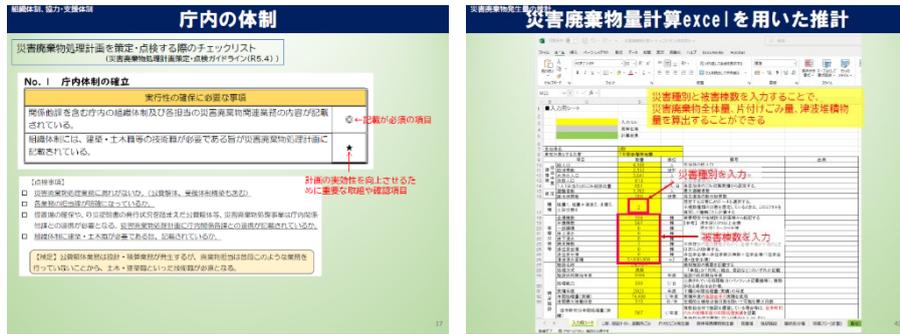


表 11.1-3 第3回計画策定・改定 WG 開催概要

開催日時	令和7年11月17日(月) 13:00~15:00
開催場所	[オンライン開催]
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>水害における避難者数設定の考え方</li> <li>住民周知、処理可能量、処理フロー、収集運搬体制、仮置場</li> <li>【演習】災害廃棄物発生量の計算</li> <li>【演習】住民周知手法に関する意見交換</li> </ol>
参加人数	6名(市町村4自治体) ※事務局を除く



表 11.1-4 第4回計画策定・改定WG開催概要

開催日時	令和8年1月26日(月) 13:00~15:00												
開催場所	[オンライン開催]												
主な内容	<p>1. 必要となる仮置場面積の考え方                  2. 環境対策・モニタリング、公費解体、処理困難物、計画の見直し                  3. 【演習】計画策定後の運用準備に関する意見交換</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p><b>必要になる仮置場面積</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮置場での集積量の推移(イメージ)</li> <li>まず片付けこみが集積され、処理方法・処理先が決まったものから処理のために搬出される。</li> <li>能登半島地震の場合、公費解体の周知が始まったのが1~2か月後、解体が始まったのが約3か月後以降(自治体により異なる)</li> </ul> <p>→特に災害規模が大きい場合(処理期間が長期にわたる場合は、すべての廃棄物を仮置きできる面積を確保する必要はない。</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p><b>公費解体の対象範囲</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公費解体: 私有財産である被災家屋に対し、災害時の特例として損壊家屋の解体・搬去を補助金対象とすること。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>全壊</th> <th>半壊</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>解体・解体</td> <td>○</td> <td>△</td> </tr> <tr> <td>建築</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>処理・処分</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>○: 適用, △: 解体により適用</p> </div> </div>	区分	全壊	半壊	解体・解体	○	△	建築	○	○	処理・処分	○	○
区分	全壊	半壊											
解体・解体	○	△											
建築	○	○											
処理・処分	○	○											
参加人数	7名(市町村5自治体) ※事務局を除く												

表 11.1-5 計画策定・改定WGメンバー

団体種別	団体数、人数
参加自治体	6自治体 8名
災害廃棄物処理計画を策定したい自治体	4自治体
災害廃棄物処理計画を改定したい自治体	2自治体

## 11.2 計画策定・改定 WG の実施結果

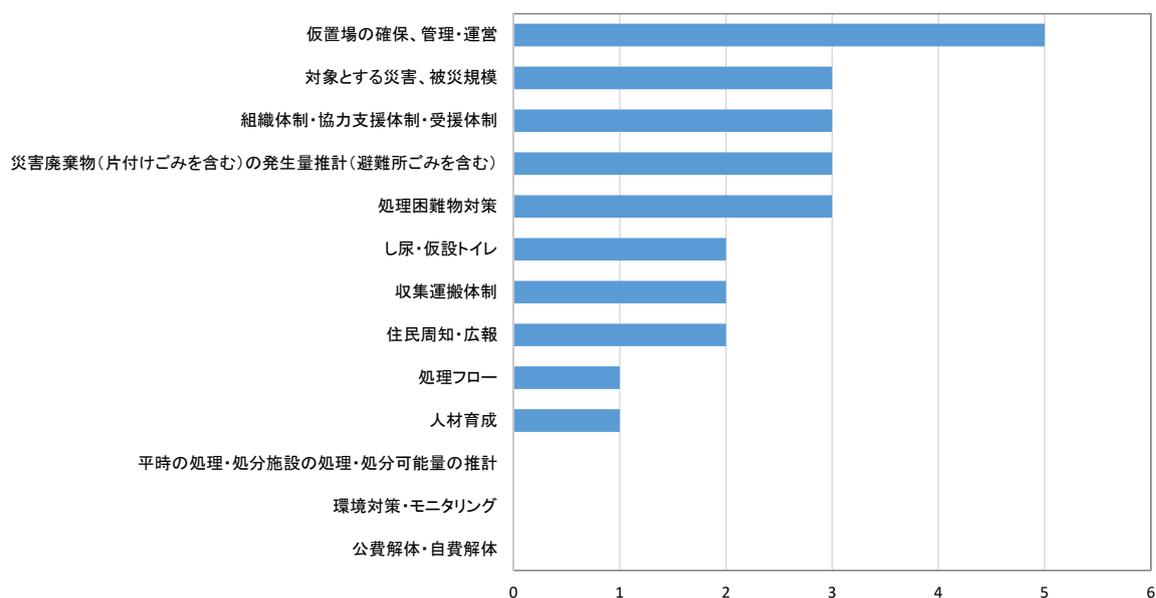
計画策定・改定 WG の実施結果について以下に示した。

### 11.2.1 事前アンケート

WG メンバーを対象として計画策定・改定 WG で詳細に説明を希望される事項等についてのアンケートを行い、6 自治体から回答をいただいた。

回答数が多い事項については、説明のボリュームを増やすことで理解を深めることとした。

#### Q1. 計画策定・改定 WG で詳細な説明を希望する事項（最大 5 つ選択）



#### Q2. 自治体における地域特性や留意すべき事項

<b>【仮置場の選定】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>仮置場に利用可能な市有地がない(北海道の未利用地を仮置場として選定しているが、売地のため災害時に利用できるかわからない)。</li> <li>仮置場に利用可能な公共用地が少ない。</li> </ul>
<b>【対応事例の共有】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道や他の自治体(特に内陸都市部)の計画を参考に最新の情報を取り入れた実効性のある改定をしたい。</li> </ul>
<b>【被災規模が甚大】</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>千島海溝沿いの巨大地震が発生した場合、市内全域が浸水域となるため、当市で人的・物的な体制が取れず、何もできない可能性が高い。</li> </ul>

### Q3. 災害廃棄物処理計画を策定・改定するにあたり懸念する事項、WG への希望

<b>【改定内容】</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画改定にあたり、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震にかかる想定、対応の追記等について検討している。</li><li>・ 千島海溝沿い巨大地震は、国や道が計画策定をしたほうが、実効性が高いと考える。</li></ul>
<b>【計画と実際との乖離】</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画のモデルケースや実際に被災した場合と計画との差異などについて実例があると助かる。</li></ul>
<b>【災害廃棄物発生量の推計】</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 災害廃棄物の処理量の計算などを知りたい、骨子案を作成してほしい。</li></ul>



表 11.2-3 第3回計画策定・改定 WG

種別	内容
説明内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民やボランティアに適切な分別で、適切に排出してもらえるような啓発・広報</li> <li>・ 広報の内容、情報伝達手段の災害廃棄物処理計画への位置づけ・平時からの広報手段の事例紹介</li> <li>・ 災害廃棄物発生量推計を基にした処理可能量の推計の考え方、及び方法</li> <li>・ 災害廃棄物の処理フローの考え方</li> <li>・ 片付けごみの仮置場までの収集運搬方法の整理</li> <li>・ 仮置場に関する説明、仮置場候補地の選定・事前調査と計画への記載方法</li> <li>・ 仮置場候補地の選定基準</li> <li>・ 仮置場面積の推計方法</li> <li>・ 仮置場の管理・運営の手法（設置の留意事項、分別、配置、配置・資機材等の事例紹介）</li> </ul>
演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害廃棄物発生量の計算</li> <li>・ 住民周知手法に関する意見交換 ⇒「発災時に住民に対して周知する必要がある事項」について平時にひな形を作成することを想定し、周知の必要がある①テーマ、②事項 について示す。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="300 1048 611 1552" style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #0056b3; color: white;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>片付けごみ・生活ごみ等の 排出方法</b></p> <div style="background-color: yellow; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>①テーマ：ごみの収集 ②周知事項：通常ごみと災害ごみの対応（個別収集、仮置場等への持ち込み、手数料減免、収集期間等）、し尿処理の対応など</p> </div> <div style="background-color: yellow; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>①生活ごみの出し方 ②「生活ごみは、収集・回収体制が整い次第周知します」</p> </div> <div style="background-color: yellow; padding: 5px;"> <p>①片付けごみの出し方 ②「ごみの受入体制が整い次第周知します」</p> </div> </div> <div data-bbox="643 1048 954 1552" style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #800080; color: white;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>仮置場の利用</b></p> <div style="background-color: yellow; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>①仮置場 ②仮置場に運搬できるごみの説明、開設時間、仮置場の場所、罹災証明書等の必要書類</p> </div> <div style="background-color: yellow; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>①仮置場 ②持込可能なごみについて</p> </div> <div style="background-color: yellow; padding: 5px;"> <p>①仮置場 ②開設場所、分別方法、受入不可のもの周知</p> </div> </div> <div data-bbox="986 1048 1297 1552" style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #008000; color: white;"> <p style="text-align: center; margin: 0;"><b>家屋解体ごみ</b></p> <div style="background-color: yellow; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>①家屋解体に係るごみ処理 ②片付けごみとの区分分け、搬出のタイミングなど</p> </div> <div style="background-color: #0070c0; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p><b>その他</b></p> <div style="background-color: yellow; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"> <p>・不法投棄の防止</p> </div> <div style="background-color: yellow; padding: 5px; text-align: center;"> <p>・便乗ごみの防止</p> </div> </div> </div> </div>

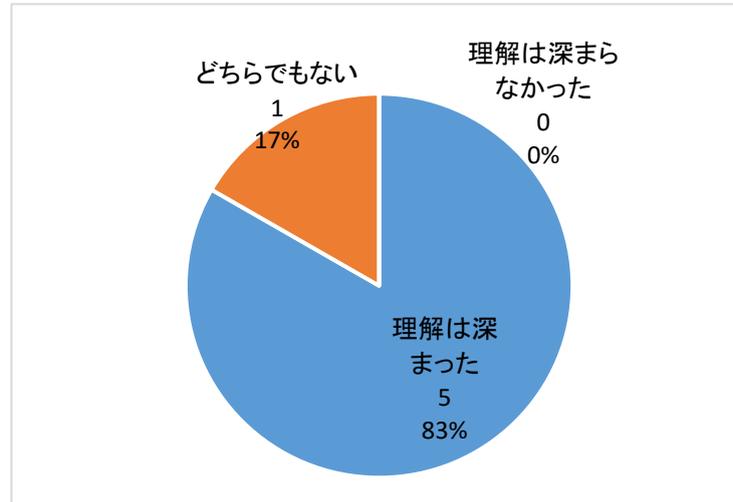
表 11.2-4 第4回計画策定・改定 WG

種別	内容		
説明内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に必要になる仮置场面積について（片付けごみと解体廃棄物の排出タイミングの違い）</li> <li>・ 環境対策・モニタリングに関する技術資料の記載、モニタリングの実施事例</li> <li>・ 公費解体（損壊家屋の撤去）の対象となる範囲、手順、マニュアル類の紹介</li> <li>・ 自費解体に関するマニュアル・事例の紹介</li> <li>・ 公費解体の実施に向けた課題（能登半島地震の事例紹介）</li> <li>・ 有害廃棄物・適正処理困難物の種類・留意事項・処理ガイドライン等</li> <li>・ 計画の見直し</li> </ul>		
演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の運用準備に関する意見交換</li> </ul> <p>⇒「災害廃棄物処理計画を策定した後、発災時の混乱を最低限にとどめるため、計画の運用準備として、実施すべき事項」について、①実施の目的、②実施事項 について示す。</p>		
<p>手引き・マニュアル等の作成</p> <p>目的：初動の判断の遅れや迷いを防ぐ          具体例：初動対応マニュアル（時系列）、仮置場運営マニュアル、公費解体・自費解体の事務手引、処理困難物対応マニュアル、住民向け簡易版（A4 1～2枚程度）</p> <p>職員用、協力事業社用、住民用のマニュアルの作成</p> <p>段階別のマニュアル（発災直後～復旧するまで）          住民向けのマニュアル（何をどこに捨てればいいのか）          仮置き場の運営マニュアル（実際に対応する事業者や町職員など向け）</p>	<p>現場対応力の準備</p> <p>目的：物理的・実務的な現場対応ができるための人・場所・モノの判断材料          具体例：仮置場候補地の事前リスト化・現地確認、重機・資機材の確保ルート整理、寒冷地対応の整理、職員動員の現実的想定、現場判断基準の明文化</p> <p>①災害廃棄物の運搬、処理ルールづくり          ②・災害規模の把握 ・処理主体（自治体内、協定先）・収集ルート ・処理方法（通常施設、仮置場） ・処理期間 など</p> <p>1,2次仮置場の確認、リスト化</p> <p>①仮置場の運用体制の構築          ②現地調査(所有者の確認) 候補地のリスト化 資機材・人員の確保 運用マニュアルの作成 住民への周知方法の検討</p> <p>人員体制の整備（廃棄物以外からの応援派遣）          数年に1回程度でも仮置き場訓練など          仮置き場の事前調査</p>	<p>民間事業者等と連携強化</p> <p>目的：「災害時にはじめて連絡」としない関係作り          具体例：廃棄物処理業者・建設業者との事前整理、道・近隣自治体との役割分担の確認、港湾・漁協・観光関係者との調整、協定の「実効性」の確認</p> <p>連携確保を目的、収集運搬処分の民間事業者、他市町村との連携、道・環境省との関係構築</p> <p>応援協定の締結など</p>	<p>他部署・住民の理解促進</p> <p>目標：「人の理解不足」による住民・他部署の誤解をおこさせない          目的：庁内向け説明（防災訓練・管理職研修）、応援職員向け簡易マニュアル、住民向け事前周知、町内会・連合町内会との事前共有</p> <p>危機管理課で自衛隊－民間企業、住民で訓練→災害廃棄物処理の訓練追加したい          他市町村等に助けを求める</p> <p>HPなどで町民向けに常に周知しておく</p>

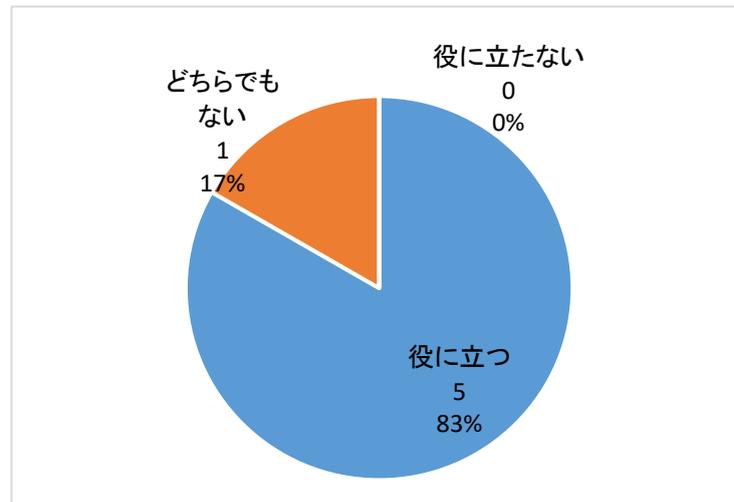
### 11.2.3 事後アンケート

WGメンバーを対象として、第4回計画策定・改定WG後にアンケートを行った。

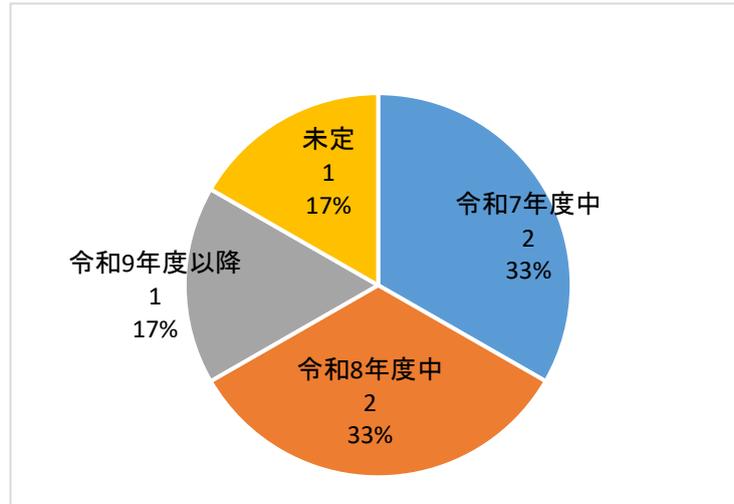
Q1. 本WGを通じて、災害廃棄物処理に関する理解が深まりましたか。



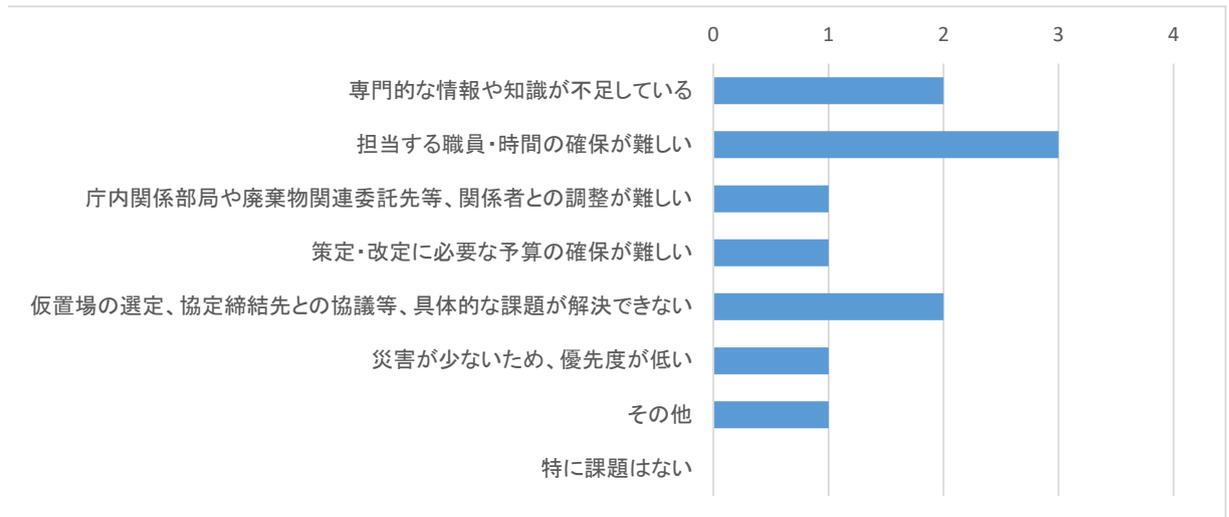
Q2. 本WGの内容は、今後貴自治体において災害廃棄物処理計画の策定・改定をはじめとする災害廃棄物対策を進める上で、役に立つと思われますか。



Q3. 今後の災害廃棄物処理計画の策定・改定予定を教えてください。



Q4. 災害廃棄物処理計画の策定・改定が進まない理由がありましたら教えてください。  
(複数回答可)



<その他の意見>

- ・担当職員の災害廃棄物処理計画に対する意識が低い場合がある。

#### Q5. 災害廃棄物処理計画の策定・改定が進まない理由として考えられる事項

<b>【専門知識の不足】</b>
・ 改定にあたっての課題として、「新たに追加する内容をどのようなものとするか」「追加の仕方（全面改定，部分改定）をどのようにするか」「他都市の事例」などについて情報を収集し、理解を深めることが必要と考える。
<b>【人員・時間の不足】</b>
・ 担当職員不足に伴う他業務優先により、策定・改定がなかなか進められない。
<b>【体制・仕組みの不足】</b>
・ 廃棄物収集・運搬・処理業者との大規模災害発生時における対応の協議をこれまでしたことがないため、ゼロからの出発となる点。
・ 国や道が助成制度などをアップデートした際に、各自治体で反映させる仕組みづくり。
・ 市の防災計画担当との連携。
・ 計画を更新した際に住民を巻き込む方法。
・ 仮置場で利用可能な市有地がない。
・ 庁内での災害廃棄物処理対策部門の調整。
<b>【その他】</b>
・ 大地震により発生する津波の浸水範囲が広範囲に及ぶことが想定されるため、必要な規模の仮置き場を確保できない。また、一定程度高台の地域もあるが、本市区域においては、2本の河川が流れており、落橋等の恐れがあることから、それぞれの地域との往来が困難となることが想定される。

#### Q6. 計画策定・改定WGの内容についてご意見、ご要望

<b>【計画策定に関する要望】</b>
・ 今のところないが、計画改定の際の相談窓口が欲しい。
<b>【WG運営に関する意見】</b>
・ 昼休憩が、13時までの自治体が多いことから、開始時刻を13時以降にしたほうが参加職員の負担が少ないかと思う。
<b>【その他】</b>
・ WG終了後も個別相談に迅速にご対応いただき、ありがとうございます。今後とも、このようなフォローをしていただければ助かります。

### 11.3 計画策定・改定に関する課題及び解決策

計画策定・改定 WG における計画策定支援を通して抽出した計画策定・改定に関する課題及び解決策を表 11.3-1 に示す。

表 11.3-1 計画策定・改定に関する課題及び解決策

課題	解決策
専門的な情報や知識が不足している	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害廃棄物処理計画策定・改定に関する事項を情報提供する。</li> <li>○処理計画の改訂が望ましいと考えられる法律・被害想定等が改定されたタイミングで、自治体への情報提供を行う。</li> <li>●各種推計は、北海道地方環境事務所 HP 掲載の「計算エクセル」や「水害に関する災害廃棄物発生量推計の手引き」を活用する。</li> <li>●環境省等が実施する研修に、防災部局・土木部局などの関連部局職員も参加する。</li> </ul>
職員や時間の確保が難しい	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他部局と協働して作成する。</li> <li>●北海道地方環境事務所 HP 掲載の各種ツール（「北海道版ワークシート（第3版）」、「計算エクセル」、「北海道版ワークシート（簡易版）」、「自治体支援マニュアル（ワークシート解説）」）を活用する。</li> </ul>
関係者との調整が難しい（関係部局、民間事業者等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○庁内での調整や共有が特に望ましい事項を情報提供する。</li> <li>○共同処理している場合に関係自治体間で整合をとることが望ましい事項（処理可能量の推計等）を情報提供する。</li> <li>○連携強化 WG 等を通じて自治体と民間事業者との意見交換の場を設け、平時からの関係構築を図る。</li> <li>●平時の収集運搬・処理体制を形成している民間事業者と、災害時の体制に関する協議を行う。</li> </ul>
仮置場の選定に苦慮している	<ul style="list-style-type: none"> <li>○仮置場の選定事例や仮置場に関する処理計画の様々な記載例を情報提供する。</li> <li>○北海道とも連携して、仮置場候補地となり得る国有地や道有地等の情報を整理し、自治体に提供する。</li> <li>●防災部局等の関係部署に協力を依頼して仮置場を選定する。</li> <li>●北海道地方環境事務所 HP 掲載の「仮置場選定方法のマニュアル」を活用する。</li> <li>●計画策定時に仮置場候補地を確保していることは望ましいが、難しい場合は仮置場の設置方針を計画に記載して策定し、引き続き仮置場候補地を検討する（将来的に計画を改定）。</li> <li>●仮置場面積の確保が困難な場合は、面積が少なくても可能な処理体制（迅速な処理・処分の実施等）について検討する。</li> </ul>

○：環境省実施事項、●：自治体実施事項

## 12. 検討事項等

### 12.1 エリアごとの課題抽出および対応策の検討

令和7年度のエリア分科会で提出されたエリアごとの課題について、いずれのエリアにおいても、災害廃棄物処理計画策定に関する意見が多く挙げられた（表 12.1-1）。

そのため次年度以降は、現在の各エリアの処理計画の策定率のほか、災害廃棄物処理計画に関するアンケート結果を踏まえ、人材育成事業等を活用した、処理計画の策定促進、改定による実効性の向上策を検討していく必要があると考えられた。

表 12.1-1 各エリア分科会で挙げられた「災害廃棄物処理計画」に関する意見

意見
<ul style="list-style-type: none"><li>・計画策定に関して共通の課題を抱えている自治体も多い。計画策定済みの自治体ではどのように策定におけるハードルを乗り越えたのか知りたい。（道央）</li><li>・想定される全ての災害の災害廃棄物処理方法を網羅しないと災害廃棄物処理計画として策定できないのか。（道東）</li><li>・オペレーションの主体を国や北海道としたプッシュ型の支援を受けられないか。当市として出来る限り周辺市町村を支援できるように事前の準備を行いたいと思っている。実際に発災した場合に行動できるようにしたいので、そのような計画を作る際にはどのような視点が必要か。（道東）</li><li>・災害廃棄物発生量を推計するための係数は随時見直されている。すでに計画を作成している自治体は、作成時に使用した係数と最新の係数で発生量の差が生じていると思うが、発生量の差について計画を作成している自治体はどのような対応をしているのか。（道北）</li><li>・数値はワークシートを使って推計することができたが、図面の作成が難しく自治体担当者だけでは行き詰まるがあった。図面を作成することができたのはプッシュ型支援が大きかった。（道南）</li></ul>

## 12.2 次期ビジョン・ロードマップ案の検討

### 12.2.1 次期ビジョンの検討

本年度で最終年度を迎えた現行ビジョン・ロードマップ（表 12.2-1、表 12.2-2）の振り返りを行い、各項目の現状を整理するとともに、今後の方針を検討・設定した。

表 12.2-1 現行ビジョン

計 画 策 定	人 材 育 成
<p>現状：平成29年3月に北海道ブロック行動計画（第1版）策定。近年の災害に伴う廃棄物処理の課題や知見、北海道の被害想定の見直し状況等をふまえた改定が望ましい。</p> <p>道内の市町村災害廃棄物処理計画の策定率は2021年1月時点で13%（23/179）。小規模自治体が多くマンパワー不足等が課題。</p> <p>方針：北海道ブロック行動計画の点検・見直しを行い、実効性向上を図る。</p> <p>2025年度までに市町村の災害廃棄物処理計画策定率60%、<b>日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域の策定率70%</b>を目標とする。各地域で人材育成と合わせた支援を行い、計画策定を促進する。</p>	<p>現状：協議会構成員を対象としたもののほか、計画策定モデル事業を含め、人材育成事業として振興局単位で市町村・振興局職員向けに座学・ワークショップを実施。</p> <p>方針：各地域で人材育成を継続的に実施できる体制を構築し、全道における意識向上や基礎的事項の理解促進を図る。人事異動等を考慮し、高度な内容にシフトしていくのではなく、基礎的内容を継続して行う体制を構築する。そのうえで、協議会構成員を対象にレベルアップした内容を試行的に行う。</p>
相 互 連 携	協 議 会 構 成 員 と 役 割
<p>現状：ブロック協議会やモデル事業において、関係者間の意見交換、情報共有等を実施。ブロック協議会では、相互連携・広域連携のための各種検討を実施。災害時の地域内及び道内広域連携のための、ハード・ソフト面のリスクポイントを把握し、具体的な対応策を検討・促進することが望ましい。</p> <p>方針：災害廃棄物処理に関わる関係者が、被災状況に応じて、各地域及び全道で、速やかに連携できる体制を平時から構築する。地域内処理・道内広域処理における現状の課題をふまえた対応策を促進する。</p>	<p>現状：平成27年度より学識経験者、地方自治体、民間団体、国関係機関より構成される北海道ブロック協議会を設置し、大規模災害時の廃棄物対策に関する情報共有や広域連携に関する検討等を実施。各地域で災害廃棄物処理対策を促進できる体制に合わせた協議会等の運営が必要。</p> <p>方針：ハード（災害廃棄物発生量等定量的数値）、ソフト（協定締結状況等）の両面での現状把握を行い、対応策を検討し実施する。</p>

赤字：改定部分

表 12.2-2 現行ロードマップ

	計 画 策 定		人 材 育 成		相 互 連 携	協 議 会 構 成 員 と 役 割
	北海道ブロック 行動計画	市町村災害廃棄物 処理計画	学習段階初期	学習段階中～後期		
1年目 (R3)	○行動計画の点検・見直し、検討項目抽出	●市町村の計画作成の促進（策定率目標：20%、36市町村）	●座学、ワークショップ等による基礎知識習得（各地域）	●ワークショップ（協議会構成員等）※図上演習の要素を取り入れる	○相互連携のための定量的検討等の項目抽出 ○相互連携のための方策検討	○他ブロック協議会構成員、役割、会議運営に関する情報収集・整理 ○道内での会議運営に関する情報収集・整理
2年目 (R4)	○行動計画見直しのための検討等 ○行動計画第2版（案）作成	●市町村の計画作成の促進（策定率目標：30%、54市町村）	●座学、ワークショップ等による基礎知識習得（各地域）	●対応型図上演習（協議会構成員等）	○相互連携のための定量的検討等の実施 ○相互連携のための方策検討	○北海道ブロックの協議会構成員、役割、会議運営に関する検討
3年目 (R5)	○行動計画第2版策定	●市町村の計画作成の促進（策定率目標：40%、72市町村。 <b>推進地域50%</b> ）	●座学、ワークショップ等による基礎知識習得（各地域）	●対応型図上演習（協議会構成員等）	○相互連携のための定量的検討等の実施 ●相互連携のための方策促進	○新たな構成員、役割による協議会運営（必要に応じて見直し）
4年目 (R6)	●行動計画の実施	●市町村の計画作成の促進（策定率目標：50%、90市町村。 <b>推進地域60%</b> ）	●座学、ワークショップ等による基礎知識習得（各地域）	●対応型図上演習（協議会構成員等）	※上記を継続（必要に応じて見直し）	※上記を継続（必要に応じて見直し）
5年目 (R7)	※上記を継続（必要に応じて見直し）	●市町村の計画作成の促進（策定率目標：60%、107市町村。 <b>推進地域70%</b> ）	●座学、ワークショップ等による基礎知識習得（各地域）	●対応型図上演習（協議会構成員等）	※上記を継続（必要に応じて見直し）	※上記を継続（必要に応じて見直し）
備考	・行動計画には、相互連携、協議会構成員と役割の検討結果を反映する	・人材育成事業と合わせた計画作成を推進する	・相互連携に関わる関係者の参加を推進する ・3年目以降は、新たな協議会等運営体制により実施する	・相互連携に関わる関係者の参加を推進する	・人材育成、協議会等の運営と合わせて相互連携体制を強化する	・計画策定、人材育成、相互連携を道全体（各地域）で進めるための体制等を検討し、協議会等を運営する

○北海道ブロック協議会

●北海道ブロック協議会、道、市町村

推進地域：日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策推進地域

以下に、各項目の現状と今後の方針を示す。

## (1) 計画策定

### 1) 現状

- ・北海道ブロック行動計画について、第1版策定以降、国・道の動向や、発生した災害の知見を反映し、第2版の一部改訂まで行ったが、道より「日本海沿岸の地震・津波被害想定」が公開されるなど、継続的な更新が必要であると考えられる。
- ・市町村災害廃棄物処理計画について、策定率は令和5年度末で全道49%（目標値40%）、推進地域65%（目標値50%）と着実に向上しているものの、全国平均（86%）と比較してはまだ低水準であるほか、その内容の実効性については未確認である。

### 2) 今後の方針

- ・北海道ブロック行動計画については、相互連携における「日本海沿岸の地震・津波被害想定」の検討内容の反映のほか、適宜点検・見直しを行い、実効性向上を図る。
- ・市町村災害廃棄物処理計画の策定率については、令和12年度までに100%を目指すこととし、計画の内容については人材育成と連携することで、適切な改定・実効性の向上へ繋げることとする。

## (2) 人材育成

### 1) 現状

- ・エリア分科会構成員（学習段階初期）に対しては座学・意見交換を中心に行い、協議会構成員（学習段階中～後期）に対しては状況付与型の図上演習を行うなど、学習段階の違いを考慮した演習を継続した。
- ・そのほか、仮置場設置訓練の実地訓練や、各種WGなどの設置により、対応力向上に向けたプログラムを実施したものの、各市町村が主体的に検討を進められるフェーズには至っていない。

### 2) 今後の方針

- ・エリア分科会構成員（学習段階初期）に対しては、WGや仮置場設置訓練も含め、引き続き基礎知識習得に向けた取り組みを継続するほか、併せて各エリア特性を踏まえたプログラムを実施し、各エリア内で災害が発生した際の対応力を備えた人材の育成を図る。
- ・協議会構成員（学習段階中～後期）に対しては、図上演習等の高度なプログラムのほか、相互連携の検討を踏まえたプログラムを実施し、各市町村が主体的に災害対応力向上に向けた方策を検討・実施できるよう大局的な視点を有する人材の育成を図る。

### (3) 相互連携

#### 1) 現状

- ・日本海溝千島海溝沿いの巨大地震の被害想定や、平成 28 年 8 月北海道豪雨の被害実績により北海道ブロックにおける大規模災害時の災害廃棄物発生量を推計し、道内の処理施設の能力と比較するなどの定量的な検討を実施してきた。
- ・しかしながら、検討結果を踏まえた、市町村・道（振興局）・民間事業者まで含めた効果的な連携の方策は定まっていないほか、新たに公表された「日本海沿岸の地震・津波被害想定」に関する廃棄物量の検討が求められる。

#### 2) 今後の方針

- ・「日本海沿岸の地震・津波被害想定」における災害廃棄物発生量を推計し、北海道ブロック行動計画への反映を行う。
- ・上記のほかこれまでの定量的検討結果を基に、市町村・道（振興局）・民間事業者等の全関係者の連携の方策を検討する。

### (4) 協議会構成員と役割

#### 1) 現状

- ・ブロック協議会において、大規模災害時の廃棄物対策に関する情報共有や、広域連携に関する検討等を継続したほか、全ての市町村が参画できる体制として令和 5 年度にエリア分科会を設置し、エリアごとの課題の抽出を実施した。
- ・しかしながら、エリアごとに処理計画の策定率に差があるほか、想定される災害シナリオもエリアごとに異なるため、ブロック協議会主導による検討のみでは、発災後に地域特性に合わせた適切な対応が困難である懸念がある。

#### 2) 今後の方針

- ・ブロック協議会においては、国・道の動向を踏まえ、北海道ブロックのあるべき姿とその実現に向けた方策について検討する。
- ・エリア分科会においては、エリアごとの災害対応力向上を図るため、各エリア分科会の在り方と、その実現に向けた目標の検討を行う。

## 12.2.2 次期ロードマップの検討

前項の次期ビジョンの達成に向けた次期ロードマップ案を作成した（表 12.2-3）。

今後の5年間については、ブロック協議会を災害廃棄物対策のプラットフォームとして、市町村職員の意識醸成・人材育成の方策を検討するとともに、エリア分科会を介して道内の全関係者の連携を図ることで、各エリアでの災害の対応力の向上を目指す。

表 12.2-3 次期ロードマップ

		令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
計画 策定	北海道 ブロック 行動計画	第3版策定に 向けた調査検討	第3版策定	反映すべき事項の調査検討の継続と、 必要に応じた一部改定の実施		
	市町村 災害廃棄物 処理計画	策定率 全道70% 推進地域80%	策定率 全道80% 推進地域90%	策定率 全道90% 推進地域100%	策定率 全道100%	策定状況を踏まえた 策定率向上策と、 実効性向上のための 改定方法の検討
人材 育成	学習 段階 初期	座学・ワークショップ等による基礎知識習得（各エリア分科会構成員等）				
		エリア特性に合わせたプログラムの実施による、災害発生時の対応力を有する人材の育成				
	学習 段階 中～後期	対応型図上演習（ブロック協議会構成員等）				
		相互連携の検討を踏まえたプログラムの実施による、大局的な視点を有する人材の育成				
相互連携		「日本海沿岸の地震・津波被害想定」 に関する定量的検討・ 北海道ブロック行動計画への反映		定量的検討項目の調査の継続 全関係者による相互連携の方策の検討の継続		
協議会と 構成員	ブロック 協議会	北海道ブロックの在り方と、その実現に向けた方策の検討の継続				
	各エリア 分科会	エリア分科会の在り方と、その実現に向けた目標の検討				

### 12.3 ブロック行動計画の更新事項の検討

能登半島地震等の近年の災害対応等の知見を踏まえて、「大規模災害時における北海道ブロック災害廃棄物対策行動計画（第2版）」の更新事項を検討した。

更新事項の概要を表 12.3-1 に示す。

表 12.3-1 ブロック行動計画の更新事項の概要

段落番号	見出し	改訂の概要
3-2	対象とする災害シナリオの設定	能登半島で発生した複合災害を踏まえ、豪雪等の可能性も含めた複合災害の発生の可能性について追記する。
3-3	対象とする災害時に発生する災害廃棄物	能登半島地震で大量の家屋が損壊し、公費解体・撤去の対応が生じた事例、「公費解体・撤去マニュアル」が策定され事務処理の円滑化が図られたことなど踏まえ、家屋の損壊、公費解体の想定について追記する。
4-8	焼却施設等の活用の検討（可燃物の処理）	自市町村内の施設、及びその搬入経路が被災して使用不可になる場合も想定して連携等を検討すべき点のほか、仮設焼却炉の活用事例に関するコラムを追記する。
4-11	生活ごみ等	体制を確保すべき関係者について補足を追記する。 （行政だけでなく、民間事業者との協力体制が重要である。）
4-14	災害廃棄物の運搬ルート・運搬手段等の確保の検討	離島における運搬の方針について追記する。